

令和4年度

青森県すこやか福祉事業団事業報告書

社会福祉法人青森県すこやか福祉事業団

(令和5年3月31日現在)

目 次

第1	事務局	1
第2	障害児入所施設八甲学園	14
第3	養護老人ホーム安生園	28
第4	障害者総合福祉センターなつどまり	36
第5	青森県長寿社会振興センター	59
第6	青森県発達障害者支援センター	63
第7	ライフサポートあおば	66
第8	就労サポートセンターさつき	75
第9	特別養護老人ホームすこやか苑	80
第10	就労サポートセンターはくちょう	86

第1 事務局（法人本部）

I 事務局（総務課・キャリア支援課）

1 概況

令和4年度は、令和元年度から続く新型コロナウイルス感染症の影響を最も大きく受けた1年だった。法人内の複数の施設・事業所でクラスターが発生し、通常の支援業務に大きな困難を与えたほか、入所施設における入所者数の減少や通所事業所における休業措置等による収入の減少や、衛生用品のさらなる購入による支出の増によって、経営状況にも打撃を与えた。

また、令和3年度末のロシアのウクライナ侵攻による国際情勢の悪化も終息する兆しが見えず、生活用品、食料品のみならず、電気代、燃料費についても大幅な値上げとなり、節制だけでは賄いきれないほど必要経費が増加した。

現在の基本計画については令和4年度で終了となるため、令和5年度からの新たな基本計画を策定した。上記のような厳しい状況を踏まえた上で、今後の法人の課題を見据えた具体的計画に取り組むこととした。

2 重点事項の実施状況

(1) 事務局総務課

① 安定した経営基盤の強化

令和4年度については、上述のとおり新型コロナウイルス感染症及びロシア・ウクライナ情勢による収支の悪化が大きく影響した。自治体（青森県・青森市）の補助金を申請し一部負担を補うことができたが、物価高騰の影響と入所率減少による収入の減により、大きな回復には至らなかった。これにより、法人全体で赤字となり、積立金を計上することはできず、当年度予算に前期末資金残高を充てる所属が多く見られ、今後の各事業の立て直しが喫緊の課題となった。

令和4年10月から、職員の社会保険加入条件が拡大変更となり、社会保険に加入する短時間勤務職員の増加により、人件費の負担が増加した。就労サポートセンターさつきにおいてはこの影響が顕著に見られ、職員不足による事業の収益減と併せて今後の事業継続を見直し、「就労継続支援事業A型」については令和5年3月をもって廃止とした。

② 次期「基本計画」の策定

現在の「基本計画」が令和4年度で終了することを踏まえ、令和4年度に法人内「基本計画策定委員会」を設置し、役員、事務局及び各所属担当者と意見を交換しながら、次期「基本計画」を策定した。

次期「基本計画」については、現在の「基本計画」と同様に3か年の期間とし、各所属の課題を洗い出ししながら、令和5年度から令和7年度までの各年度における課題に対する取組内容と収支計画を盛り込んだ。

また、「基本計画策定委員会」において、現在の「基本計画」についての振り返りも実施し、各所属とも概ね基本計画に則って事業を運営したことを確認した。

③ 会計監査人制度の導入準備

会計監査人制度については、「社会福祉法等の一部を改正する法律」により、法人の収益等の基準に則って段階的に実施されている。当初、平成31年（令和元年）4月から収益20億円を超える法人等、令和3年4月から収益10億円を超える法人等

が対象の予定だったが、現在はこの対象拡大が凍結された状態である。

厚生労働省が令和5年度から収益20億円を超える法人等を対象とする旨を提案している状況であるが、その結果は未だ明確にはなっておらず、当法人（令和3年度決算における収益が約19億7,600万円）も対象となる見通しが立たないことから、引き続き検討事項とし、今後も国の動向を注視したい。

また、会計監査人非設置法人には、法人の会計の質を上げるために「財務会計に関する事務処理体制の向上に対する支援」の努力義務が求められており、令和4年度内に税理士にこの旨を打診し、実施協力の了承を得ることができた。令和5年度には税理士に依頼して経理部門の中間精査を実施することを予定しており、その道筋を立てることができた。

④ ICT（情報通信技術）導入による業務改善の構築

給与関係の手続きにおいて、令和3年度に給与明細の電子送付を実施したところであるが、令和4年度は、試行的に一部の職員を対象に年末調整のweb上での申告を実施した。このことにより、関係書類のペーパーレス化や給与担当職員の業務軽減につなげることができたほか、申告手続きをする職員自身も書類作成の時間や手間を短縮することができた。今後はさらなる対象職員の拡大を実施していく。

また、事務局を中心にグループウェアシステムを導入し、役職員の細かいスケジュール管理を把握しやすくした。このシステムについては、スケジュール管理だけでなく、掲示板を利用して関係資料の閲覧等、素早い情報発信にも役立てた。今後は事務局だけではなく、各所属にもシステムを導入し、法人内の密な情報共有に努める。

（2）事務局キャリア支援課

① 人材確保

会社説明会は、当事業団に就職を希望する学生や求職者に対して直接情報発信をする機会である。新型コロナウイルス感染症の発生により、ここ数年の会社説明会はオンライン形式が主流だった。しかし、令和4年度は従来のような参加型の会社説明会增加し、自主開催2回を含む14回の会社説明会のうち、参加型は10回、オンライン形式は4回と、令和3年度の参加型4回、オンライン形式12回に比べて参加型の説明会が回復傾向となった。1回あたりの平均来訪者数は8.1人で、令和3年度の平均5人から増加した。オンライン形式に比べ、直接参加者に説明することで話に広がりを持たせることができ、より当法人の魅力を発信することにつながった。

採用試験については、近年、売り手市場を背景に学生の応募者数が減少傾向にあり、例年春に実施する一般公募Ⅰの応募者が初めて0人だった。また、6月に実施した一般公募Ⅰの第2回目の試験も応募者がなく、令和5年度新採用職員の確保が危惧された。しかし、高等学校新卒者を対象とした一般公募Ⅱに2年ぶりの応募者があり、新採用者1人を確保することができたほか、9月と11月に実施した一般公募Ⅰの第3回目と第4回目にそれぞれ応募者があり、最終的には9人の新採用者を確保することができた。また、令和3年度は新卒者の採用がわずか1人だったが、令和4年度は新卒者の採用が5人（うち社会人経験者2人）となり、組織の将来を担う若い人材を確保することができた。

一方で、令和3年度の一般公募Ⅰでは18人の応募があったが、令和4年度はその半分の9人しか応募がなかった。今後、より人材確保が困難となる中で、いかにして受験者数を増やしていくのかが大きな課題となった。

こうした課題を踏まえ、奨学金の貸与を受けて就学した学生に対して、正職員として採用となった場合に一定額の奨学金を支援する、青森県の「あおり若者定着奨学金返還支援制度」に当法人も登録した。令和5年度採用職員採用試験応募者のうち、この制度を利用する者が1人採用となっており、今後も制度について広く周知し、受験者の確保につなげることとする。

■一般公募試験の実施状況

(単位:人)

種別	区分	応募者数	合格者数	辞退者数	備考
一般公募Ⅰ	一次募集	0	0	0	応募者なし
	二次募集	0	0	0	応募者なし
	三次募集	5	4	0	
	四次募集	4	3	0	
	五次募集	0	0	0	応募者なし
一般公募Ⅱ	—	1	1	0	
一般公募Ⅰ・Ⅱ合計①		10	8	0	令和5年度採用者は8人
一般公募Ⅲ	—	1	1	0	すこやか苑支援員
		1	1	0	八甲学園看護師(※令和5年度採用へ)
一般公募Ⅲ合計②		2	2	0	
総計(①+②)		12	10	0	

※令和5年2月に実施したため、採用手続き等の関係上令和5年度採用となった。

【種別の説明】

種別	内容
一般公募Ⅰ	令和5年度採用予定の、大卒・短大卒・専門学校卒・高等学校既卒者対象の採用試験。
一般公募Ⅱ	令和5年度採用予定の、高等学校新卒者対象の採用試験。
一般公募Ⅲ	令和4年度中に採用する欠員補充のための正職員採用試験。

■内部登用試験の実施状況

(単位:人)

試験種別	応募者数	合格者数	備考
内部登用	3	1	R4. 11/24、11/29 実施

② 人材育成

「青森県すこやか福祉事業団人材育成計画」に基づき、新任職員研修、階層別研修、専門分野別研修など、カテゴリーに応じた研修を計画的に開催し、職員の資質向上に努めた。また、新任職員に対しては「新任職員育成研修プログラム」による人材育成を推進した。

新型コロナウイルス感染症のクラスター発生により、研修スケジュールの一部見直しが生じたが、概ね計画どおり実施することができた。

研修実績については、「令和4年度法人内研修実施状況」(P9)参照。

③ 人材定着

新採用者は、将来の組織運営を担う貴重な人材である。そのため、新任職員の育成やフォローを行う「エルダー制度」や、自身のキャリアの振り返りを行い、職員一人ひとりが仕事に対してやりがいを感じ、目標をもって仕事に臨むことができる

よう支援する「キャリア面談」を実施して、人材の定着に努めた。

ここ数年、「新採用者の退職0人」を目標に掲げている。令和3年度は、職員の健康上の理由や家庭の事情により新採用者2人が退職したため目標達成ができなかったが、令和4年度は新採用者の退職はなく目標を達成することができた。

④ 職場環境改善

新型コロナウイルスの感染拡大を機に、ICTを活用した業務が広がっている。これまで法人内で導入した事例や活用状況、運用上の課題などについて、職場環境改善委員会で話し合われた。法人内では、所属間で導入に向けた温度差があるものの、業務の効率化につながるなど導入するメリットの考え方が広がった。

事務局では、速やかな情報共有を図ることを目的にグループウェアを導入し、今後導入範囲を広げていくこととした。また、これまで紙ベースで処理していた年末調整事務をWeb上で行った結果、業務の効率化やペーパーレス化につながった。

当事業団では、様々な悩みを持つ職員が相談しやすくする仕組みとして、総合的な相談体制である「職場の保健室」制度を整備している。令和4年度も、職場の人間関係や職場環境に関する相談が複数件寄せられた。相談を通して、職員の悩みや職場の課題を把握することができたため、早期に問題解決や改善につなげることができた。

⑤ 情報発信

当事業団のホームページについては、令和3年度にアクセスした年間平均ユーザー数が672ユーザーだったが、令和4年度は595ユーザーと1割近く減少した。

サイトのページ別アクセスの内訳では、求人関係のページが全体の中で一番多く、求職者が関心を持っていることを示していた。そのため、採用に関するページを再構成し企業情報の発信に努めた。サイトへのアクセス数の増加のためには、まず福祉の仕事に対する関心を持ってもらう必要があるため、ホームページを使った情報発信のほか、学校訪問や学生への直接のアプローチなども並行して実施することの必要性を感じた。

3 職員の状況

職名	事務局長 (キャリア支援課長兼務)	総務課長	総務課 事務員	キャリア支援課 事務員	計(人)
職員数	1	1	3	2	7

※理事長、専務理事、常務理事を除く。

4 事業の実施状況

(1) 評議員会

事業団定款第9条～14条の規定に基づき、次のとおり開催した。

回及び開催時期	内 容
第11回評議員会 令和4年6月17日	①場 所：県民福祉プラザ3階「多目的室3A」 ②出席者：評議員5人、理事6人、その他10人 ③報告事項 報告第1号：令和3年度事業報告の件 ④議決事項 議案第1号：令和3年度計算書類及び財産目録（案）の承認の件 議案第2号：理事の選任（案）の件

(2) 理事会

事業団定款第23条～27条の規定に基づき、次のとおり開催した。

回及び開催時期	内 容
第28回理事会 令和4年5月31日	①場 所：県民福祉プラザ3階「多目的室3A」 ②出席者：理事6人、監事2人、その他8人 ③報告事項 報告第1号：令和3年度苦情等受付・解決状況について ④議決事項 議案第1号：令和3年度第7次補正予算（理事長専決分）の件 議案第2号：令和3年度退職給与積立金取崩（理事長専決分）の件 議案第3号：令和3年度事業報告書（案）の件 議案第4号：令和3年度決算書（案）の件 議案第5号：令和4年度第1次補正予算（案）の件 議案第6号：内部公益通報者の取扱いに関する規程（案）の制定及びこれに伴う職員就業規則（案）の一部改正の件 議案第7号：理事の改選（案）の件 議案第8号：評議員の改選（案）の件 議案第9号：第3回評議員選任・解任委員会の招集（案）の件 議案第10号：第11回評議員会の招集（案）の件
第29回理事会 令和4年6月17日	①場 所：県民福祉プラザ3階「多目的室3A」 ②出席者：理事6人、監事2人、その他3人 ③議決事項 議案第1号：業務執行理事の選任（案）の件 議案第2号：施設長人事（案）の件 議案第3号：「令和3年度青森市高齢者福祉施設感染拡大防止対策事業費補助金」に係る安生園工事の入札業者選定（案）の件
第30回理事会 令和4年9月26日	①場 所：県民福祉プラザ3階「共用研修室I」 ②出席者：理事6人、監事2人、その他3人 ③議決事項 議案第1号：令和4年度第2次補正予算（案）の件 議案第2号：育児・介護休業等に関する規則の一部改正（案）の件 議案第3号：準職員就業規則の一部改正（案）の件 議案第4号：経理規程の一部修正（案）の件
第31回理事会 令和4年11月8日	①場 所：県民福祉プラザ4階「多目的室3A」 ②出席者：理事6人、監事2人、その他8人 ③議決事項 議案第1号：令和4年度第3次補正予算（案） 議案第2号：「令和3年度青森市高齢者福祉施設感染拡大防止対策事業費補助金」に係る安生園工事の入札業者再選定（案）の件 議案第3号：新規事業所開設（案）の件
第32回理事会 令和4年12月8日	①場 所：理事会決議省略（みなし理事会）のため、集合なし ②同意者：理事6人のうち6人、監事2人のうち2人 ③議決事項 議案第1号：「令和3年度青森市高齢者福祉施設感染拡大防止対策事

	業費補助金」に係る安生園工事の随意契約執行の件
第 33 回理事会 令和 5 年 3 月 10 日	<p>①場 所：県民福祉プラザ 4 階「多目的室 4 B」</p> <p>②出席者：理事 6 人、監事 2 人、その他 8 人</p> <p>③報告事項 報告第 1 号：令和 4 年度行政監査の結果について 報告第 2 号：令和 4 年度福祉サービスの質の評価実績について 報告第 3 号：令和 4 年度末に廃止する事業について</p> <p>④議決事項 議案第 1 号：令和 4 年度退職給与積立金取崩（案）の件 議案第 2 号：令和 4 年度第 5 次補正予算（案）の件 議案第 3 号：年度開始前の契約準備に係る理事長専決について 議案第 4 号：基本計画（令和 5 年度～令和 7 年度）（案）の件 議案第 5 号：令和 5 年度事業計画（案）の件 議案第 6 号：令和 5 年度当初予算（案）の件 議案第 7 号：職員就業規則の一部改正（案）の件 議案第 8 号：経理規程の一部改正（案）の件 議案第 9 号：非常勤ホームヘルパー就業規則の一部改正（案）の件 議案第 10 号：県民福祉プラザ夜間事務補助員就業規則の一部改正（案）の件 議案第 11 号：専任党職員設置要領の一部改正（案）の件 議案第 12 号：令和 5 年度役員等賠償責任保険契約（案）の件 議案第 13 号：施設長等人事（案）の件</p>

(3) 各種監査・第三者評価

監査種別	実施日
①青森県すこやか福祉事業団監事事前出納監査	令和 4 年 4 月 25 日
②青森県すこやか福祉事業団監事監査	令和 4 年 5 月 9 日・10 日
③青森県すこやか福祉事業団内部監査 ・プラザ内事業所(事務局・プラザ管理室・長寿・発達) ・八甲学園 ・安生園 ・すこやか苑 ・なつどまり ・就労サポートセンターさつき ・ライフサポートセンターあおば ・就労サポートセンターはくちょう	令和 4 年 11 月 2 日・9 日 令和 4 年 10 月 6 日 令和 4 年 10 月 4 日・5 日 令和 4 年 10 月 12 日 令和 4 年 9 月 16 日・10 月 24 日 令和 4 年 11 月 14 日 令和 4 年 10 月 13 日・17 日・26 日 令和 4 年 10 月 21 日
④青森県東青地域県民局監査指導課による指導監査 ・事務局（社会福祉法人） ・八甲学園(施設入所)	令和 5 年 1 月 18 日 令和 5 年 1 月 19 日
⑤青森市指導監査課による指導監査、実地指導 ・ライフサポートあおば（デイすこやか） ・安生園 ・八甲学園(短期入所・サンハウス) ・すこやか苑	令和 4 年 12 月 2 日 令和 4 年 12 月 8 日 令和 4 年 12 月 12 日 令和 5 年 2 月 15 日

⑥福祉サービス第三者評価 ・就労サポートセンターさつき	令和4年11月24日
--------------------------------	------------

(4) 法人内会議・委員会

会議名	内 容
①所属長会議 (9回開催)	各所属と意思疎通を図り、既存事業の課題等の検証や新規事業の模索等について検討し、事業団の安定経営の推進に努めた。また、オンラインを用いて、感染症対策の情報共有を行った。
②総務担当者会議 (3回開催)	庶務、経理事務の適正化に向けた施策の確認、各種制度改正やそれに関する事務取扱に係る情報共有を行った。
③人材確保・育成委員会 (2回開催)	人材確保、育成、定着に係る取組状況についての情報共有を行ったほか、事業団の人材育成計画について検討した。
④職場環境改善委員会 (1回開催)	I C Tの活用による業務改善取組状況や、年休・特休の取得状況等、法人内の職場環境についての確認や情報共有を行った。
⑤監査委員会 (2回開催)	法人内の内部牽制の強化と、法定監査受検に対応できる人材の育成を目的とした内部監査実施に向けて、内容を検討した。委員会形式のほか、サービス種別(障害福祉、高齢者福祉)や、分野別(処遇、経理、運営管理)で「部会」形式の勉強会を実施した。
⑥基本計画策定委員会 (2回開催)	令和5年度から令和7年度(3か年)の次期基本計画(中期計画)について、内容や構成を検討し策定した。
⑦発達障害支援力強化事業検討委員会 (3回開催)	発達障害支援に関して、今後法人として計画的に人材育成を行うための仕組みを検討した。これに基づき、「発達障害支援力強化事業」を試行的に2事業所で実施した。
⑧環境整備委員会 (都度実施)	各施設の所有地の環境整備や薪用の原木の伐採、稲作支援等を実施した。

(5) 職員の福利厚生

非正規職員(一部を除く)を含む全職員を対象としてソウェルクラブに加入(掛金事業主負担)し、福利厚生の充実を図った。

また、法人認定のクラブ活動に対する助成金支援制度や、資格取得者に対する奨励金支給制度を実施した。

(6) 社会福祉事業団関連会議等

会議名	実施日	場 所	出席者
①ブロック事業団連絡協議会 事務局長会議	令和4年7月14日	オンライン開催	3人
②第1回ブロック事業団 連絡協議会	令和4年7月21日	オンライン開催	4人
③第55回全国社会福祉事業団 大会	令和4年10月27日 ～11月26日	オンデマンド配信	1人
④ブロック事業団連絡協議会 職員研修Ⅰ	令和4年11月29日	オンライン開催	2人
⑤ブロック年金代表者会議	令和5年1月27日	オンライン開催	2人

⑥第2回ブロック事業団 連絡協議会	令和5年2月16日	オンライン開催	3人
⑦ブロック事業団連絡協議会 職員研修Ⅱ	令和5年2月16日	オンライン開催	2人

5 研修の参加状況

(1) 外部研修

研修名	実施日	場 所	出席者
①内部通報セミナー	令和4年5月20日	オンライン研修	1人
②ノーリフティングケア管理者研修	令和4年6月9日	県民福祉プラザ	1人
③社会福祉法人運営の基本対策セミナー	令和4年6月17日	オンライン研修	1人
④年金委員研修会	令和4年6月20日	オンライン研修	1人
⑤福祉介護職員処遇改善新加算の申請・活用セミナー	令和4年6月23日	オンライン研修	1人
⑥インボイス制度セミナー	令和4年7月22日	オンライン研修	1人
⑦改正育児・介護休業法オンライン説明会	令和4年7月25日	オンライン研修	1人
⑧個人情報漏洩・サイバーリスクマネジメントセミナー	令和4年7月26日	オンライン研修	1人
⑨人手不足対策セミナー	令和4年7月29日	青森商工会議所	1人
⑩障害者職業生活相談員研修	令和4年8月29日	ポリテク青森（2日間）	1人
⑪健康保険・厚生年金制度改正説明会	令和4年9月14日	オンライン研修	1人
⑫全事協ブロック連絡協議会職員研修Ⅰ	令和4年11月29日	オンライン研修	2人
⑬企業向インターンシップ勉強会	令和5年1月20日	青森商工会議所	1人
⑭令和4年度処遇改善加算取得セミナー	令和5年2月3日	オンライン研修	1人
⑮経営協セミナー	令和5年2月13日	ウェディングプラザアラスカ	1人
⑯ノーリフティングケア実践報告会	令和5年2月15日	ホテル青森	1人
⑰障害者雇用納付金制度事務説明会	令和5年2月28日	オンライン研修	1人
⑱個人情報漏洩・サイバーリスクマネジメントセミナー	令和5年3月22日	オンライン研修	2人
⑲インボイス制度説明会	令和5年3月23日	ホテル青森	1人

※年度途中で事務局に異動してきた職員のうち、前所属に関して受講した研修は除く。

(2) 法人内研修

詳細については、別紙1「令和4年度法人内研修実施状況」（P9）参照。

(別紙1)「令和4年度法人内研修実施状況」

月	日	曜日	研 修	講 師	参加者 (人)
4	13	水	新任職員育成研修 I	(株)セミナー東北 鎌田昌子氏	8
	20	水	新任職員研修 (第1回目)	理事長、専務理事、事務局長、町田所長	7
5	11	水	交通安全研修 (前期)	青森モータースクール職員	6
	13	金			7
	18	水	初級職員研修	(株)セミナー東北 鎌田昌子氏	12
	23	月			6
	25	水	初級支援職員研修	ライフサポートあおば前中所長	5
	26	木			3
6	8	水	キャリア面談事前研修	キャリアカウンセラー石岡百合子氏	32
	10	金			19
	15	水	採用3年目職員レベルアップ研修	(株)セミナー東北 吉田 登氏	9
	23	木			7
	22	水	採用2年目職員フォローアップ研修	福土局長、町田所長	12
	28	火			5
7	6	水	新採用者研修	本堂理事長、福土局長、斎藤事務員	13
	11	金	新任職員研修 (第2回目)	理事長、事務局長、町田所長	3
8	1	月	中級職員研修	(株)セミナー東北 鎌田昌子氏	10
	9	火	上級職員研修	(株)セミナー東北 鎌田昌子氏	5
9	10	土	法人内実地研修 (見学研修)	法人内職員	2
	17	土			3
	29	木	ハラスメント予防研修	キャリアカウンセラー石岡百合子氏	18
10	11	火	内定者研修 I	理事長、専務理事、事務局長他	5
	13	木	メンタルヘルス及び障害 (精神) の理解促進研修	医療法人芙蓉会 村上拓也氏	14
	14	金	利用者支援理解促進研修(障害者)	町田所長	7
	18	火			7
	27	木	交通安全研修 (実践編)	青森モータースクール	11
	31	月	新任職員研修 (第3回目)	理事長、専務理事、事務局長他	5
11	10	木	利用者支援理解促進研修(高齢者)	医療法人芙蓉会 村上拓也氏	16
	14	月	虐待防止研修	青森大学 船木昭夫教授	11
	17	木	社会福祉法人経営実務検定2級講座	佐藤晃信税理士事務所	12
1	18	水	ラインケア研修	芙蓉会病院医師 堀内雅之氏	17
	25	水	(株)セミナー東北 大竹辰也氏	(株)セミナー東北 大竹辰也氏	10
	30	月	虐待防止研修	青森大学 船木昭夫教授	10
2	10	金	アンガーマネジメント研修	中野副所長	20
	14	火	交通安全研修 (後期)	外部 (保険会社担当者)	12
	17	金	内定者研修 II	理事長、専務理事、事務局長他	8
	20	月	虐待防止研修	青森大学 船木昭夫教授	16
	21	火	BCP研修	福土局長、渋谷総務企画監	22
	24	金	新任職員研修 (第4回目)	理事長、専務理事、事務局長他	3
	28	火	BCP研修	福土局長、渋谷総務企画監	13

II 県民福祉プラザ管理室

1 概況

県民福祉プラザの受託経営事業については、これまでと同様に円滑な貸館運営を実施し、自主事業においても事業内容を精査して実施した。しかし、新型コロナウイルス感染症の影響による貸館利用人数制限及び県民ホールの大規模修繕のため、来館者数は令和3年度に引き続き減少傾向だった。

2 職員の状況

職名	室長	事務員	夜間事務補助員	計(人)
職員数	1	5	2	8

3 事業の実施状況

(1) 県民福祉プラザ受託経営事業（指定管理受託事業）の安定的な運営

令和4年度は、令和3年度に引き続き新型コロナウイルス感染症による影響を大きく受けた年度であった。県民福祉プラザでは、国が策定したガイドラインに基づき、収容人数の制限や館内消毒作業、三密への呼びかけなど新型コロナウイルス感染症への対策を行ってきた。しかし、4月から10月までの8か月間は新型コロナウイルス感染症拡大防止対策として利用人数を半分に制限したほか、11月から3月までの5か月間は大規模修繕のため県民ホールの貸出し中止により、年度を通して利用件数及び利用者数は減少した。

また、社会情勢及び供給不足による物価高騰のため光熱水費が大幅に高騰した。入居団体や施設利用者への節電協力依頼、各所の水圧調整等様々な企業努力を続けてきたが、青森県からの委託料補填では賄いきれない状況であり、受託経営の収支が大きく圧迫された。

研修室等使用実績については、有料研修室利用者数延べ46,782人(計画比46.8%)、有料研修室利用件数2,617件(計画比87.2%)であり、利用人数が大幅に減少したが、8か月間の利用人数制限措置を考慮すると計画比に対し80.4%の需要があった。

詳細については別紙2「令和4年度県民福祉プラザ利用状況」(P13)のとおり。

(2) 県民福祉プラザ自主事業の積極的な運営

自主事業については、ヨガ教室及び健康教室は、新型コロナウイルスの影響による参加控えがあり定員に対し67%の参加人数だった。自主事業全体の売り上げは1,371千円の目標に対し、636千円にとどまった。しかし、将棋まつり及び新規に実施した夏休み工作体験及び冬休み工作体験は合計187人の参加があり、ボランティアによる世代間交流を図るなど、多様な世代に県民福祉プラザを利用してもらうことができた。

当事業団の各所属が有する福祉のノウハウを活用し、外部から講師を招請して県内福祉施設関係者、教育機関、家族等を対象とした講演会「顕在化しにくい発達障害について」、「発達障害のある青年・成人への支援について」をハイブリッド形式で開催し、計177人の参加があり、県民の福祉に関する理解促進に努めた。

エントランスホール活用については、新型コロナウイルスの影響により福祉施設の出店控えが目立ったが、青森県立郷土館との連携で実施した「青函連絡船のあゆみ」写真パネル展示及び県民福祉プラザ内の空スペースを活用したアート展においては、一

般来館者のほか入居団体職員からも好評を得た。

【自主事業イベント内容】

イベント名	期 間	延べ回数	延べ参加数	売 上
エントランスホール出店	令和4年5月17日から 令和5年3月17日まで	13回	17事業所	17,000円
健康教室	令和4年6月6日から 令和5年3月13日まで	16回	172人	86,000円
郷土館連携展（講演会）	令和4年7月24日	1回	28人	0円
夏休み工作体験	令和4年8月6日から 令和4年8月21日まで	8回	64人	38,400円
ヨガ教室	令和4年8月25日から 令和5年2月2日まで	18回	134人	134,000円
車椅子の詩人朗読ライブ	令和4年10月9日	1回	35人	17,000円
冬休み工作体験	令和4年12月17日から 令和4年12月24日まで	8回	49人	39,200円
将棋まつり	令和5年1月7日	1回	74人	103,500円
福祉に関する講演会	令和5年1月21日、 令和5年3月4日	2回	177人	123,500円

（3）福祉機器展示コーナーの充実と活用

2階福祉機器展示コーナーの展示物については、来館者に最新の福祉機器に触れてもらえるよう令和元年度より福祉機器の入れ替えを強化してきたが、令和4年度は介護分野に特化した物が多い中で、障害分野における展示の強化として頭部保護帽4点を新規導入した。

また、福祉用具専門相談員の有資格者を2人増とし、案内資料の作成や法人内理学療法士による勉強会を開催し、より充実した見学案内を提供できるよう整備した。

見学案内については、近隣小学校の生徒から高齢者までさまざまな年代を対象とし、年間で12件、193人を受け入れた。

4 研修の参加状況

研修名	実施日	場 所	出席者
福祉用具専門相談員オンライン講習会	令和4年5月12日 ～7月28日（全7回）	オンライン受講	2人
Web広報戦略コース	令和4年9月7日	オンライン受講	1人
チャレンジパソコン講座 「Wordの基礎を覚えよう」	令和4年9月15日～16日	中央市民センター	1人
チャレンジパソコン講座 「PowerPoint ステップアップ講座」	令和4年9月17日	中央市民センター	1人
特別産業廃棄物管理責任者に関する講習会	令和4年5月2日～11月9日 （オンライン受講期間）、 令和4年11月10日（試験）	オンライン受講 ウェディングプラザ アラスカ（試験）	2人

甲種防火管理者再講習	令和4年11月16日	消防合同庁舎	1人
社会福祉法人経営実務検定 2級講座	令和4年11月17日～18日	県民福祉プラザ	1人
きこえに関する講座	令和5年2月6日～20日 (全5講座)	オンデマンド配信受 講	2人
令和4年度あおもり介護ロ ボット・ICT導入支援セミ ナー	令和5年2月22日	オンライン受講	2人

(外部研修のみ)

(別紙2) 令和4年度県民福祉プラザ利用状況

No	研修室名	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	
1	県民ホール	利用件数(件)	15	12	17	25	13	17	23	0	0	0	0	0	122
		利用者数(人)	772	1,042	1,750	1,763	1,202	1,319	2,228	0	0	0	0	0	10,076
2	大研修室	利用件数(件)	12	22	21	15	18	26	32	21	23	13	20	17	240
		利用者数(人)	413	875	995	394	576	470	888	815	612	500	645	560	7,743
3	中研修室	利用件数(件)	15	21	26	10	18	24	27	22	19	16	19	16	233
		利用者数(人)	443	680	950	103	433	531	591	543	366	412	413	410	5,875
4	小研修室	利用件数(件)	17	23	26	35	19	28	26	27	26	17	22	25	291
		利用者数(人)	204	258	272	294	139	310	252	175	241	152	190	174	2,661
5	多目的室4A	利用件数(件)	14	22	28	24	19	18	22	25	18	12	16	20	238
		利用者数(人)	228	418	489	435	355	221	393	449	255	173	281	351	4,048
6	多目的室4B	利用件数(件)	8	13	23	16	13	18	26	17	16	10	12	20	192
		利用者数(人)	139	217	418	238	187	274	494	310	297	191	234	374	3,373
7	講師控室1	利用件数(件)	5	2	6	13	17	16	15	16	10	8	10	6	124
		利用者数(人)	16	4	15	31	35	45	28	33	14	10	12	15	258
8	講師控室2	利用件数(件)	1	13	13	5	12	9	13	12	8	9	11	5	111
		利用者数(人)	1	32	37	12	34	24	28	25	14	29	75	12	323
9	多目的室3B	利用件数(件)	8	14	14	22	18	33	26	21	19	7	15	13	210
		利用者数(人)	79	199	122	244	255	420	304	173	148	85	126	126	2,281
10	多目的室3C	利用件数(件)	14	18	23	26	24	30	25	25	17	15	15	19	251
		利用者数(人)	93	120	133	152	144	164	149	135	95	106	116	111	1,518
11	多目的室2A	利用件数(件)	10	12	20	25	19	26	28	21	19	9	13	12	214
		利用者数(人)	213	281	415	513	270	449	540	382	375	232	204	253	4,127
12	多目的室2B	利用件数(件)	23	21	28	30	34	36	31	28	26	27	24	34	342
		利用者数(人)	241	224	322	378	364	443	367	304	280	292	280	396	3,891
13	調理実習室	利用件数(件)	0	2	2	9	7	8	3	5	4	2	4	3	49
		利用者数(人)	0	13	30	123	91	107	50	50	53	17	40	34	608
合計		利用件数(件)	142	195	247	255	231	289	297	240	205	145	181	190	2,617
		利用者数(人)	2,842	4,363	5,948	4,680	4,085	4,777	6,312	3,394	2,750	2,199	2,616	2,816	46,782

【参考】

年度	利用件数	利用人数
令和3年度	702	13,810
令和4年度	2,617	46,782
増減	1,915	32,972
パーセンテージ	372.8%	338.8%

	利用件数	利用人数
計画数	3,000	100,000
実績	2,617	46,782
増減	-383	-53,218
パーセンテージ	87.2%	46.8%

【4～10月利用人数制限及び修繕によるホール貸出中止を考慮した場合】

4～10月ホール利用人数 10,076人×2(利用制限なしと仮定) = 20,152人 (①)

4～10月ホール以外利用人数 22,931人×2(利用制限なしと仮定) = 45,862人 (②)

(①÷7(稼働月数))×5(11～3月) = 14,394人 (③)

①+②+③ = 80,408人 (計画数に対して80.4%)

第2 障害児入所施設八甲学園

1 概況

八甲学園の運営にあたっては、コロナ禍にありながらも基本理念のもと、利用者の人権の尊重、利用者の有する能力に応じ、健やかな成長ができるよう、また、地域社会の一員として日常生活や社会生活が営むことができるよう、利用者や家族等の思いに寄り添い、利用者、家族、地域社会から信頼される施設運営を実施してきた。

障害児入所施設としては、今後の在り方や方向性を検討した上で令和3年度から変更した定員10人の定着を図るよう事業運営をした。併せて、多様化する地域住民の福祉ニーズの把握や学校、関係機関・団体との連携に努めながら、通所事業、共同生活援助事業における利用者獲得や利用率のアップ等に努め、建物の老朽化も含めた八甲学園全体のあり方や方向性を検討した。

また、働きやすい職場づくりの取組として、年次有給休暇の促進や時間外労働の削減、管理職やエルダーとの面談を含め、職場での話しやすい環境づくりに取り組み、職員のメンタル不調の早期発見・早期対応や、心身ともに健康でいきいきと働ける職場環境の整備に努めた。

引き続き新型コロナウイルス感染症の状況を見定めながら、地域や関係機関と連携し、より良質な福祉サービスの提供、地域のセーフティネットとしての役割を果たしていくように努めた。

2 職員の状況

		園長	企画監 課長	主任	副主任	支援員	看護師	栄養士	事務員	世話人	調理員	運転員 当直員	合計
園長		1											1
総務課			1		(1)		1	1	3			4	10
こども 支援課	入所		1		1	8							10
地域支援 第一課	生活		1		2	13	1						17
	相談			1	1								2
地域支援 第二課	就労		1			8					3		12
	GH				1	9 (4)				13			23
合計		1	4	1	5	38	2	1	3	13	3	4	75

※総務課副主任（ ）内は看護師。

※GH支援員のうち（ ）内は世話人業務兼務を含む人数、世話人（ ）内は世話人業務兼務支援員を含む人数。

※嘱託医及び嘱託職員は含まない。

3 職員研修

年間研修計画（法人内研修や施設内外の研修）に基づいた研修を実施し、職員全体の資質向上及び専門的な知識と支援技術の獲得を図った。

また、利用者の人権・生命を守るために、虐待防止、権利擁護、コンプライアンス、危機管理（救命救急、防災等）、リスクマネジメント、KYT（危険・予知・トレーニング

グ) に関わる研修の充実を図り、職員の人権意識等の向上に努めた。

4 行 事

月	全体	こども支援課	地域支援第一課	地域支援第二課
4	・全体会議	・全体会議 ・新職員交流会	・全体会議 ・事業所説明会資料送付 ・事業所大掃除（生介）	・全体会議 ・事業所説明会資料送付 (B型・グループホーム)
5	・横内清掃ボランティア ・平内清掃ボランティア ・苦情解決協議会	・横内清掃ボランティア ・児童月間(端午の節句) ・花見外出(ドライブ) ・粗大ごみ排出	・横内清掃ボランティア ・アニマルセラピー(生介)	・横内清掃ボランティア
6	・大掃除 ・地域防災懇談会 ・夜間総合消防訓練 (地域防災協力隊参加)	・大掃除ウィーク(2週間) ・掃除お疲れ会 ・夜間総合消防訓練 (地域防災協力隊参加)	・アニマルセラピー(生介)	・大掃除(B型) ・避難訓練(グループホーム)
7	・なつまつり	・なつまつり ・グループホームサハウス見学外出 ・夏休み行事	・なつまつり	・なつまつり (B型・グループホーム)
8		・スイカ割り・花火大会 流しそうめん大会 ・夏休み全体外出(ドライブ)		
9		・月見会		・収穫祭(B型)
10		・障害者スポーツ大会 ・ハロウィンパーティー	・事業所大掃除(生介) ・避難訓練(生介)	・避難訓練(グループホーム)
11	・土砂災害等防災訓練	・土砂災害等防災訓練 ・紅葉狩り(ドライブ)	・土砂災害等防災訓練	・土砂災害等防災訓練 (B型)
12	・大掃除	・大掃除ウィーク(2週間) ・クリスマス会 ・年越しそば会	・忘年会(生介) ・育成会クリスマス大会 (生介)	・大掃除(B型) ・忘年会(B型)
1		・新年会 ・新年駄菓子屋大会 ・おしるこ会		
2	・後期総合防災訓練 ・合同研究発表会 ・苦情解決協議会	・後期総合防災訓練 ・節分豆まき会	・後期総合防災訓練	・後期総合防災訓練
3		・ひなまつり ・卒業を祝う会 ・さようなら会	・慰労会(生介)	・慰労会(B型)
園 共 通 行 事 等	防災訓練	12回/年	①避難訓練(火災・土砂・地震想定) ②地域防災懇談会(中止) ③総合防災訓練(前期:40人) ④総合防災訓練(後期:80人) ⑤非常通報訓練(前期) ⑥非常通報訓練(後期)	
		1回/年(11/18)	①土砂災害等防災訓練(78人)	
	研修	随時	①職場内研修・研究発表 ②法人内研修(園内研修含む) ③法人外県内研修 ④法人外県外研修(主にオンライン研修)	
	広報活動	3回/年	①学園だより ②ホームページ ③リーフレット	
	ボランティア	—	新型コロナウイルス感染症対策により受け入れ実績なし	
実習受け入れ	随時	専門学校、短大、大学、計8校 実数13人		

5 健康管理

- (1) 感染症の予防対策として、新型コロナウイルス感染症ワクチン接種3回、インフルエンザワクチン予防接種、マスクの着用、手指消毒、手洗いうがいの励行を徹底し、行政通知やマニュアル等に沿って迅速な対応で新型コロナウイルス感染症を含む感染症の感染防止に努めた。
- (2) 入所児童については、体位測定（月1回）や健康診断（内科：年2回、歯科：年2回等）を定期的実施し、健康状態を的確に把握した。
- (3) 嘱託医、学校、家庭、グループホーム等との連携を強化しながら、疾病の早期発見及び早期治療に努めた。

6 安全・防災管理

利用者が安全で安心した快適な生活が送れるよう防災・安全管理対策として次の事項を実施した。

- (1) 月1回の防災避難訓練、年2回の総合防災訓練、年1回の土砂災害等防災訓練を実施した。また、グループホームは年2回（火災・風水害各1回）実施した。
- (2) 月1回園内リスクマネジメント委員会を開催した。
- (3) 防災担当者による自主点検及び法定点検を実施した。
- (4) 地域住民（八甲学園地域防災協力隊）の協力による夜間避難訓練（前期総合防災訓練）を実施し、地域住民との連携に努めた。

7 ボランティア・実習生の受入れ

- (1) ボランティアの受入れについては、新型コロナウイルス感染症対策により中止としたが、地域社会とのつながりや相互理解、施設運営の活性化とともに、福祉の担い手の育成を目指した取組であることから、青森市社会福祉協議会等関係機関との連携に継続して努めた。
- (2) 実習生の受入れに当たっては、次代の施設職員を養成するという人材育成の視点に立ち、真摯な対応に心がけ育成に努めた。

8 地域との連携

- (1) 地域に開かれた施設として、施設運営に関してさらに地域住民と連携し、コロナ禍の中、可能な限り地域貢献と地域交流促進に努めた。また、障害者の理解と社会参加促進に努めながら、共生・共助の地域づくりの推進に努めた。
- (2) 青森市との「福祉避難所の確保に関する協定」について、協定を継続した。
- (3) グループホーム利用者のうち、一定期間経済的支援が必要な方に対して、負担軽減等の実施など社会貢献活動の推進に努めた。

I こども支援課

【児童入所支援】

1 概況

入所支援においては、少子化及び在宅福祉サービスの充実、行政からの措置ケースの減少等により、近年においては入所利用児童の減少が顕著となっている。全国的に見ても、青森県内全体の障害児入所施設の定員は人口に対し供給過剰な状況にあるとともに

措置率も極端に低い状況にあることから、令和元年度から段階的に定員を削減し、令和3年度当初より定員を10人とした。

定員は削減したものの地域の社会資源として、地域や関係機関・団体との連携、良質な福祉サービスの提供を継続して行ったほか、一時保護の体制を維持し、地域のセーフティネットとしての役割を果たした。

2 重点事項の実施状況

(1) 安定的な事業運営

高等部卒業児童2人の成人サービスへの移行と新規児童2人の受入れを児童相談所等関係機関と連携し計画的に実施した。取得加算の再構築等により、令和3年度当初予算額比で約40,000千円超の収支向上をし、黒字化を達成した。

(2) 効率的なサービス提供

措置入所児童と契約入所児童の支援業務・方法等を明確にした。短期入所は、空床型であり、満床を維持していたことや感染症の状況も考慮した上で、結果的には受け入れしなかった。

(3) 各種マニュアル等の見直し

令和3年度までに整えたマニュアル等は、年間を通し会議等で見直し修正することで職員育成に活用するとともに業務に定着させた。

3 事業の実施状況

(1) 福祉型障害児入所施設

① 定員

10人

② 概要

学校や関係機関と連携しながら、入所児童の健全な成長・発達を目指した生活支援を行うとともに、将来の生活に必要な身辺自立及び社会自立に向けた支援、移行支援を実施した。また、強度行動障害児童へは指導訓練を、被虐待児童へは心理ケアと心理療法等を実施した。

③ 支援目標

ア 児童の人権を尊重し、心身ともに豊かな生活が送れるよう支援をした。

イ 児童の発達段階・状況に応じ、日常生活に必要な基本的な生活習慣の伸長に向けた支援をした。

ウ 児童が安全に安心して心豊かに暮らせるよう、家庭的な生活環境を整備し、児童の健康管理に留意した。特に衛生面については、徹底して取り組んだ。

エ 児童のニーズを的確に把握するとともに、個別性に配慮した支援計画に基づくサービスを提供した。

オ 個々の児童の意向や課題を踏まえた支援計画に基づき、家庭、学校、医療及び関係機関との連携を図りながら必要な支援をした。

カ 強度行動障害と判定された児童に対しては、医師や看護師、心理士等とも連携し、専門的な統一した支援を行い、行動障害の軽減に取り組むと同時に、職員の人材育成、技術習得をもとに支援の定着化を図った。

キ 被虐待児童への心理的ケアと支援の充実を図るため、当該児童に心理療法（心理検査、プレイセラピー、SST等）を実施した。

ク 地域交流を交えつつ地域の社会資源を活用し、個々に応じた自立生活ができる

よう社会性の向上と社会参加の促進を図った。社会体験等については計画に基づき実施し、児童から要望のあった行事等については、必要に応じて検討した。

(2) 短期入所事業（空床型）

① 定員

空床数による。

② 概要

障害児・者を介護されている家族の方が、病気、出産、冠婚葬祭、行事等の理由により一時的に介護ができなくなった場合に、欠員及び入所児童の帰宅等により空いた居室を利用し宿泊を伴う生活支援を提供する予定であったが、令和4年度においては、欠員がなかったことや、新型コロナウイルス感染症対策により受入れを見合わせ、実績はなかった。

③ 支援目標

ア 障害児・者が安全に、安心して過ごすことができるよう環境を設定し、健康状態に配慮した。

イ 家族の要望に対し、できるだけ添えるよう家族や関係機関等と相談・連携しながら支援を行った。

(3) 事業実施状況

項目	実施時期・回数	内容
生活支援	随時	① 社会体験学習 買物・食事・公共施設等（延50回）
	5月4日 5月8日 6/1～6/26日 6月24日 7月28日 中止 8月12日 8月17日 8月19日 9月25日 不参加 10月31日 11/14～12/18 不参加 12月23日 12月31日 1月4日 1月11日 1月13日 2月4日 3月11日	② 行事 ・端午の節句・春花見外出 ・横内清掃ボランティア ・大掃除ウィーク ・掃除おつかれ会 ・グループホーム（サンハウス）見学 ・ねぶた観覧 ・スイカ割り・花火大会 ・流しそうめん大会 ・夏休み全体外出 ・月見会 ・障害者スポーツ大会 ・ハロウィンパーティー ・大掃除ウィーク ・青森市手をつなぐ育成会クリスマス大会 ・八甲学園クリスマス会 ・年越しそば会 ・新年駄菓子屋会 ・新年会 ・おしるこ会 ・節分豆まき会 ・さよなら会
学卒児支援	年間	①園外活動：歩行訓練・作業活動 ②園内活動：身辺自立・清掃

就労支援	随 時	①学校の実習に協力 実習先訪問、金銭管理指導
強度行動障害 特別処遇事業	1回/月 2回/月/1人	・スタッフ会議 ・対象児1人にプレイセラピーを実施
健康管理	随 時 24回 2回 12回 0回 1回 2回 1回	①通院 ②精神科嘱託医の検診 ③内科嘱託医の検診 ④身長体重測定 ⑤フッ素塗布（中止） ⑥眼科検診 ⑦歯科検診 ⑧定期健康診断

II 地域支援第一課

【生活介護事業所はっこう】

1 概 況

生活介護事業所では、精神疾患、身体障害、自閉スペクトラム症、強度行動障害の利用者の障害特性に応じ、本人にとってわかりやすく生活しやすい環境設定を行うとともに、自信を持って取り組める日中活動の提供・身体機能の向上に向けた支援を行った。

2 重点事項の実施状況

(1) エリア拡張による支援の充実と収入の増

利用者の障害特性及び状態変化によるニーズ把握を行い、一人ひとりの特性に合わせた活動プログラムと個別化された支援を提供した。また、エリア拡張し障害特性やニーズに合わせた活動グループに分けたことで、様々なニーズに応じられる環境が整い、契約利用者の5人増及び利用日数の増により、年間平均利用率 100%超、年間収入約 21%（約 16,000 千円超）アップとなり目標を達成できた。

(2) 特別支援学校との連携強化

特別支援学校（第二養護学校・第一高等養護学校）との連携を強化し、産業現場実習生を積極的に受け入れ、アセスメントを丁寧に行ったことで、卒業生1人が令和5年度の新規利用契約に繋がった。

(3) 研修参加等による支援の質の向上

障害支援区分5以上で発達障害・強度行動障害の利用者が多く、利用者の障害特性に合わせた高い支援技術が必要であるため、Web研修をはじめとした専門研修を積極的に活用し、職員の専門的知識の習得とスキルアップのための研修参加を強化するとともに、職員研修計画と連動し、OJT、OFF-JTを継続した。

3 事業の実施状況

(1) 定 員

20人

(2) 概 要

主に障害支援区分5以上の障害の重い方・発達障害の方を対象に、日中活動の提供、

日常生活スキルの向上に必要な機能訓練を実施した。

また、環境や活動内容を工夫し利用者の持っているスキルを活かした生産活動、請負作業を行うほか、創作・余暇・運動・レクリエーションの活動プログラムを組み日中活動の充実を図った。

(3) 支援目標

- ① 利用者の障害特性に合わせた環境設定を行い、柔軟で自立的な活動ができるような視覚的支援、コミュニケーション支援を行った。
- ② 利用者一人ひとりの身体機能や障害特性、個別のニーズ等に基づいた個別支援計画を立案・実施し、本人が達成感と成功体験を積み重ねられるように取り組んだ。
- ③ 軽作業（リサイクル、法人内のリサイクル紙回収作業等）を実施し、日中活動の充実を図った。
- ④ 毎月、創作活動・調理・音楽やダンス・ゲーム活動・園外活動等の様々なレクリエーション活動を実施し、余暇と地域活動の充実を図った。アニマルセラピーについては、新型コロナウイルス感染拡大状況を考慮しながらの実施となり、年間を通して2回の実施に留まった。
- ⑤ 利用者のサービスを円滑に行うために関係機関、家庭との連携を深めた。また、園内他事業所とも連携し、機能を活用できるよう取り組んだ。

(4) 行事及び事業実施状況

① 利用者の状況

ア 定員 20人

イ 契約者数 28人

ウ 各月契約者数及び延べ利用人数

定員 20人	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
契約者数(人)	26	26	26	27	27	27	28	28	28	28	28	28	
開所日数(日)	20	20	22	21	21	21	21	21	21	19	19	21	247
延べ利用人数(人)	382	377	423	405	391	403	449	424	433	412	427	463	4,989

② レクリエーション活動（回数）

内容	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
創作	1	1	1	2	1	1	1	2	1	2	1	2	16
調理	0	2	2	2	2	2	2	1	1	1	2	2	19
音楽・ダンス	2	1	2	2	2	1	2	2	2	1	2	1	20
ゲーム	2	2	3	2	3	2	3	2	3	2	2	3	29

③ 外出・外部行事（忘年会・慰労会含む）

月	回数	外出内容・外出先
4月	1	Bグループ：個別外出（愛宕公園）
5月	3	Aグループ：おやつ外出（マックスバリュ浜田店）、園外外出（常福院） A、B、Cグループ：アニマルセラピー

6月	5	Aグループ：おやつ外出（マックスバリュ幸畑店）、園外外出（青森駅西口自由通路）、Bグループ：園外外出（ほたて広場）、Cグループ：園外外出（萱野茶屋）、A、B、Cグループ：アニマルセラピー
7月	3	Aグループ：おやつ外出（マックスバリュ幸畑店）、園外外出（モヤヒルズ）、A、B、Cグループ：（八甲学園なつまつり）
8月	3	Aグループ：おやつ外出（マックスバリュ幸畑店）、外出代替行事（ミニスポーツ大会）、Cグループ：園外外出（浅虫海水浴場）
9月	3	Aグループ：おやつ外出（マックスバリュ幸畑店）、外出代替行事（カラオケ大会）、Cグループ：園外外出（常福院）
10月	5	Aグループ：おやつ外出（マックスバリュ幸畑店）、園外外出（青森観光りんご園）、Bグループ：園外外出（青森観光りんご園）、Cグループ：園外外出（合浦公園）、（わくわくランド）
11月	2	Aグループ：おやつ外出（マックスバリュ幸畑店）、外出代替行事（ミニゲーム大会）
12月	4	Aグループ：おやつ外出（マックスバリュ幸畑店）、Cグループ：園外外出（マクドナルド西バイパス店）A、B、Cグループ忘年会（園内で開催）、青森市手をつなぐ育成会クリスマス大会
1月	3	Aグループ：おやつ外出（マックスバリュ幸畑店）、園外外出（善知鳥神社）、Cグループ：園外外出（八甲田神社）
2月	3	Aグループ：おやつ外出（マックスバリュ幸畑店）、個別外出（モヤヒルズ）Cグループ：個別外出（カラオケ合衆国）
3月	4	Aグループ：おやつ外出（マックスバリュ幸畑店）、慰労会（焼肉美食亭いわや）、Bグループ：慰労会（園内で開催）、Cグループ：慰労会（りんご日和）

④ 職員研修関係

法人内研修を初め、Webによる法人外研修等に多数の職員が受講し、専門的な知識や支援スキルの維持と向上に努めた。

⑤ 広報関係

パンフレットを作成し、市内相談支援事業所及び関係機関等に配布して利用の促進に努めた。

【相談支援事業所あおば】（指定特定相談支援、障害児相談支援）

1 概況

利用者やご家族がおかれている環境やニーズ等に応じた障害福祉サービス等をご利用いただくために、総合的な相談支援を行った。また、多様なニーズに応える包括的なサービス等利用計画を立てるために、地域の社会資源の開発を図り、行政や関係機関等と連携を図った。

2 重点事項の実施状況

(1) 質の高い相談支援の提供

専門研修への参加と丁寧な相談支援を実施した。また、資質向上のための研修を実施する体制の構築を図り、OJTにつなげ人材の育成を図った。指導的役割を担う主任相談支援専門員研修については、申込みをしたが受講決定とならなかった。

(2) 効率的な運営と事業の方向性の確立

障害児相談の新規受入れを積極的に進め、計画相談と障害児相談の比率を4：1とし、契約者数約200人を維持することに努め、効果的かつ効率的な運営と今後の相談支援事業所としてのあり方や方向性を確立した。

3 事業の実施状況

(1) 概要

- ① 障害者や障害児等が障害福祉サービスや障害児通所支援（児童発達支援や放課後等デイサービス等）を利用する前に、サービス等利用計画を作成し、一定期間ごとにモニタリングを行う等の支援を行った。
- ② 障害者等の福祉に関する全般の問題につき、障害者等からの相談に応じ、必要な情報（障害福祉サービス等）の提供及び助言を行った。

(2) 支援目標

- ① 利用者の人権尊重を基本とし、利用者やご家族の意向や選択を尊重しながら、利用者一人ひとりの能力、適性、ニーズ等に基づいたサービス等利用計画の作成を行った。
- ② 地域又は関係機関との信頼関係を深め、連携を密に行った。
- ③ 利用者やご家族が地域で安心して生活するために、権利擁護及び社会資源を活用するための助言、指導を行った。
- ④ 研修等への積極的な参加と自己研鑽に努め、相談支援専門員の資質の向上に努めた。
- ⑤ 圏域会議や市の連絡会議への参加を通じてネットワークの構築を強化し、相談支援専門員として情報の共有に努めた。

(3) 利用状況及び事業の実施状況

事業名	契約件数	サービス等 利用計画作成	モニタリング
①指定特定相談支援事業	151件	139件	338件
②障害児相談支援事業	40件	45件	79件

(4) 職員研修関係

- ① 青森市相談支援事業所連絡会議（主催：青森市）及び圏域会議に、行政及び他相談支援事業所との連携を図ることと相談支援業務に必要な情報収集を目的に参加した。

(ア) 青森市相談支援事業所連絡会議

期 日	場 所
令和4年4月21日	Web
令和4年7月4日	Web（地域相談連絡会）
令和4年12月22日	東地方保健所、ふれあいの館、（地域相談連絡会）
令和5年3月16日	Web

(イ) 圏域会議

期 日	場 所
令和4年4月15日	Web
令和4年5月27日	Web
令和4年6月24日	ハイブリッド（Webと対面であおばは対面参加）
令和4年7月29日	Web
令和4年8月23日	Web
令和4年9月21日	Web

令和4年10月27日	Web
令和4年11月24日	Web
令和4年12月23日	Web
令和5年1月26日	ハイブリッド（Webと対面であおばは対面参加）
令和5年2月24日	Web
令和5年3月23日	Web

- ② 法人内研修や県内外の各種研修を受講し、相談支援業務のスキル向上に繋げた。研修は対面及びオンラインやオンデマンド配信を積極的に活用し、受講した。

Ⅲ 地域支援第二課

【就労継続支援B型事業所はっこう】

1 概況

就労継続支援B型では、より魅力ある、選ばれる職場環境を整備し、個々の利用者の働く力に主眼をおいた支援を行うとともに、工賃向上のため、効率的かつ安定的な事業運営を行った。

2 重点事項の実施状況

(1) 支援の充実と高い利用率の維持

利用者の強みを伸ばす支援を支援計画に基づき行い、安全・快適な作業環境の提供に努め、平日の行事实施や開所日の日数増などで余暇支援の充実を図った。

多くの利用者が参加し、楽しんで活動できるよう取り組み、利用率については、100%を超える高い利用率（105%）を維持した。

(2) 作業班の効率的な運営体制の検討

リサイクル班（請負・菜果部門）では、職員配置を2人体制とし、OJTによる職員育成を図り、各作業について、複数の職員が内容を覚えることができるよう取り組んだ。また、作業支援マニュアルについて、見直しを行い、継続的な班活動を可能とし、安定的・効率的な運営に繋げることができるよう努めた。

(3) 利用者工賃の向上

令和3年度に平均工賃15,000円を達成したことから、令和4年度も継続して収益増を図り、工賃の向上に取り組んだ。

リサイクル班はアルミ缶買取り価格が継続して高騰していること、ショップ班はランチの売り上げが好調であったこと等の要因から、作業班の売り上げ状況は令和3年度に比較して計400万円程度上昇した。平均月額工賃は令和3年度の15,017円から15,207円へと向上した。

3 事業の実施状況

(1) 定員

20人

(2) 概要

一般就労が困難な方々に対して生産活動の場を提供し、就労に必要な知識及び能力の向上のために必要な作業支援を実施した。余暇支援の面でも、利用者のニーズに応じた様々な活動を企画し、利用者が参加しやすい環境を整えながら実施した。

(3) 支援目標

- ① 利用者一人ひとりのニーズに即した支援計画に基づき、強みを伸ばし、働く喜びを実感できる支援を行った。
- ② 作業場の清掃等維持管理に重点を置き、安全・快適に作業ができる環境を提供した。
- ③ 行事について、月1～3回程度の土日開所日を設けるとともに、より多くの利用者が参加できるよう平日に実施する機会を増やし、余暇活動の充実と社会参加の促進を図った。
- ④ 地域や関係機関等との連携を強化し、共生・共助の地域づくりに貢献した。また、事業所の機能を活かし、園内他事業所に作業見学・体験等の機会を提供し、連携に努めた。

(4) 生産活動の状況

① リサイクル班

青森市内の企業等及び合子沢町会、北蚩沢町会へ回収作業を行い、主たる収入源であるアルミ缶の回収量の維持・向上に努めた。また、地域との連携の一環として、北蚩沢町会の回収ボックスの洗浄(年2回)や、ボランティア団体『夢クラブ八甲田』としてのペットボトルキャップリサイクル活動に取り組み、令和4年度からは横内連合町会(10町会)での回収を開始した。

請負部門は、清掃、外部受注の作業を行った。清掃作業は八甲学園内の清掃を受け持ち、毎日の園内清掃に従事した。

農産部門は、畑作業で野菜等の栽培を行い、販売をするとともに、ショップ班の喫食事業の原材料として提供した。11月には新型コロナウイルス感染症対策に留意しつつ、県からの委託事業である「農福連携マルシェ」を開催した。

外部受注部門は、青森市パークメンテから受注した4か所(平和公園、奥野中央公園、浜田中央公園、野木和公園)の花植え、水撒き、除草作業や、県民福祉プラザの植栽管理と雪囲い、市内10か所のグループホームの除排雪を行った。

② ショップ班(県民福祉プラザ2F こだわりの店『つぼみ』)

喫食事業として1日限定40食のランチ提供と、共同生活援助事業所サンハウス入居者への食事販売を行った。また、メニュー・味・量等についての様々な意見をアンケート方式により把握し、より良い食事内容の提供に努めた。

共同受注窓口として県内の福祉施設で作られた製品の販売も行った。

(5) 事業実施状況

① 利用者の状況

区分	定員 20 (人)
令和4年度開始時利用者数	24(男18・女6)
令和4年度終了時利用者数	24(男18・女6)

② 各班の売り上げ状況

作業班	売上(円)
リサイクル班	12,243,618
リサイクル班(請負部門)	2,974,844
ショップ班	13,201,909
計	28,420,371

③ 工賃支給状況

区 分	金額(円)
1人あたり平均月額工賃	15,207

④ 行事等

月	レクリエーション (○開所日・●行事)	その他 (地域交流等)
4月	○グループホーム見学	
5月	○ドライブ (夏泊半島・ゆ～さ浅虫)	○横内合同清掃
6月	○地引網交流会 (サポセンさつき) ●大掃除	
7月	○八甲学園夏まつり参加 ○調理実習・ホットケーキ	
8月	○りんご狩り (青森観光りんご園)	
9月	○ボウリング (アオモリボウル) ○カラオケ (学園内) ●収穫祭	
10月	○青森ワッツ・バスケ観戦 ○あおもりシニアフェスティバル・ 世代間交流イベント ○温泉 (夜越山温泉)	
11月	○白鳥見学 (浅所)	
12月	○育成会クリスマス大会参加 ○調理実習・クレープ ●忘年会 (あじ菜) ●大掃除	
1月	○初詣 (諏訪神社) ○白鳥見学と入浴 (浅所・夜越山温泉)	
2月	○カラオケ (カラオケ合衆国)	
3月	○いのちの日・非常食作り ●慰労会 (道とん堀)	

※新型コロナウイルス感染症対策に配慮しながら開催した。

⑤ 職員研修関係

新型コロナウイルス感染症の影響により法人内研修への参加が中心となったが、外部開催の研修 (オンライン研修を含む) への参加機会も持ち、業務に必要な支援スキルの向上に努めた。

⑥ 広報関係

広報「八甲学園だより」に事業所の取組や行事等についての内容を掲載した。また、パンフレットを作成し、見学者や実習生等に配布した。

【共同生活援助事業所サンハウス】

1 概 況

共同生活援助事業所では、利用する入居者が社会の一員として自立した生活を送ることができるよう、社会資源の活用や地域の協力を得ながら支援を行った。

2 重点事項の実施状況

(1) 世話人の支援の質の向上

利用者が安心して生活できるよう、継続して支援の質の向上に努めた。新型コロナウイルス感染症の影響もあり外部研修への参加は困難であったが、OJT、OFF-JTに力を入れるとともに、グループホームごとの業務マニュアルを定期的に見直しながら効果的活用を図った。また、世話人業務の標準的な実施方法として、世話人業務マニュアル（共通）を整備し、周知した。

(2) 安定的な運営

利用者が定着、安定して生活できるようにニーズの把握に努め、対人関係や環境等に配慮した支援を行った。53人定員を維持し入居率100%を目標としていたが、令和4年度は52人でスタートし、年度中に入居者2人、退居者3人、契約者数は51人となり、年度中を通しての入居率100%は達成できなかった。

(3) グループホームの老朽化による移転及び物件の情報収集・選定の継続

特に老朽化の著しいグループホーム1棟について、移転先物件の情報収集・選定を継続して行った。数件の物件情報を得たが場所や建物の条件等から移転には繋がらなかったため、引き続き情報収集を行っていく。

3 事業の実施状況

(1) 定員

53人

(2) 概要

利用者が地域で自立し充実した生活を送ることができるよう、ニーズを的確に把握し、個別支援計画に基づいて支援員・世話人が共通認識を持ちながら、相談、食事の提供や金銭管理、健康管理、その他の必要な日常生活上の支援の提供に努めた。

(3) 支援目標

- ① 利用者の主体性を尊重し、意思やニーズに応じたサービスを提供した。
- ② 利用者が地域社会の一員として安心して生活できるよう、就労先や日中活動の場、相談支援事業所、市町村等の各種関係機関と連携し支援した。
- ③ 利用者の心身の状態を通院状況や健診結果等から把握し、医療機関等との連携に努め、健康管理に配慮した。
- ④ 食事提供において、栄養士監修によるバランスの取れたメニューの提供を行い、各グループホーム間のサービスの質の平準化と利用者の食事に対する満足度の向上を図った。
- ⑤ 防災計画に基づいた避難訓練を実施し、火災、風水害を含む各種災害への意識を高め、安全対策に取り組んだ。
- ⑥ コロナ禍の状況を見定めつつ、利用者の会「はっぴい」やあおもりグループホーム連絡協議会等の活動を通じて余暇活動の充実を図ることを目標としたが、感染拡大が収まらなかったことから、令和3年度に引き続き大人数での活動は限定的であった。
- ⑦ 見学・体験利用の受入れを積極的に行い、希望者に対し情報提供を行った。

(4) 事業実施状況

① グループホームの設置状況

名称(地区)	設置年月日	定員(人)
① サンハウス(緑)	平成5年 4月1日	6
② 第二サンハウス(蛍沢)	平成6年 4月1日	4
③ 第三サンハウス(新城)	平成8年 4月1日	5
④ 第五サンハウス(幸畑)	平成12年10月1日	6
⑤ 第六サンハウス(桂木)	令和3年 4月1日	5
⑥ 旭ハウス(大野)	平成21年 4月1日	5
⑦ 第二とうとうハイム(筒井)	平成22年 4月1日	5
⑧ おくのハウス(奥野)	平成25年12月1日	7
⑨ 紅葉ハウス(新城)	平成24年10月1日	5
⑩ 第二紅葉ハウス(新城)	平成25年11月1日	5
合 計		53

② 利用者の状況

内 容	定員 53 (人)
令和4年度当初利用者数	52 (男39・女13)
令和4年度内の利用終了者数	3 (男1・女2)
令和4年度内の利用開始者数	2 (男1・女1)
令和4年度末の利用者数	51 (男39・女12)

③ 行事等

月	内 容
6月	避難訓練(火災)全グループホーム
10月	コロナワクチン接種(4回目)
	避難訓練(風水害)全グループホーム
	避難訓練(洪水)サンハウス

④ 職員研修関係

新型コロナウイルス感染症の影響により法人内研修への参加が中心となったが、外部開催の研修(オンライン研修を含む)への参加機会も持ち、業務に必要な支援スキルの向上に努めた。世話人会議での研修実施や伝達研修も行った。

⑤ 広報関係

広報「八甲学園だより」に事業所の取組や行事等についての内容を掲載した。また、各グループホームの写真等を掲載したパンフレットを作成し、見学者や関係機関及び団体等に配布して事業所のPRに努めた。

第3 養護老人ホーム安生園

1 概況

安生園の運営にあたっては、各種法令及び当事業団職員倫理綱領を遵守するとともに、法人理念及び安生園の基本理念・基本方針に基づいて、常に利用者一人ひとりの意思と人格を尊重し、安心して充実した暮らし（生活）が続けられる生活支援と介護サービスの提供にあたってきた。また、安心できる生活環境を提供するため、建物の老朽化に伴う設備等の修繕と利用者の居住環境整備、新型コロナウイルス感染症予防対策に継続して取り組んできた。

人材不足が深刻化する中、福祉への理解や魅力を発信するため、養成校等の社会福祉士・介護福祉士資格取得に向けた実習受入れを、新型コロナウイルス感染症予防対策を講じた上で実施し育成を図った。

安生園と関連する市町村・地域包括支援センター・医療機関等との連携を密にし、新規利用者獲得に向けた情報発信等を図ってきたが、コロナ禍の影響もあり、安定的経営基盤の確保のための十分な利用者獲得には至らなかった。

2 職員の状況

所 属	養護老人ホーム	ヘルパーステーション	居宅介護支援センター	計（人）
職員数	26 (医師2人含む)	10	3	39

I 養護老人ホーム安生園

1 概況

養護老人ホーム安生園は、昭和26年の開設以来、老人福祉法の基本理念に基づいた施設運営と、利用者の権利擁護と意思決定を尊重し、個々の支援計画に基づいた生活支援に努めてきた。利用者の生活支援では、潤いと生きがいのある生活をしていただくため、個々に要望を聴き取るとともに自治会代表者会議等で意見を求め、各行事に要望等を反映させて生きがい支援の充実に努めた。

令和4年度の措置入所は7人（青森市7人）、退所は19人（青森市15人、弘前市1人、五所川原市2人、野辺地町1人）であった。利用者の高齢化（平均年齢80.8歳、80歳以上48人）により、介護を必要とする利用者は、要支援・要介護者合わせて52人となり、介護保険サービスの利用は、外部・内部・福祉用具貸与あわせて計110人（重複計上）であった。身体機能の低下のほか、認知症、病弱、精神疾患のある方や、DV、触法などニーズの多様化と複雑化が顕著であり、従来の見守り支援から、きめ細かな専門的な支援が必要となってきた。特に令和4年度は、7月に施設内で新型コロナウイルス感染症クラスターが発生し利用者の活動が制限されたことで、ADLの低下も著しくみられ、転倒防止用歩行器やシルバーカーの利用、福祉手摺りの設置などの対策を講じなければならない利用者が増えた。

リスクマネジメントでは、令和4年度のヒヤリハット・アクシデントが139件、うち76件が転倒であり、転倒怪我、無断外出、誤薬による措置機関への事故報告事案は23件となった。一つの転倒は大きな事故に繋がることから、利用者及び職員への注意喚起を徹底するなど転倒防止に努めてきた。また、病弱者の医療面においても早期から医療機

関と連携を図りながら利用者の健康と身体機能の維持に努めた。

地域交流については、新型コロナウイルス感染症対策のため、令和3年度に続き園行事などでの地域の方々との交流を実施することを控えた。

また、食品ロス軽減の『コープフードバンク活動』に賛同し、農産品の提供を受け、すこやか苑と共に活用し、利用者の食事やおやつとして提供することができた。

2 重点事項の実施状況

(1) 安定的経営基盤の確保

令和4年度は、年間平均利用者数95.5人を目標としたが、コロナ禍による入所申込者の減少に加え、園内クラスターの影響による利用者のADLの低下と疾病の進行に伴う入院や施設移行による退所者が増加し、当初の目標に対し年平均89.3人と下回り、約11,815千円の措置費収入の減となった。

利用者獲得に向けた青森市全域の公営住宅のポスティング活動のほか、「安生園入所案内ファイル」を作成し、市内の全地域包括支援センター、関係病院医療連携室等を訪問・配付し理解と周知を図るとともに、空床状況を居宅介護支援事業所や関係機関に随時FAX送信して利用者獲得を目指したものの、十分な利用者獲得につながらなかった。

(2) 住環境の整備

既存施設の長寿命化に向けて、耐用年数を迎えたA重油地下タンクFRP内面ライニング工事、耐用年数を経過した変圧器の交換工事、ボイラー付帯設備の交換、厨房設備の入替え等、コストの掛かる修繕の実施を行った。

また、利用者の住環境の整備に重点を置いた居室リフォームを随時実施した。

(3) 感染症対策の強化

感染症対策委員会を設置し新型コロナウイルス感染症等による感染拡大防止に努めていたが、7月から8月にかけて施設内クラスターが発生し利用者60人、職員13人、委託4人の計77人が新型コロナウイルスに感染した。青森市保健所による現場視察指導の下、施設の特徴を踏まえ、訪問介護事業所等や外部サービス事業所、関係機関等との情報共有を図り、感染拡大防止に努めた。

また、青森市介護施設等における感染拡大防止対策事業補助金事業による施設整備を実施し、松寮エリアのゾーニング及び静養室・集会室に陰圧装置設置工事を行った。

(4) フレイル予防の実施

新型コロナウイルス感染症の影響により利用者が活動制限せざるを得ない状況が続く、利用者のADLの低下が顕著に伺われた。

今できることを主に、利用者に対し紙芝居や寸劇、創作活動など、興味関心を持つ内容を企画し積極的な参加を勧めた。また、転倒予防体操やフレイルNO園、園芸活動への参加を勧め、体力の維持向上に努めた。嗜好調査や給食会議等で利用者の意見を反映させた食事の改善や健康メニューの提供を行い、生きがいづくりに努めた。

(5) 非常災害対策の強化

安生園災害マニュアルを基に、非常災害時の炊き出し訓練と風水害を想定した訓練を実施した。炊き出し訓練も定着してきており、利用者へ円滑に食事を提供することができた。また、風水害を想定した訓練では、利用者に対し風水害における学習会を開催し意識の向上を図った。職員に対しては簡易担架を使用しての昇降時の搬送方法等の手順確認等を行い、有事の際に対応できるよう訓練を行った。

(6) 認知症ケアの充実

認知症理解促進に向けた認知症サポーター養成講座、認知症事例研修会を開催した。認知症診断を受けている利用者や認知症傾向にある利用者が増加しており、状態把握に努め、ケアが必要な利用者に対し、職員が統一したケアに取り組み、心身の健康維持とQOLの維持に努めた。

3 職員の状況

職名	園長	総務課長	栄養士	看護師	事務員	専任当直員	嘱託医
職員数	1	(1)	1	2	3	3	2
職名	高齢者支援推進監 (主任生活相談員)	高齢者支援課長 (生活相談員)	生活相談員	支援員 (主任支援員)	支援員	業務補助員	合計(人)
職員数	1	1	2	1	7	2	26

4 利用者状況

(1) 入退所者数

① 定員	100人
② 令和3年年度末現在の利用者数	95人
③ 令和4年度内退所者数	19人
④ 令和4年度内入所者数	7人
⑤ 令和4年度末現在の利用者数	83人

(2) 市町村別入退所内訳等

	内訳	事由
入所 計7人	・青森市7人	・在宅者5人 ・病院退院者2人
退所 計19人	・青森市15人 ・弘前市1人 ・五所川原市2人 ・野辺地町1人	・施設移行13人 ・死亡5人 ・長期入院1人

(3) 介護保険認定状況

未認定	要支援	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	計(人)
31	8	21	18	5	0	83

※入所利用者の高齢化が進み、生活援助などの何らかのサービスを受ける利用者は52人。

(4) 介護サービス利用状況

項目	サービス内容	利用者数
外部サービス	デイサービス、ヘルパー	34人
内部サービス	ヘルパー、福祉有償運送	45人
	計	79人

5 入所相談・見学状況

問合せ相談件数	216件	包括支援センター・医療連携室・対象者及び家族等
安生園見学件数	38件	うち、入所になったケースは7件

6 事業の実施状況

(1) 行事等

名 称	実施時期等	参加人数	備 考
各寮懇談会	月 1 回	延 432 人	
音楽療法			※新型コロナウイルス感染症対策中止
観桜会	4/25	64 人	※安生園利用者と職員開催
3 B 体操			※新型コロナウイルス感染症対策中止
自治会代表者会議	年 4 回	延 28 人	
コーヒーサロン	年 2 回	延 90 人	※新型コロナウイルス感染症対策により職員が対応
ビデオ上映	4 回	延 73 人	※新型コロナウイルス感染症対策により不定期開催
出張販売 (6 業者)	週 1~2 回	延 218 回	ヤクルト・生協・キキ・東洋社他
利用者との集い (4 月)	4/1	64 人	転入職員紹介
自治会総会	4/1	64 人	
輪投げ大会	6/24	50 人	※安生園利用者と職員開催
地域交流懇談会			※新型コロナウイルス感染症対策中止
納涼夏祭り			※新型コロナウイルス感染症対策中止
盆墓参り	8/5	6 人	※安生園利用者と職員開催
敬老会	9/16	祝賀会 84 人	※安生園利用者と職員開催
市内遊覧			※新型コロナウイルス感染症対策中止
7 日日ねぶた観覧			※新型コロナウイルス感染症対策中止
ミニ運動会	3/9	50 人	
リフレッシュ日帰り旅行			※新型コロナウイルス感染症対策中止
文化祭	11/2	49 人	※安生園利用者と職員開催
年忘れお楽しみ会	12/15	72 人	※安生園利用者と職員開催
新春お楽しみ会	1/18	77 人	※安生園利用者と職員開催
節分豆撒き	2/3	44 人	※安生園利用者と職員開催
物故者慰霊祭	3/6	21 人	※正覚寺住職
マグロ祭り	3/15	72 人	※安生園利用者と職員開催
利用者との集い (3 月)	3/24	50 人	※転出職員紹介
紙芝居	13 回開催	延 383 人	図書委員会フレイル予防

(2) クラブ活動

名 称	実施回数	参加者数	備 考
茶道			※新型コロナウイルス感染症対策中止
華道			※新型コロナウイルス感染症対策中止
書道			※新型コロナウイルス感染症対策中止
チェアヨガ			※新型コロナウイルス感染症対策中止
農園芸	不定期開催	延 60 人	※安生園利用者と職員開催
大相撲星取り	年 5 回	延 75 人	※夏場所中止
カラオケ			※新型コロナウイルス感染症対策中止

(3) 地域交流

- ① 町内会交流 ※新型コロナウイルス感染症対策により中止
- ② 交流 (慰問) ※新型コロナウイルス感染症対策により中止
- ③ 招待活動状況 ※新型コロナウイルス感染症対策により中止
- ④ ボランティア等の受入れ状況 ※新型コロナウイルス感染症対策により中止

(4) 保健衛生

内 容	実施時期等	人数等	備 考
身長測定	年 1 回 4/14	全員	
血圧・体重測定・検温	月 1 回	全員	
入浴	週 3 回	全員	男性：月・水・金 女性：火・木・土

通院（村上病院他）	週間計画表により実施	対象者	
結核健診	4/14	93人	（青森県総合健診センター）
春・秋の基本健診 （理学的検査・尿・血液・心電図）	5/11	91人	（青森県総合健診センター）
	11/16	84人	（青森県総合健診センター）
歯科検診（前期）	4/6・4/13・4/20	88人	（北川歯科医院）
歯科検診（後期）	10/12・10/19・10/26	86人	（北川歯科医院）
歯科衛生指導	9/22・9/29・11/10・11/1	54人	（青森県歯科衛生士会青森支部）
内科問診及び インフルエンザ予防接種	11/9	82人	嘱託医（駒井胃腸科内科）
新型コロナウイルス ワクチン予防接種	1回目 5/26	94人	巡回接種（施設接種） （佐藤内科クリニック）
	2回目 6/16	94人	
	3回目 2/2	97人	
	4回目 9/14・11/25	90人	
	5回目 1/25・3/6	73人	
嘱託医による医療相談	月2回	対象者	内科（駒井胃腸科内科）
嘱託医による診察	月1回	対象者	精神科（つくしが丘病院）
感染症対策委員会	4回		
春の大掃除	6月		窓・網戸清掃等
秋の大掃除	12月		暖房・各居室清掃等

※新型コロナウイルスワクチン予防接種にあたっては、青森市保健所と調整し、巡回接種方式で実施した。

(5) 防災訓練及び安全対策

内 容	実施時期等	参加人数	備 考
交通安全教室			※新型コロナウイルス感染拡大防止対策のため中止
夜間想定防災訓練	7/13	60人	※新型コロナウイルス感染拡大防止対策のため、地域防災協力隊は不参加
夜間防災訓練	3/22	67人	※新型コロナウイルス感染拡大防止対策のため、利用者と職員で実施
災害時炊き出し訓練	10/27	45人	※新型コロナウイルス感染拡大防止対策のため、利用者と職員で実施
風水害訓練	1/26・1/27	49人	利用者学習会・職員訓練

※新型コロナウイルス感染症対策により、安生園利用者及び職員での訓練とした。また、開催時期についても、青森市の感染状況を見ながらの実施とした。

(6) 職員研修関係

内 容	実施時期	参加人数	備 考
終末期在り方・認知症ケア研修	4/20	13人	
認知症サポーター養成研修	6/9	16人	青森明の星短大 棟方先生
介護保険研修	9/28・10/31	18人	居宅あんじょう 三上管理者
口腔ケア研修	2/27	12人	歯科衛生士会 濱田専務理事
利用者支援理解促進研修	11/10	18人	芙蓉会病院 村上院長他
虐待防止と権利擁護	1/26	9人	
安生園職員研究発表会	2/1	20人	

(7) 苦情解決事業関係

内 容	実施時期等	備 考
第三者委員相談	月1回	※相談申込者なし
苦情解決協議会	（年4回） ※実施回数3回	※第1四半期新型コロナウイルス感染症予防対策のため中止

【実施状況】

受付件数	解決件数	繰越件数
延0人	0件	0件

※ 令和4年度は、利用者・家族からの苦情相談は無かった。

(8) 実習・実務研修等受入 ※感染対策を講じた上で受入れを行った。

依頼元 (実習内容)	受入期間	人数
青森明の星短期大学 (介護福祉実習Ⅱ-A)	9/7～9/26	1人
東北福祉大学通信教育部 (社会福祉援助技術実習)	7/4～7/12・ 10/3～10/20	1人
青森県立保健大学 (ソーシャルワーク実習Ⅰ)	10/31～11/16	1人
青森県立保健大学 (社会福祉基礎実習1年生)	7/5・7/6	8人
青森県立保健大学 (ヘルスケアマネジメント実習)	10/12	3人

※将来の担い手となり得る実習生を積極的に受け入れし、知識習得に貢献するとともに福祉への理解を求めてきた。

(9) 食品ロス軽減活動

月 日	提供生鮮食品類	使用用途
4月 18日 (月)	◎根菜類系 (白菜、ほうれん草、サニーレタス、人参ジャガイモ・里芋、青梗菜、蓮根等)	安生園・すこやか苑に入所する方々への食事提供食材や、おやつとして提供し活用した。
5月 23日 (月)		
6月 20日 (月)	◎フルーツ系 (バナナ、キウイ、リンゴ、ぶどう等)	
8月 29日 (月)		
10月 3日 (月)	◎キノコ系 (椎茸、しめじ、えのき、なめこ等)	
11月 7日 (月)		
12月 12日 (月)		
1月 23日 (月)		
2月 27日 (月)		

※コープフードバンクは品質に何ら問題ないものの、やむなく廃棄されてしまう食品を無償で提供を受け、支援を必要とする福祉分野の施設・団体に必要な食品を寄贈し食べられる食品を有効に活用する活動である。安生園でもこの趣旨に賛同し定期的に食品の提供を受け、利用者の方々への食事提供へ有効活用している。

II 老人居宅介護等事業安生園（ヘルパーステーションあんじょう）

1 概要

訪問介護事業所は、安生園内新型コロナウイルス感染症クラスター発生や入院に伴うサービスキャンセル、コロナ禍による外部サービスの自粛により令和3年度実績を下回る結果となった。

福祉有償運送事業においては、介護保険外サービスである福祉タクシーで、年度当初から運転免許二種の所持者が不在になったことと、7月発生の安生園新型コロナウイルスクラスターの影響で11月まで稼働できず、減収となった。

2 重点事項の実施状況

(1) 安定的経営基盤の確保

訪問介護事業は、平均利用者数が月54人と目標の65人には届かなかったが、居宅あんじょうと外部居宅事業所より新規の受入れとサービス追加の依頼があり、10人の新規利用者と契約した。

要介護利用者数は、前年比延べ286人減、収入では1,389千円減となった。介護予

防利用者数は、前年比 302 人減、収入で 860 千円減となり、合計 2,249 千円の減収となった。また、安生園内でサービスを利用されている方の要介護化が進み、サービス追加等のニーズが高まったため、非常勤ヘルパー 1 人を求人したものの補充できず、ニーズに応えられなかった。

福祉有償運送事業では、介護タクシーで前年比 188 千円減、福祉タクシーで前年比 61 千円減となり合計 250 千円減となった。

(2) 職員の質の向上

令和 4 年度は、職員の離職はなかったが、求人に応募がない状態が続いた。

事業所内研修を毎月実施したほか、外部研修も受講し職員のスキルアップを図った。

3 職員の状況

職名	管理者兼サービス提供責任者	サービス提供責任者	訪問介護員	計(人)
職員数	1	1	8	10

4 事業の実施状況

(1) 訪問介護・介護予防訪問介護事業

合計		訪問介護		予防介護	
延利用人数(人)	請求書発行額(円)	延利用人数(人)	請求書発行額(円)	延利用人数(人)	請求書発行額(円)
6,773	26,078,304	6,425	24,854,104	348	1,224,200

(2) 福祉有償運送事業

	福祉タクシー	介護タクシー
走行距離(km)	79.0	2,006.7
利用人数(人)	14	688
輸送回数(回)	14	715
収入(円)	20,280	229,600
収入合計(円)		249,880

Ⅲ 居宅介護支援事業安生園(居宅介護支援センターあんじょう)

1 概要

新型コロナウイルス感染拡大防止対策のため新規利用者獲得のためのPR活動は実施できず、外部利用者の訪問やカンファレンスを工夫して業務にあたった。

令和 3 年度から募集していた介護支援専門員に応募者がなく、年度開始から主任介護支援専門員を含む介護支援専門員 3 人体制となり、特定事業所加算Ⅱを取得することができなかった。また、収支面ではコロナ禍によるサービス利用者減少や契約者の死亡などの影響を受けた。

研修会等も、主催者団体等が感染状況を見極めながらの受講案内となり、主に zoom を活用してリモート研修などの受講を進めた。

2 重点事項の実施状況

(1) 安定的経営基盤の確保

3人体制で特定事業所加算Ⅱを取得できなかったこともあり、要介護者のケアマネジメントを集中して行ったものの、前年度比延べ1,107人に対し1,010人と97人減となり、居宅介護支援費では153千円の減収となった。

(2) 職員の資質向上

新型コロナウイルス感染症の影響もあり、オンラインでの外部研修の受講を進めるとともに、毎週の定例会議を利用して「介護保険法」等の制度理解と事例検討会を繰り返すことにより、職員の資質向上を図った。

また、長期間にわたる専門研修課程である介護支援専門員更新研修に2人受講し、介護支援専門員の資格継続に努めた。

3 職員の状況

職名	管理者 (主任介護支援専門員)	介護支援専門員	計(人)
職員数	1	2	3

4 事業の実施状況

合計		居宅介護計画		予防介護計画		認定調査	
延利用 人員(人)	請求書発 行額(円)	延利用 人員(人)	請求書発 行額(円)	延利用 人員(人)	請求書発 行額(円)	延利用 人員(人)	請求書発 行額(円)
1,010	17,226,290	1,010	17,226,290	0	0	0	0

第4 障害者総合福祉センターなつどまり

1 概況

令和4年度の運営にあたり、法令遵守の徹底と権利擁護を推進するとともに、様々な社会資源等を活用し、利用者が生きがいを持って楽しく安心して快適な生活を送ることができるよう、家族や関係機関等と連携しながら、より充実したサービス提供に取り組んだ。

経営基盤の安定を図るため、法改正や社会情勢を把握しながら、利用者及び職員の確保に積極的に取り組むこととしていたが、コロナ禍のため、しらかば寮・さつき寮の両施設とも担い手の確保はさらに厳しい状況となり、利用者の確保においてもしらかば寮では長期的に欠員が発生することとなった。

特に、年度当初から、新型コロナウイルス感染症流行の猛威を受け、12月までで4回（しらかば寮3回、さつき寮1回）のクラスター発生という事態となった。そのため、都度「早期収束」を最優先で対応すべく、ゾーニングやコホーティングを行うとともに、保健所と連携し感染防止対策全般について取組を強化したことから、収束に向かうことができた。

一方、感染症対策に必要な備品・消耗品や物価高騰による光熱水費の増大の影響は大きく、とりわけ当センターはオール電化の建物であることから、電気代が前年度比で1.5倍まで膨らんだ。また、建物設備では、外壁のひび割れや給湯器の故障、消火栓の散水栓破損、空調ドレン配管洗浄、エアコンの故障など、経年と共に修繕費用も増え経営を大きく圧迫した。

このようにコロナ感染の収束や拡大が繰り返される中で、生活や行事のほか、家族とのふれあい、地域交流活動等の取組に制約を課された1年となり、人材確保・定着、節電、コスト管理については、更に深刻な課題となった。

2 重点事項の実施状況

(1) 感染症の予防対策と拡散防止の徹底

① 日常の感染症対策の徹底（非接触検温器等ウイルス対策キットの活用）

手洗い・うがい・手指消毒のほか、非接触検温器を活用した毎日の検温の実施に加え、クラスター発生後には職員の健康管理票による体調確認の徹底強化、また、同居家族等の感染把握、県外移動後の出勤困難休暇取得等の対応を取りながら感染予防に努めたが、結果的にクラスターが4回発生した。拡散規模は発生ホームにより大小であったが、改めて感染者が確認された場合の初動対応等の見直しを行い、迅速なゾーニングやできる限りの感染防止策により拡散を最小限に留まるよう努めた。

② 新型コロナウイルス予防ワクチン接種等の推進

産業医の協力を得て、利用者、職員、委託業者も含めた希望者全員が5回目までのワクチン接種を実施した。

③ 感染者発生時の旧館活用及び備蓄、備品の管理徹底

感染者発生時や宿泊所として旧館を利用するための備品補充やPC使用のための環境、冷暖房等の設備も整備していたが、実際の利用で一部に不備があり修繕工事を行った。両施設で同時期にクラスターが発生した際には、簡易トイレ等の備品を相当数準備しておいたことで何とか対応することができた。

(2) 人材の育成及び定着

① 人事評価制度の運用を通じた人材の育成（定期的面談及び業務の進捗状況の把握

と助言)

評価のフィードバックを含めた定期的面談や業務の進捗状況の把握と助言を行い、職員の育成と定着に努めた。採用1年目から3年目の離職率は4.7%、新採用の離職率は0%となった。なお、新採用のみならず、育児・介護・治療との両立をしながら仕事をする上での相談や支援も人材の定着には課題となった。

- ② 人材確保における事業所からの情報発信の工夫（求人チラシ内容や実習・インターンシップでのPR）

新型コロナウイルス感染症流行により実習やインターンシップの頻度は少なかったものの、実習生への懇切丁寧な対応やPRに努めた。求人チラシ内容については、文字数を少なくし見やすく印象の良いものに配布した。また、問合せがあった際は、施設見学を実施し施設の状況を知ってもらいながら応募され、結果採用に繋がった。

- (3) 生活支援サービスの充実及び生活支援環境の整備・向上

- ① 家族との面会、外泊、行事等の見直しを含めた生活様式の改善

家族との面会（オンライン面会・ガラス越し面会）や行事の小規模化とともに、移動販売等の活用、買い物、ドライブ、調理実習等を定例的に開催した。さつき寮においては、クラスター収束後に一時帰省を実施した。

- (4) 働きやすい職場づくり

- ① 活気あふれる職場づくり（挨拶の励行、笑顔での対応の徹底、5S運動（整理・整頓・清掃・清潔・整容））の継続

四半期ごとにテーマを決め、ポスターの掲示や朝会等で周知徹底し、職員への意識付けを図るとともに、職場環境の改善に努めた。

- ② 総実労働時間の短縮（休暇の取得促進と時間外勤務の縮減）

年次有給休暇5日に加え、リフレッシュ休暇の取得推進と業務の効率化により時間外勤務の縮減に努めた。ただし、人材不足に加え新型コロナウイルス感染症クラスター発生により、時間外勤務が増加した。

- ③ 労災事故0件を目指す

労災事故は、新型コロナウイルス感染症36件、利用者支援中3件、退勤後敷地内2件、通勤途中1件で計42件発生した。特に、新型コロナウイルス感染症クラスター発生によるものについては、予防対策と感染防止対策を講じた上でも拡散してしまった結果として、入所施設としての感染元は職員含む外部からであるため持ち込まない対策の強化徹底に努めた。利用者支援中の事故等については、毎月のリスクマネジメント委員会で対策を検討しながら再発防止に努めた。

3 職員の状況

所 属 (職員数)	所長	寮長	課長	主任	副主任	支援員	看護師	事務員	栄養士	運転員	専任 当直員	合計 (人)
総務課	1		1					2	2	1	3	10
しらかば寮		(1)	2	3	3	41						49 (1)
さつき寮		1	1	1	2	22	2					29
合 計	1	1 (1)	4	4	5	63	2	2	2	1	3	88 (1)

※嘱託医は除く。

※所長はしらかば寮長を兼務する。

※さつき寮副主任支援員・支援員に相談支援事業所分を含む。

4 職員研修

新型コロナウイルス感染症予防対策により、令和3年度と同様に外部研修受講の機会は少なかったが、オンライン研修は必要に応じて適宜受講した。職場内研修会（虐待防止研修、感染症予防研修等）や研究発表会についても、新型コロナウイルス感染症予防対策を講じて計画的な取組を実施し、福祉サービスの質の向上及び職員の資質向上を図った。

また、職員個々の資格取得研修（サービス管理責任者研修、強度行動障害研修等含む）を推奨し、人材育成に努めた。

5 健康管理

健診や癌検診（30歳以上の女子利用者には子宮癌検診、20歳以上の女子利用者には乳癌検診、40歳以上の利用者には胃癌及び大腸癌検診）を実施するとともに、嘱託医（精神科）や医療機関並びに家族とも連携しながら、疾病の早期発見及び早期治療に努めた。

新型コロナウイルス感染対策を最優先とし、5回目のワクチン接種を実施した。

感染症予防対策としては、従来のインフルエンザワクチンの予防接種、手洗い、うがい等に加え、マスク着用、3密回避、検温等により、職員を含めた予防対策を強化徹底するとともに、正面玄関に設置した顔認証機能付き検温器の利用、また、健康観察票により毎日の体調管理の徹底強化に努めた。

6 食事

食事は施設生活における大きな楽しみの一つであることから、食堂内の装飾を工夫したりBGMを流したりするなど、家庭的な雰囲気の中で楽しくゆっくりくつろいだ食事ができるよう配慮した。

季節の食材を取り入れた多彩な献立（新メニュー等）や暦行事に合わせた行事食等の提供に努めたほか、利用者の嗜好、身体状況（咀嚼能力等）に配慮しながら、様々な食事形態や食事場所を準備して個別の対応を行った。特に、嚥下困難な利用者に対し粥ゼリーの提供を開始した。

また、栄養ケア・マネジメントについては、しらかば寮に次いでさつき寮でも実施を開始し、利用者の栄養・健康状態の維持に努めた。

7 安全・防犯対策

(1) 安全対策

- ① 利用者の安全確保を最優先として、安心・安全な日常生活が送れるよう、事故等の未然防止のための施設設備の保全に努めた。
- ② 事故発生時の迅速な対応と職員間の連携強化のために各種マニュアルの周知徹底を図るとともに、アクシデントレポート等の速やかな報告と、検討内容による対応策を講じた。

(2) 防犯対策

外部からの不審者等の侵入に対する危機管理の観点から、「危機管理体制マニュアル（不審者対応）」の作成及び周知徹底を図った。不測の事態を想定した不審者等に対する防御用具の使用方法及び対応・実技について警察官の協力を得て訓練の実施を予定していたが、新型コロナウイルス感染症クラスター発生により実施できなかった。

8 災害・感染症対策

(1) 災害対策

- ① 新採用者及び転入職員等に対し、消火器や防災監視盤の使用方法など非常時に対応できるよう防災教育を行った。
- ② 消防計画に基づいた消防訓練の実施及び水害・土砂災害を含む非常災害時に備え土砂災害を想定した避難訓練を実施するなど、利用者誘導體制の強化に努めた。

(2) 感染症対策

新型コロナウイルス感染症予防対策のため、避難場所を分散し、例年地域防災協力隊と共に実施していた消防（避難）訓練は中止とした。炊き出し訓練については模擬として、さつき寮利用者を対象に、1階公用車駐車スペースにおいて給食を提供した。

非常時の備蓄食品（水・食材）として、常時3日分を確保し、保管についても衛生面や場所を考慮し、危機事象発生時に備えて点検・確認を行った。

9 実習・ボランティアの受入れ

新型コロナウイルス感染症予防対策のため、実習受入れを始め施設見学や実習体験は最小限の受入れに留まった。

また、なつどまり祭の行事は中止とし、外部との交流をできる限り避けた施設内だけの小規模な行事開催としたため、ボランティアの受入れも行わなかった。

10 地域社会との連携

地域住民との連携や交流促進におけるボランティアの受入れや地域行事への参加、当センターで開催した研修会への地元住民の参加の受入れは、新型コロナウイルス感染症予防対策のため実施しなかった。

なお、共生社会の実現と社会貢献に積極的に取り組む必要があることから、平内町地域自立支援協議会、平内町健康・福祉推進協議会及び地域ケア会議等へは引き続き積極的に参加し、地域の福祉ニーズを把握しながら地域との連携を図った。また、平内町地域生活支援拠点事業における相談機能を受託し引き続き実施した。

第4-1 障害者支援施設しらかば寮

I 施設入所支援事業・生活介護事業しらかば寮

1 概況

令和4年度においては、寮の「基本理念」の下、利用者の人権尊重と権利擁護の推進、個々の有する能力及び適性に応じ自立した日常生活や社会生活が営めるよう支援の充実に努めた。

特に利用者の重度化や高齢化が進み、介護ニーズや医療ニーズが高くなっていることから、それぞれの支援においては、利用者にあったペース、体力、安全などを考慮しながら、また、身体状況の変化や機能低下が著しい利用者には、迅速に医療機関とも連携しながら適切な対応に努めた。

しかし、残念ながら令和4年度は5人の利用者が医療機関入院中に亡くなり、また2人の利用者が常時医療を必要とする状態となったため現在も入院している。新規利用者は法人内グループホーム、施設から3人、精神科医療機関より1人の受入れを行った。

新型コロナウイルス感染症においては、しらかば寮内で3度のクラスターが発生し、利用者及び職員併せて延べ59人が感染し、そのうち3人の利用者が入院療養となった。3度とも緊張感を持って支援にあたる日々が続いたが、職員の懸命な対応により重篤者を出さず収束することが出来た。

また、家族及び外来者を制限するとともに、行事等の中止や延期、実施可能なものについても規模を縮小するなどして対応した。

経営状況については、長期入院者や退所者が増えた影響があり、平均利用率93.1%に減少した。利用者の入れ替わりにより平均区分が5.37に落ち込んだこともあり、当初の予測より減収となった。

面会については、オンライン面会やガラス越し面会を継続したが、個別面会の再開には至らなかった。

また面会や不要不急の外出を自粛していることに伴い、利用者のストレスの軽減や余暇の充実のため、グループでの外出やテイクアウトを伴う買い物外出などを実施し、延べ48回、382人の利用者が参加した。

移動販売やデリバリーについては、クラスターが発生し外部との接触ができなかったことや立地面で対応が難しいことなどがあり2回の実施にとどまったが、調理体験等を実施した。

2 重点事項の実施状況

(1) 重度・高齢利用者に対する支援の充実

① 外部関係機関との連携（コンサルテーションの活用）

行動障害を有する利用者への支援の充実のため、発達障害者支援センターのコンサルテーションを3回実施した。その他、強度行動障害支援者養成研修については、令和4年度青森県主催研修に3人、岩手県主催の研修（リモート）にも3人参加し、適切な支援と専門性を高め、個別支援の充実に努めた。

② 介護技術研修等の計画的受講の推進

介護技術研修については新型コロナウイルス感染症クラスター対応のため受講できなかった。

③ 介護・医療機関（PT）との連携強化及び機能低下予防の取組

理学療法士との連携については、新型コロナウイルス感染症クラスター対応もあり、講師の日程調整がつかず実施できなかつたが、居室内でも行える運動器具を導入し機能低下予防に努めた。

(2) 人材の育成及び定着

① 新任職員育成プログラムの実施

新任職員に対しては、引き続きエルダー制度、DVDを使用した育成プログラムに則った取組を実施したほか、タブレット端末や所内LANを活用し、動画配信研修やこれまでなつどまりで実施してきた研修等の動画を用い育成を行った。

② ICT・介護機器の導入等による業務の改善

ICT・介護機器については、ICT・介護機器の情報を収集したほか、見守り介護ロボットAAMS（アアムス）及びインカム（バディカム）のデモ受入れを行い、選定を進めたが導入には至らなかつた。

③ ユニット制による組織運営の効率化

職員ユニット制については、業務内ではユニットを超えた体制で勤務しているが、ユニットリーダーを中心としたユニット会議において、利用者の抱える支援課題について対策を検討する体制を進め、組織運営の効率化に向けて継続的に取り組んだ。

(3) 生活支援サービスの充実

① 各種マニュアルの整備

各種マニュアルの整備として、虐待防止指針を整備したほか、身体拘束等適正化指針についても整備し運用を始めた。

② 日中活動（小グループ、個別活動、生活訓練）の充実

日中活動の充実を図るため、リサイクル活動、レクリエーション等の活動を定期的実施した。一方、コロナの関係で面会や帰宅等を制限したこともあり、代替行事として買い物やドライブ、訪問販売、調理実習などの行事を計画的に実施し、少しでも単調な生活に潤いをもたらすよう工夫した。

③ 各種セラピー等の実施

アニマルセラピーは3回実施したものの、新型コロナウイルス感染症クラスター対応のため、音楽療法、チェアヨガは実施できなかつた。

(4) 生活支援環境の整備・向上

① 介護食の試行

介護食導入に向けた取組として、嚥下が困難になってきた利用者へ粥ゼリーの提供を開始した。

② 男女比に合せた居住棟編成の検討

居住棟再編成については、女性利用者獲得の取組を行ったところ、令和4年度女性2人、男性2人の計4人が入所となったため、現状の男性46人、女性34人の体制を維持し、中・長期的に設備の改修も含めて再度検討することとした。

③ ノーリフティングケアの実践の検討

ノーリフティングケアについては、令和4年度は理学療法士を招き勉強（体験）会を実施できなかつたものの、ノーリフティングケア実践報告会へ参加し、介護施設での実践例の情報収集を行った。

3 利用者の状況

(1) 入退所の状況

内 容	生活介護	施設入所
定 員(人)	80	80
令和3年度末現在利用者数(人)	79	79
令和4年度内退所利用者数(人)	5	5
令和4年度内入所利用者数(人)	4	4
令和4年度末現在利用者数(人)	78	78

(2) 年齢別利用者数

男女別 年齢別	一課（一般棟）			二課（高齢者棟）			合計(人)		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計
10～19	2		2				2		2
20～29	6	3	9	1		1	7	3	10
30～39	8	1	9				8	1	9
40～49	3	6	9	2		2	5	6	11
50～59	3	4	7	5		5	8	4	12
60～69		6	6	10	4	14	10	10	20
70～79	1		1	3	6	9	4	6	10
80以上				1	3	4	1	3	4
合計(人)	23	20	43	22	13	35	45	33	78
平均年齢(歳)	35.0	48.7	41.3	61.3	73.0	65.6	47.8	58.2	52.2

(3) 障害支援区分別利用者数

男女別 障害支援区分別	一課（一般棟）			二課（高齢者棟）			合計(人)		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計
非該当									
区分1									
区分2									
区分3				1	1	2	1	1	2
区分4	1	2	3	1	2	3	2	4	6
区分5	9	6	15	11	5	16	20	11	31
区分6	13	12	25	9	5	14	22	17	39
合 計	23	20	43	22	13	35	45	33	78

4 事業の実施状況

(1) 生活介護事業（日中活動系サービス）の実施状況

主に日中に入浴、排泄、食事等の介護や、創作的活動、身体機能や生活能力の維持・向上のために必要な支援を行った。

① 個別支援計画によるサービス提供

利用者一人ひとりの能力・適性・ニーズ等に基づいた個別支援計画を作成し、支援目標の達成に向けた支援を実施した。特に、身体機能の低下に起因する転倒、転落、誤嚥等のリスク軽減に配慮した支援を行った。

② 班編成による創作的活動、リサイクル活動の実施

ア 生活リズム班

ADL等の自立度により、年間個別支援計画に沿った支援を行った。体力維持及び健康面に配慮しながら、屋内外の歩行、ライトコートでの日光浴、リズム遊び、体育館で遊具を使用して身体を動かした。また、個別のニーズ把握に努め、一人ひとりの特性や趣向に応じて音楽鑑賞、創作的活動、リサイクル活動、調理体験等を行った。

イ 介護予防班

利用者のADLや障害特性に配慮し、健康体操、個別リハビリ、趣味活動のほか、外部講師によるアニマルセラピーを行いストレスの軽減に努めた。

③ 健康衛生の向上

ア 生活習慣病の予防と対策

利用者の高齢化に伴う生活習慣病とともに、行動の低下による廃用症候群等の出現への対応が課題となってきた。特に糖尿病、脂質異常を発症する人が増えており、適度な運動療法を取り入れ、食後の散歩や間食の取り方を見直し、生活習慣病の予防に努めるとともに、毎月体重測定と運動の励行を行った。

イ 医療状況

嘱託医診療

精神科（青森県立つくしが丘病院）月2回（第2、第4水曜日）

ウ 検診状況

対象者 全員

検診内容 血液検査、心電図(年2回)、結核検診、尿検査(年1回)
各癌検診(大腸・胃・乳・子宮～希望者のみ実施)

エ インフルエンザ予防対策

インフルエンザワクチンを接種するとともに、抗菌マスク、微粒子マスク、使い捨て予防衣、使い捨てキャップ、使い捨てシューズカバーを準備し、うがい、手洗いの励行、アルコール手指消毒器の使用、マスク装着の指導、換気、大型加湿器による環境整備を行い、予防対策に努めた。

オ 新型コロナウイルス感染症対策

新型コロナウイルスワクチンを接種希望する利用者及び職員へのワクチン接種を5回目まで実施した。

また、面会の制限や施設に入る業者に対する検温（37.0℃以上は入室不可）と手洗い、うがい、アルコールでの手指消毒、マスクの装着を徹底し感染対策に努めた。職員も出勤時に身体症状及び検温（37.0℃以上は勤務不可）と手洗い、うがい、アルコール消毒、マスクの着用、健康管理票の記入を義務付けた。また、新型コロナウイルス感染症発症時の対応セット（N95マスク、保護メガネ、保護用予防衣、シューズカバー、使い捨て手袋、アルコール除菌タオル）を常備し、必要時には速やかに使用し感染拡大防止に努めた。

感染者が発生した際は、ゾーニングやホーム単位でのコホーティングを行うとともに保健所とも連携し、さつき寮から職員の派遣を受けるなどなつどまりが丸となって早期収束に努めた。

また、法人内施設においてクラスターが発生し応援要請があった際には、積極的に職員の派遣を行った。

カ その他の感染症対策

手指消毒器を一課、二課に設置して手指の消毒を指導したほか、毎食後に食堂のテーブル、椅子、手すり、ドアノブ等を除菌ウエットタオルで消毒し、食中毒などの感染症予防を強化した。

感染性胃腸炎の予防と蔓延防止対策として、発症時対応セット（バケツ、ペーパータオル、塩素系消毒剤、ゴミ袋、使い捨てマスク、使い捨て手袋、使い捨て予防衣、使い捨てシューズカバー、処理マニュアル）を各棟に用意し、感染症マニュアルに則った感染予防に努めた。

キ 通院状況

区分 科別	通院状況		服薬者状況
	実人員	延回数	実人員
内科	51	421	34
精神科	54	664	54
耳鼻科	3	6	0
歯科	22	192	0
皮膚科	3	11	1
外科	5	25	3
整形外科	17	94	8
眼科	2	2	0
泌尿器科	7	66	5
脳神経内科	1	1	0
消化器内科	1	1	0
合計	166	1,483	105

ク 入院状況

区分 科別	実人員	延日数	病名
内科	11	897	肺炎、尿路感染、脱水、急性腎不全、 ヘルペス、腎機能障害、新型コロナウイルス感染症
脳神経科	1	134	左被殻出欠（脳出血）
精神科	2	62	てんかん疑、心因反応
整形外科	1	80	左大腿骨転子部骨折
合計	15	1,173	

④ 音楽療法の実施（実施日・場所）

ア 個人セッション（月1回 月曜日の午前：面談室）

一課利用者1人 実施回数0回

イ グループセッション（月3回 火曜日の午前：二課食堂）

一課利用者4人、二課利用者28人 実施回数0回

⑤ チェアヨガ活動

身体機能の活性化を図るため、チェアヨガの講師を月2回招く予定であったが、新型コロナウイルス感染症クラスター発生により活動を中止した。

実施回数0回

⑥ アニマルセラピー

利用者の生活に潤い及び情緒の活性化を図るため、青森アニマルセラピー協会の協力を得て3回実施した。

⑦ 個別及びグループごとの外出の支援

買物・外出体験を通して、金銭の使い方、社会のルール、マナーを学んでもらうとともに、新型コロナウイルス感染症の動向を見ながら、個別・グループで楽しい時間を過ごす事を目的に実施した。

⑧ 出張販売、調理体験

コロナ禍で外食を控える中、非日常の体験を響するため、近隣の飲食店から出前や出張販売の受け入れを3回行った。

また、食に関する理解を深められるよう、調理体験を実施した。

実施日	参加	内容
5月29日	調理12人	調理体験（ホットケーキ）
6月17日	調理13人	調理体験（ホットドック）
6月27日	72人	出張販売（ほっこりごはん屋輔）
7月23日	調理12人	調理体験（フルーツポンチ、焼きウインナー）
7月30日	調理12人	調理体験（カップ麺）
8月27日	調理12人	調理体験（クリームソーダ）
9月24日	調理12人	調理体験（牛丼）
10月31日	調理12人	調理体験（パフェ）
11月12日	76人	出張販売（焼き芋 お福）
12月16日	調理12人	調理体験（バタートースト）
1月21日	調理20人	調理体験（フルーツムース）
1月28日	調理10人	調理体験（ハンバーガー）
2月27日	41人	出張販売（焼き肉レストラン東山）

(2) 施設入所支援事業(居住系サービス)の実施状況

居住の場を提供し、入浴、排泄、食事等の介護、生活等に関する相談のほか、生活介護等の日中活動と合わせて支援を行った。

① 個別支援計画によるサービス提供

利用者一人ひとりの能力・適性・ニーズ等に基づいた個別支援計画を作成し、支援目標の達成に向けた支援を実施した。

② 余暇活動・趣味的活動等の充実

ア 個別及びグループごとの外出の支援

新型コロナウイルス感染症の動向を見ながら、青森市、平内町、野辺地町を中心にドライブ外出等を計画し実施した。また、個別外出については希望に応じて買物、テイクアウト等を随時実施した。

イ 招待外出

新型コロナウイルス感染症防止のため中止とした。

ウ 外部講師による活動の支援

書道 実施日：月2回（第2、4金曜日）18:30～19:30

※新型コロナウイルス感染症防止のため外部講師を招かず職員が実施した。

③ 生活環境の整備

ア リネン・寝具交換

平成24年度から、外部業者と寝具の賃貸借契約を締結している。シーツ等1回/週、タオルケット・肌掛けカバー1回/月、布団カバー1回/月、掛け・敷き布団1回/年の交換を行った。

イ 洗顔用具等の洗浄、管理

歯ブラシ、コップ、洗面器等を週1回消毒・洗浄し、個々の収納棚に保管するなど、衛生管理に努めた。

ウ 居室等の大掃除

各居室内、食堂の換気扇及びエアコンフィルターの掃除、ライトコートの大掃除を年2回実施した。その他、春の大掃除と年末の煤払いを計画的に行った。委託業者による特別清掃は年6回実施した。

エ 室温等の管理

冬期間の乾燥対策として各ホームに加湿器等を設置し、湿度の調整を行った。

(3) 利用者の権利擁護の推進

① 苦情相談システムの利用促進

新型コロナウイルス感染症のため、第三者委員相談は年間4回のみで開催であった。苦情解決協議会については内部職員だけで開催し、利用者代表、保護者代表、第三者委員に対しては苦情の内容を書面で送付した。

苦情件数は0件、相談件数は4件だった。苦情ではなく生活上の不安、相談を述べる内容であった。

苦情内容	件数
サービスの質や量 (食事内容、サービス提供に関する不満など)	0
利用者間の人間関係など	0 (相談1)
職員の対応(態度、言葉づかいが悪いなど)	0
被害/損害(預り金、所有物の紛失など)	0
権利侵害(虐待、プライバシー侵害など)	0
生活環境(設備など)	0 (相談2)
病気/怪我/医療面	0
その他(上記以外のもの)	0 (相談1)
合計	0 (相談4)

② 人権委員会の開催

人権委員会(苦情等解決委員会、虐待防止委員会及び身体拘束適正化委員会)は年3回開催し、それぞれのその取組の確認、改善等を検討した。また、委員会の議事録については全職員に周知した。

③ 利用者への情報公開・情報提供の充実

掲示板の活用や利用者説明会を年2回開催し情報提供を行った。また、写真や動画等を活用し、利用者に分かりやすい方法を採用した。

(4) 地域交流

新型コロナウイルス感染症防止のため、地域交流を兼ねた行事等は全て中止とした。

(5) 家族との連携

利用者が心豊かな生活を営むためには、家族の理解と協力が不可欠である。しかし、新型コロナウイルス感染症防止のため、オンラインやガラス越しの面会を行ったものの、夏冬の一時帰省の中止、外出等の自粛をしたことにより、家族との関係が疎遠になりがちな面もあったことから、電話や手紙、写真等を送信するなどして関係構築に努めた。

① 利用者個別支援計画

個別支援計画については、その内容を家族と十分協議しながら設定した。また、支援目標や支援経過についても電話や書面等を通じて随時家族へ説明した。

② 保護者全体懇談会

新型コロナウイルス感染症防止により中止としたため、書面での報告を行った。

(6) 利用者の安全面の確保

利用者等の安全確保及び事故発生時の迅速な対応を図るため、毎月リスクマネジメント委員会を開催し、アクシデントレポート等の検証や対策を話し合い、支援課会議等で職員へ周知した。

分類	事故内容	件数	
アクシデント	医療関係	急病（救急車搬送等）	0
		誤嚥・喉つまり	0
		誤薬	3
		服薬忘れ	7
	事故関係	転倒・転落・衝突	114
		骨折、打撲、裂傷	25
		異食	3
		無断外出	0
	利用者関係	他害	62
		その他	74
	合計		288
インシデント	総数	330	

(7) 職員研修

令和4年度は新型コロナウイルス感染症の全国的なまん延により、多くの研修が中止や延期、オンライン形式に変更となる中、計画的に法人内外の各種研修に参加した。

人数制限のかかる青森県主催の強度行動障害支援者養成研修には基礎研修に2人、実践研修に1人、のべ3人参加するとともに、岩手県主催の同研修（リモート）にも3人参加した。また、外部関係機関と連携（コンサルテーションの利用）を図り、障害の理解と支援技術の習得に繋げた。しかし、介護技術研修等については新型コロナウイルス感染症クラスター対応時期と重なり参加できなかった。

また、なつどまり内での職員研修として、救命講習会や虐待防止研修会、感染症予防研修会等を開催し、実践に役立つ知識と技術の修得に努めた。

なつどまり合同研究発表会においては、日頃の支援の研究成果を発表（4題）し、そのうち1題が青森県保健医療福祉研究発表会に選定されるなど、更なるサービスの向上を目指し取り組んだ。

(8) 行事の実施状況

内容	実施期間	参加	備考（行先など）
外出（ドライブ、買物）	5月28日	一課5人	テイクアウト（キッチンぴじょん）
外出（ドライブ、買物）	5月29日	一課4人	テイクアウト（肴ダイニング心）
花見会	5月30日	二課	
バスドライブ	6月3日	二課20人	青森市中央埠頭
たのしみっこ（BBQ）	6月10日	一課・二課	
外出（ドライブ、買物）	6月14日	一課2人	合浦公園
外出（ドライブ、買物）	6月19日	一課6人	テイクアウト（ケンタッキー）
外出（ドライブ、買物）	6月20日	一課4人	テイクアウト（マクドナルド）
外出（ドライブ、買物）	6月21日	一課2人	クラフトハートトーカイ青森店

外出（ドライブ、買物）	6月26日	一課4人	テイクアウト（ドミノピザ）
外出（ドライブ、買物）	6月30日	二課2人	マックスバリュ平内店他
七夕会	7月7日	一課・二課	
外出（ドライブ、買物）	7月10日	一課5人	テイクアウト（サティーンアイス浪館店）
外出（ドライブ、買物）	7月14日	二課2人	ラセラ東青森店
外出（ドライブ、買物）	7月17日	一課4人	テイクアウト（ティモくれーぷ屋）
外出（ドライブ、買物）	7月28日	一課2人	テイクアウト（ほたて広場）
外出（ドライブ、買物）	7月31日	一課5人	テイクアウト（モスバーガー）
外出（ドライブ、買物）	8月21日	一課5人	テイクアウト（スターバックス）
外出（ドライブ、買物）	9月11日	一課5人	テイクアウト（スシロー）
外出（ドライブ、買物）	9月18日	一課6人	テイクアウト（ミスタードーナツ）
長寿を祝う会	9月22日	一課・二課	
納涼会代替行事	9月24日	二課	
納涼会代替行事	9月30日	一課	
外出（ドライブ、買物）	10月10日	一課5人	テイクアウト（かつや青森西パイパス店）
外出（ドライブ、買物）	10月13日	二課2人	マックスバリュ平内店他
外出（ドライブ、買物）	10月14日	二課2人	マックスバリュ平内店他
外出（ドライブ、買物）	10月16日	一課2人	ローソン平内藤沢店
外出（ドライブ、買物）	10月20日	二課2人	マックスバリュ平内店他
外出（ドライブ、買物）	10月21日	二課2人	マックスバリュ平内店他
外出（ドライブ、買物）	10月23日	一課5人	テイクアウト（から好し）
バスドライブ	10月26日	二課19人	野内方面
外出（ドライブ、買物）	10月27日	二課2人	マックスバリュ平内店他
ハロウィン	10月28日	一課・二課	
外出（ドライブ、買物）	10月31日	二課2人	マックスバリュ平内店他
たのしみっこ	11月5日	一課	
外出（ドライブ、買物）	11月13日	一課6人	テイクアウト（びっくりドンキー）
外出（ドライブ、買物）	11月17日	一課1人	サンロード青森
外出（ドライブ、買物）	11月20日	一課4人	テイクアウト（ジークフリート戸山店）
クリスマス会	12月23日	一課・二課	
外出（ドライブ、買物）	1月2日	一課3人	雷電宮
外出（ドライブ）	1月3日	一課5人	雷電宮
新年会	1月6日	一課・二課	
成人式	1月10日	一課	
外出（ドライブ、買物）	1月10日	一課1人	しまむら浜館店
外出（ドライブ、買物）	1月22日	一課4人	テイクアウト（函太郎）
外出（ドライブ、買物）	1月24日	一課2人	テイクアウト（ケンタッキー）
外出（ドライブ、買物）	1月26日	一課2人	萬屋、ラセラ東青森店
外出（ドライブ、買物）	1月29日	一課5人	テイクアウト（ジークフリート戸山店）
節分	2月2日	一課・二課	
バスドライブ	2月3日	一課9人	浅虫、夜越山
外出（ドライブ、買物）	2月5日	一課6人	テイクアウト（びっくりドンキー）
外出（ドライブ、買物）	2月23日	一課2人	ミニストップ浅虫店

外出（ドライブ、買物）	2月24日	一課1人	ラセラ東青森店
外出（ドライブ、買物）	2月26日	一課6人	テイクアウト（ほっこりごはん屋輔）
外出（ドライブ、買物）	3月1日	一課2人	テイクアウト（丸亀製麺）
桃の節句	3月3日	一課・二課	
外出（ドライブ、買物）	3月5日	一課6人	テイクアウト（焼きそばショップ田村）
外出（ドライブ、買物）	3月16日	一課2人	テイクアウト（ジークフリート戸山店）

II 短期入所事業しらかば寮

1 概況

在宅で生活している障害者の介護を行う者の疾病、その他の理由により短期間の入所を必要とする障害者等に対して、空室があった場合のみサービスを提供し、入浴・排泄及び食事の介護、その他必要な支援を行う短期入所事業であるが、新型コロナウイルス感染症防止対策として、令和4年度の利用実績はなかった。

III 日中一時支援事業

1 概況

平内町の地域生活支援事業として、在宅利用者の家庭の介護負担を軽減するため利用者に活動の場を提供し、見守りや社会に適応するための日常的訓練を行う事業であるが、新型コロナウイルス感染症防止対策として、令和4年度の利用実績はなかった。

第4-2 障害者支援施設さつき寮

I 施設入所支援事業・生活介護事業さつき寮

1 概況

令和4年度は、利用者の人権尊重・権利擁護・虐待防止・身体拘束等適正化について継続的に取り組むとともに、職員相互のリスクマネジメントの強化を図るため、寮内のリスクマネジメント委員会を中心に、各会議において段階的に対策の検討、周知徹底に取り組んだ。

利用者の状況としては、障害の多様化と高齢に伴う認知機能や身体機能の低下が顕著であることから、日常に係る手厚い補助や身体介護、健康管理等の支援度が高まっている。そのため利用者個々の特性に応じた支援に心掛け、さらには体調不良を示す場合には、医療機関等と連携を図り迅速な対応に努めた。

また、11月末から12月中旬にかけ、新型コロナウイルス感染症のクラスターが発生し、計61人（利用者50人、職員11人）が感染となった。感染状況は、利用者、職員共に深刻な症状に至らず、無症状や軽症で収束した。

班活動（ゆとり加工班、加工班、クリーニング班、林産班）においては、当センター内の4回に及ぶコロナ感染拡大で活動を一定期間停止せざるを得ない状況となり、就労支援事業収入全体で令和3年度比1,715千円の減で、さらには稼働時間の減も重なり利用者工賃は令和3年度を下回る支給となった。

施設利用状況については、令和3年度末に1人が亡くなり、59人による出だしとなる。早々の補充に努めるべく、利用希望者とは短期入所の活用など調整を図っていたが、コロナ感染拡大等により計画が見送られることになった。ただ、予定した短期利用には及ばなかったが、3月下旬に入所に結びついたことで60人（満床）となる。

通所利用者においては、地域の利用希望者ニーズを探り、3人から5人へ受け入れ増となった。

行事においては、新型コロナウイルス感染症予防対策のため、前年度と同様に利用者の安心・安全を第一優先に、対外的（外部者等含む）な行事を自粛し、寮内における各行事を充実させるとともに、感染状況を確認の上、青森市内及び平内町内の店舗等による買物外出等を実施し、少しでも潤いを持っていただくよう取り組んだ。

また、家族関係では、令和4年度も面会日を中止したことに伴い、コロナ感染拡大期間を除き、リモートによる面会及びガラス越し面会を随時実施した。一時帰省については、1月に希望者を募り3年ぶりに実施することができ、久しぶりの家族等との楽しい一時を過ごすことができた。

2 重点事項の実施状況

(1) 重度化・高齢化への対応

① 各種研修会への参加

感染状況を確認の上、適宜職員を外部研修及びリモート研修に参加させ、専門的知識の習得及び資質向上に努めた。

② 法人内施設（しらかば寮）実地研修の拡充

重度、高齢者の生活支援に必要な知識・技術の習得を目的に、しらかば寮での実地研修（5人）を行い、職員の養成・スキルアップを図った。

(2) 人材育成及び定着

① 新人職員育成プログラムの実施

令和4年度は、対象となる職員がいないため未実施である。

なお、新人育成プログラムとは別に職員の資質向上を図るため「TEACCHプログラム自立課題アイデア集」を参考に、課題作成の活用に取り組んだ。

② ICT・介護機器の導入などによる業務の改善

なつどまり全体の取組として、業務の効率化を図るため「インカム」に着目し、システム業者からメリット、デメリットの情報収集を行い、デモ機による試行を行った。

(3) 生活支援サービスの充実

① 余暇時間の充実

寮内による介護予防運動や個人活動（折り紙、ぬり絵、ドリル問題、模型作成、アニメ等鑑賞）等を支援しながら活動ニーズを柔軟に汲み取り、生きがいや生活意欲の向上に繋がるよう努め、一定の効果が確認された。

② 新規マニュアルの整備

福祉サービスの質の評価から未整備であるマニュアルが確認され、「実習生受入時マニュアル」「利用者の状態に応じた意思確認やコミュニケーション支援マニュアル」を作成し、実用化に向け取り組んだ。また、虐待防止指針を整備したほか、身体拘束等適正化指針についても整備し運用を始めた。

③ 栄養マネジメントの実施

栄養ケア・マネジメントについては事前に利用者個々の情報収集等を行った上で、10月1日開始となった。このことから、利用者一人ひとりの健康状態や栄養状態の維持や食生活の質の向上をさらに図ることとなった。

3 利用者の状況

(1) 入退所の状況

内 容	施設入所	生活介護
定 員(人)	60	60
令和3年度末現在利用者数(人)	59	60
令和4年度内退所利用者数(人)	0	0
令和4年度内入所利用者数(人)	1	2
令和4年度末現在利用者数(人)	60	62

(2) 年齢別利用者数

年齢区分	入所利用者		通所利用者		合計
	男	女	男	女	
10～19	1				1
20～29	6	3			9
30～39	11			1	12
40～49	7	6			13
50～59	4	2	2	1	9
60～69	10	4		1	15
70～79	3	2			5
80～以上		1			1
合計(人)	42	18	2	3	65
平均年齢(歳)	46.0	52.9	51.6	50.9	50.4

(3) 障害支援区分別利用者数

障害支援区分別	入所利用者		通所利用者		合 計
	男	女	男	女	
非該当					
区分1					
区分2			1	1	2
区分3	2			1	3
区分4	18	4			22
区分5	17	10	1		28
区分6	5	4		1	10
合計 (人)	42	18	2	3	65

4 事業の実施状況

(1) 生活介護事業（日中活動系サービス）の実施状況

① 利用者のニーズに応じた個別支援の充実

日常生活に必要な支援については、本人の主体性及び自発性を尊重しつつ、毎月の会議等で利用者支援に関して話し合いを持ち、サービス管理責任者を中心に個別支援の充実を図った。

② 開所日の設定

休日開所日については、余暇活動（パラスポーツ・映画上映・カラオケ・調理実習等）を中心に実施した。

③ 班活動

ア ゆとり加工班

加工班から古紙の提供を受け、古紙選別等の軽作業を実施した。作業内容を固定せず流動的に選択できるようにするとともに、個別のスケジュール等を活用し個々の特性に配慮し、集中して活動に取り組めるよう努めた。

イ 加工班

作業意欲はあるものの歩行での移動が難しい利用者に対しては車での移動を行い、できる限り本人が希望する作業班で活動できるよう配慮した。また、年間を通して活動できるよう作業資材の確保に努めるとともに、作業工程を細分化し、より多くの利用者が積極的に参加できるよう取り組んだ。

ウ 林産班

焚付用薪の生産・出荷を通して、体力維持と併せて働く喜びを感じられるよう取り組んできた。作業開始前に職員と利用者により作業手順の確認を行った結果、利用者全員が作業工程を理解し、予定数量を出荷することができた。

エ クリーニング班

体力に自信はないが、衣類をたたむ事ができる利用者がクリーニング作業を行い、働く喜びを感じることで心の安定を図った。

また、なるべく一人の利用者に負担をかけず、利用者全員が同じ作業工程を行うことができるよう、職員がやり方を示しながら支援した。

(2) 施設入所支援事業（居住系サービス）の実施状況

① 夜間におけるサービス提供

入浴、排泄、食事等の介護、生活等に関する相談・助言のほか、必要な日常生活

上の支援を行った。

② 余暇活動の支援

個々の趣味や余暇活動への支援を行った。

(3) 健康管理

① 健康衛生の向上

ア 医療及び検診状況

利用者の健康管理については2人の看護師を中心に嘱託医等との連携を図り、疾病の予防と治療を適切に実施した。

また、以下による定期検診等を行い、健康状態の維持に努めた。

- ・ 嘱託医診療
精神科（つくしが丘病院）（月2回）第2、第4木曜日 対象者：全員
- ・ 検診
血液検査、心電図（年2回）、結核検診（年1回） 対象者：全員
- ・ 各癌検診
（大腸・胃・乳・子宮～希望者のみ実施で本人負担）
- ・ 口腔ケア

歯科医による往診での歯科検診を実施した。その他、歯周病、虫歯予防として食後の歯磨き指導、介助歯磨きを行った。

イ 生活習慣病の予防と対策

利用者の高齢化に伴い、生活習慣病の発病が増加傾向であるとともに、廃用性症候群の出現等対応が課題となってきている。特に脂質異常を発症する方が増えてきており、適度な運動療法を取り入れ、食後の散歩、間食のとり方を見直し標準体重に近づけることを目標に取り組んだ。

なお、身体機能低下がみられてきた利用者の支援として、介護予防運動を行った。

② 緊急時の対応

応急手当マニュアル、緊急対応フローチャートを職員室、支援員室に備え、AED（職員は全員AED講習受講済み）は食堂に設置している。また、誤嚥、のどつまり時対応用として、気道閉塞時フローチャートを食堂、支援員室に掲示し、口腔吸引ノズル付き掃除機（掃除用とは別の掃除機）と吸引器を食堂に常備し緊急時の対応に備えた。

③ 感染症予防対策

手洗い、うがいの励行、毎食後に除菌ウェットタオルによる消毒を継続的に行った。さらには定期的換気、大型加湿器の活用など、感染症に関する予防対策を徹底し講じた。そのため、ノロウイルス、急性胃腸炎の発症者は出なかった。

感染発症時には、対応セット（バケツ、ペーパータオル、塩素系消毒剤、嘔吐物凝固剤、ゴミ袋、サージカルマスク、N95マスク、フェイスシールド、医療用グローブ、防護ガウン、防護キャップ、シューズカバー、処理マニュアルなど）を常備し各感染症マニュアルに沿って対応に努めた。

ア インフルエンザ予防対策

季節性インフルエンザのワクチン接種（施設負担）を11月に行い、感染対策を講じていたことにより、利用者及び職員に罹患者は出なかった。

イ コロナウイルス感染症予防対策

施設内に入る関係者及び業者には検温（37.0℃以上は入館不可）とアルコール

手指消毒、マスク着用で入館を認め、職員においても出勤時の検温（37.0℃以上は勤務不可）とアルコール手指消毒を徹底し、勤務にあたるよう努めた。ただ、対策を講じていた中であってもクラスターが発生（11月末～12月中旬）する事態となり、しらかば寮から職員の派遣を受けるなど、なつどまりが一丸となって早期収束に努めた。また、しらかば寮や法人内他施設においてクラスターが発生した際には職員の派遣を行った。ワクチン接種については、ひきち内科に来寮していただき、8月に4回目を12月と3月には全員が5回目の接種を終えた。

④ 各癌検診、結核検診の状況

検診名	要精密検査者	内 訳
胃 癌	1人	再検査し異常なし
大腸癌	1人	再検査し異常なし
子宮癌	0人	
乳 癌	0人	
結 核	2人	2人とも再検査し異常なし

⑤ 通院・服薬者状況

科別	通院状況		服薬者状況
	実人員	延回数	実人員
内 科	38	283	25
精神科	42	548	41
歯 科	11	58	0
皮膚科	8	41	2
外 科	2	12	0
整形外科	4	16	0
眼 科	5	12	0
泌尿器科	4	36	3
脳神経外科	1	1	0
血液内科	0	0	0
循環器科	1	1	0
糖尿病外来	1	6	1
総合診療	1	9	1
歯科口腔外科	1	2	0
耳鼻科	0	0	0
婦人科	3	4	0
合 計	122	1,029	73

⑥ 入院状況

科別	区分	実人員	延日数	病 名
精神科		12	212	適応障害、統合失調症
合 計		12	212	

⑦ 肥満状況

内 訳	男	女	合計
18.5未満（やせ）	4	3	7
18.5以上～25未満（正常）	34	12	46

25 以上～30 未満（肥満 1）	3	2	5
30 以上～35 未満（肥満 2）	1	1	2
35 以上（肥満 3）	0	0	0
合計（人）	42	18	60

※BMI の数値は日本肥満学会による判定基準を基にした計算式で算出したものであり、内臓脂肪量とは関係ない。BMI = 体重 (kg) ÷ (身長 (m) × 身長 (m))

(4) 利用者の権利擁護の推進

苦情相談は、本人からの申し出と施設内の意見箱から受け付けており、毎月 1 回、第三者委員 3 人の輪番による体制としているが、新型コロナウイルス感染症防止のため年 4 回のみの開催であった。苦情件数は 2 件であった。

苦情解決協議会については内部職員だけで開催し、利用者代表、保護者代表、第三者委員に対しては事例の内容を書面で送付した。

人権委員会（苦情等解決委員会、虐待防止委員会及び身体拘束適正化委員会）は年 3 回開催し、それぞれの取り組みの確認、改善等を検討した。また、委員会の議事録については、全職員に呈覧した。

(5) 地域交流

地域交流は、新型コロナウイルス感染症防止のため中止とした。また、地域への奉仕活動については、11 月に開催された平内町民文化祭に利用者が創作した作品を提供し展示したものの、利用者の参加は新型コロナウイルス感染症防止のため中止とした。

(6) 利用者への安全確保

利用者の安全確保及び事故発生時の迅速な対応を図るために、第一段階として支援会議で検討し、その後さつき寮リスクマネジメント委員会で再度検討することで、より深く検証した内容を現場へフィードバックし、利用者の事故防止に努めた。

＜アクシデントレポートの提出状況＞

事故内容		件数
医療関係	急病（救急車搬送等）	1
	誤与薬	5
	誤嚥・落薬	17
事故関係	転倒・衝突（通院・入院）	1
	転倒・衝突	20
	その他	39
介護関係	転倒・衝突（通院）	1
	歩行不安定による転倒	30
外出関係	無断外出（敷地外）	2
	集団離脱（敷地内）	3
利用者関係	他害・粗暴行為・器物破損	18
その他	打撲・自傷・擦り傷・火傷等	14
合計		151

(7) 家族との連携強化

① なつどまり育成会との連携強化

令和 4 年度は、新型コロナウイルス感染症防止のため育成会の総会を中止とし、会員の方へは書面で活動内容を報告した。また、面会については、コロナ感染拡大期間を除き、リモートによる面会及びガラス越し面会を随時実施した。

② 家族への情報提供の充実

ガラス越し及び室内における個別面会の実施や中止の通知を随時行った。また、さつき寮通信を発行し、行事及び日中活動や生活環境の様子を写真や文章で伝えた。そのほか、毎月ケース担当職員から保護者へ近況をお知らせするとともに、状況変化等の際には随時連絡を行った。

(8) 職員研修

なつどまり内での学習会やしらかば寮での実地研修、法人内研修、県内外のリモートによる研修等に参加し、施設職員として必要な知識を習得したほか、支援方法等のスキルアップに努めた。

また、なつどまり研究発表会及び青森県立保健大学において、さつき寮の研究事例を発表した。

(9) 行事の実施状況

実施日	内 容
4月 13日	利用者健康診断
4月 29日	花見会
5月 12日	結核検診
5月 26日	消防訓練(火災想定)
5月 28日	レクリエーション大会
6月 4日	夏の大掃除
6月 23日	昼食外出
6月 27日	昼食外出
7月 5日	総合消防訓練(夜間想定)
6月 29日	夏の大掃除
7月 22日	花火会
8月 13日	納涼祭
9月 6日	利用者検診(胃がん)
9月 8日	さつき交流会
10月 7日	利用者検診(乳がん)
10月 13日	利用者検診(心電図、採血)
10月 22日	紅葉狩り
11月 4日	インフルエンザ予防接種
11月 24日	利用者忘年会
12月 23日	クリスマス会
12月 24日	冬の大掃除
12月 31日	年越し会
1月 4日	お楽しみ会
1月 7日	利用者新年会
1月 14日	ジェンガ大会
1月 27日	なつどまり研究発表会
1月 28日	カラオケ大会
2月 4日	節分集会
2月 16日	防災訓練(土砂災害想定)
3月 9日	利用者日中活動慰労会

(10) 工賃支給状況

生活介護班活動に従事した利用者全員を対象に、「工賃支給要綱」に基づく工賃を支給した。(10月・4月は一時金を支給)

項目/月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	上期一時金
生活介護 総工賃(円)	131,280	136,450	142,350	116,280	133,070	120,720	122,190	168,630
支給者数(人)	60	59	59	57	59	54	59	60

項目／月	11月	12月	1月	2月	3月	下期一時金	合 計	月1人当 たり平均
生活介護 総工賃(円)	98,260	48,260	135,420	139,780	101,640	512,060	2,106,390	2,556
支給者数(人)	58	59	60	60	60	60	824	

Ⅱ 短期入所事業さつき寮

1 概 況

自宅で介護する人が病気の場合などに、短期間、夜間も含め施設で入浴、排泄、食事の介護等を行う。

2 事業の実施状況

令和4年度は1人の利用があった。

Ⅲ 相談支援事業所なつどまり

1 概 況

障害者及び障害児並びにその保護者一人ひとりの人権と意思を尊重し、利用者が自立した日常生活又は社会生活を営むことができるよう、地域の特性や利用者の状況に応じた柔軟な相談支援を実施した。計画相談件数は最大で計233件となった。

利用者の置かれている状況や環境等に応じ、利用者等の選択に基づいた適切な障害福祉サービス等を多様な事業者から総合的かつ効率的に提供し、地域資源との連携及び地域資源の開発を図るとともに、各市町村等との連携に努めた。

また、開設当初から4事業による相談支援を行ってきたが、そのうちの2事業「一般相談支援事業（地域移行支援）」及び「一般相談支援事業（地域定着支援）」については、事業開始時より夜間を含む緊急時の体制が組めず、これまでの実績が0件であり、今後も実績が見込めないため、令和4年度末で廃止とした。

2 重点事項の実施状況

(1) 関係団体との連携強化の継続

コロナウイルスの状況下から関係団体とは主に電話連絡等による継続的な情報共有に努めた。また、事業所等との利用者支援に関する打ち合わせや会議等においては、感染予防対策を講じ、双方の状況を確認の上、協議を重ねたことで連携が図られた。

(2) 利用者の苦情や要望に対する相談体制

利用者との面談・アセスメント等では話しやすい雰囲気づくりに心掛け、より良いサービスに繋がるよう必要な助言等による対応に努めた。

また、感染予防対策を徹底の上、可能な限り自宅または事業所へ訪問し本人や家族の意見を確認することで、意向に沿う計画の提案・作成に努めた。

(3) 年間における黒字収支の維持

当初掲げた年間の計画及びモニタリングの件数と最終的な実績と比較し、件数が増えたことで増収となった（計画：当初74件→実績105件、モニ：当初394件→実績443件）。また、支出においても予算精査に努めたことで黒字収支の維持に繋がった。

(4) 「障害者就業・生活支援センター」との協働

障害者就業・生活支援センターすこやかからの登録者から、就労サポートセンターさつきへの通所利用に繋がった利用者が計4人、外部の就労事業所へ繋がった利用者が計1人おり、サービス利用に必要なアセスメントや行政への手続き、日程調整等、迅速な対応に努めた。

3 職員の状況

職名	管理者	相談支援専門員		合計(人)
		副主任支援員	支援員	
職員数	(1)	1	1	2(1)

※()はさつき寮兼務

4 事業の実施状況

(1) 障害種別利用者人数(重複あり)

内訳	実人員	知的障害	身体障害	精神障害	発達障害	重症心身障害	他
障害者	229	202	40	27	26	0	1
障害児	4	3	1	0	1	0	0
合計	233	205	41	27	27	0	1

(2) 相談方法(実人員に対して重複あり)※なつどまり入所利用者の聴取も訪問に加える

内訳	訪問※	来所	同行	電話	個別支援会議
件数	572	4	66	120	22

(3) 利用者別相談件数

内訳	しらかば寮	さつき寮 ※通所含む	同法人施設、事業所	他法人施設、事業所	合計
平内町(委託)	4	11	29	41	85
他市町村	65	48	26	10	149

(4) 計画相談請求件数

内訳	サービス等利用計画	モニタリング報告書	合計
請求件数	105	443	548

第5 青森県長寿社振興センター

1 概況

青森県長寿社会憲章の「すべての世代のための長寿社会」を念頭に、「生涯現役で活躍できる社会づくり」、「高齢者の健康づくりと介護予防の推進」を目指し安心して元気にいきいきと暮らせる社会づくりの実現に向け、生きがいつくり、健康づくり及び仲間づくりに関する事業を展開した。

2 重点事項の実施状況

(1) あおもりシニアフェスティバルスポーツイベントでの新種目追加開催

多くのスポーツ団体と連携を深めるとともに、県内高齢者の健康増進につなげるため、新種目として太極拳、ソフトバレーボールの2種目を追加してスポーツイベントを開催した。

(2) 世代間交流イベント開催内容の充実

ラインメール青森 FC、民間企業と連携して10月8日、9日に世代間交流イベントを開催した。ラインメール青森 FC の試合会場の観客席に県内高齢者や関係機関等とコレオグラフィアートを作成した。

また、事業団内就労事業所利用者が多数参加し、コレオグラフィアート作成協力及び試合観戦を通して高齢者と世代間交流を深めた。

(3) 介護予防事業人材育成及び受託業務内容の効果測定及び内容見直し

運動指導に関する専門的な知識と技術を習得するため、積極的に各種研修に参加し、質の高いサービス提供に向けて職員の資質向上を行なった。

また、介護予防担当を2人体制にして受託業務内容の見直しを図り、継続的な運動として取り入れやすいセラバンド等の新たなプログラムを取り入れたことで、介護予防教室へ参加される方が増加した。

3 職員の状況

職名	所長 (専務理事兼務)	副所長	事務員	計(人)
職員数	1	1	6	8

4 事業の実施状況

(1) 高齢者のスポーツ、健康づくり及び地域活動等を推進する事業

① 全国健康福祉祭派遣事業

年齢や障害の有無に関わらず、誰もが支えあう地域共生社会を実現するため、神奈川県に選手団を派遣した。

会期	令和4年11月12日(土)～11月15日(火) ※本県選手団は前泊のため、11日(土)出発
開催地	神奈川県(横浜市ほか)
派遣種目等	スポーツ交流大会(10種目)、ふれあいスポーツ交流大会(6種目)、文化交流大会(2種目)、その他(美術展)
派遣人数	116人(選手112人、事務局4人)

② 第23回あおもりシニアフェスティバル(県健康福祉祭)開催事業

県内高齢者の文化活動、スポーツ活動等の祭典とし、健康増進、社会参加及び

世代間交流の促進を図り、みんなが輝ける長寿社会づくりを目的として開催した。

ア 世代間交流イベント

会 期	令和4年10月8日（土）、9日（日）
開 催 地	カクヒログループアスレチックスタジアム
内 容 等	スタジアム観客席にコレオグラフィーの作成
来場者数	1,259人

イ スポーツイベント（15種目）開催内容

開 催 日	令和4年9月11日（日）、25日（日）、10月8日（土）
会 場	新青森県総合運動公園（マエダアリーナ、カクヒログループアスレチックスタジアム）青森市スポーツ会館、ヤクルトスイミングスクール（石江）、青森駅前公園及び新町商店街、八甲田パノラマパークゴルフ場（十和田市）
開催内容	ラージボール卓球、テニス、ゲートボール、ペタンク、弓道、剣道、グラウンド・ゴルフ、なぎなた、水泳、ターゲット・バードゴルフ、バウンドテニス、ウォークラリー、パークゴルフ、太極拳、ソフトバレーボール
参加人数	1,057人

ウ 冬季スポーツイベント

開 催 日	令和4年12月16日（金）、令和5年1月28日（土）
会 場	青森市スポーツ会館（カーリング）、大鰐温泉スキー場（スキー）
開催内容	第11回カーリング交流大会、第12回スキー交流大会
参加人数	50人

(2) 長寿な生活調査・発信事業

高齢者等の生活習慣・生活スタイル等を調査・収集した結果を紹介・広報し、県民の健康意識の向上に役立てていることを目的として事業を実施した。

① 編集委員会

機関誌（あすなろ倶楽部）発行にあたり、調査、掲載内容等について検討・調整するための編集委員会を開催した。

開 催 日	令和4年5月30日（月）
会 場	県民福祉プラザ
開催内容	編集委員の決定、調査・掲載内容等についての検討・調整
参加人数	13人

② シニアライター養成研修会

シニアライターを育成し、本県における長寿者（100歳以上高齢者等）及びその生活習慣・生活スタイル等を調査・収集し、広く県民に紹介・広報することにより、県民の健康意識の向上に役立てることを目的に開催した。

開催日	開催地区	開催会場	参加者数
5月19日（木）	青森市	県民福祉プラザ	14人
5月20日（金）	むつ市	下北文化会館	11人
5月24日（火）	五所川原市	五所川原市中央公民館	9人
5月31日（火）	弘前市	弘前市民会館	7人
6月2日（木）	十和田市	東コミュニティセンター	6人
6月9日（木）	八戸市	八戸市福祉公民館	7人

なお、新型コロナウイルス感染症の影響を考慮し、フォローアップ研修会の開催は中止した。

③ 県民への発信・広報等

ア 機関誌あすなろ倶楽部発行

県民の健康意識の向上に役立てるため、通信員（シニアライター）等が調査・収集した情報及び県民へ向けた暮らしに関する情報等を掲載・発行した。

発行回数	年4回（6月、9月、12月、3月）
発行部数	各回4,000部
内 容	通信員（シニアライター）が調査・収集した長寿者の生活スタイル等の情報及び関係機関への情報発信等

イ 広報活動

当センターの事業紹介を県民にPRするため、パンフレットを作成・配布した。ホームページについては最新の情報を提供するため、事業の実施・募集及び実施内容をその都度更新し、分かりやすい情報掲載に努めた。

(3) 青森シニアカレッジ運営

高齢者に体系的な学習等の場を提供することによって、生きがいのある生活基盤の確立と健康の保持・増進に役立てるとともに地域活動に意欲を持つ人材の育成を目的として開催した。

また、令和4年度から遠方で受講できない高齢者を対象にサテライト講座を実施した。

① 通学総合コース

開催場所	県民福祉プラザ
開催回数	18回
受講者数	58人（総合コース）
内 容	一般教養、健康と生活、地域の歴史・文化等

② 通信教養コース「あおもり長寿セミナー」

放送媒体	RAB青森放送
放送回数	年間12回（毎月最終土曜日6時30分からの30分間）
内 容	生きがいづくりに関わる内容をラジオ放送で県内へ発信した。テキストを作成し学習意欲の向上に努めた。
受講者数	42人

③ サテライト講座

開催日	開催地区	開催会場	参加者数
7月20日（水）	五所川原市	五所川原市中央公民館	13人
11月25日（金）	八戸市	八戸市白山台公民館	15人
1月27日（火）	弘前市	弘前市民会館	15人
2月17日（火）	青森市	県民福祉プラザ	27人
内 容	高齢者を対象としたグループワーク形式の交通安全教室		

(4) 仲間づくり事業（自主事業）

① 元気なシニア総合サポート事業

仲間づくり支援相談員を配置し適切な指導及び助言を行い、健康づくり活動等を行うサークルの情報収集及び情報提供を行った。

② あすなろ友の会支援事業

高齢者自主活動組織「あすなろ友の会（県内6支部 会員数400人）」に対し、助言及び情報提供を行った。

また、あすなろ友の会各支部の会員数の増を目的に、機関誌「あすなろ倶楽部」において各支部の紹介を行なった。

(5) 介護予防事業

市町から事業受託し、高齢者が要介護状態もしくは要支援状態を予防することを目的として実施した。

委託先	五所川原市、大鰐町
開催回数	五所川原市46回、大鰐町49回
内容	運動機能の向上、栄養指導、口腔ケア、認知症予防、閉じこもり防止、脳トレ等
その他	コロナ禍での介護予防の取組として、通信型介護予防事業を実施した。

5 職員研修

職員の資質向上を図るため、一般財団法人長寿開発センター及び関係各機関の開催する研修会に参加した。

第6 青森県発達障害者支援センター

1 概況

当センターは、平成17年12月1日に現在の障害児入所施設八甲学園の附置施設として開設し17年目を迎えた。発達障害者支援センター運営事業の4つの柱である「相談支援」「発達支援」「就労支援」「普及啓発・研修」のほか、当センター独自の事業として、地域の精神科医師による「医療相談」及び、当センター事業で養成した「ペアレントメンターによる傾聴事業」を実施した。

また、「青森県発達障害者支援体制整備事業」について、新型コロナウイルス感染症の影響により、1事業（令和4年世界自閉症啓発デー・発達障害啓発週間 in 青森）を中止した。他事業は、各事業計画に基づき全ての事業を実施した。

県内の複数の医療機関、自治体等と協働し取り組んだ「青森県発達障害専門医療機関初診待機解消モデル事業」では、主に青森市、弘前市の就学前の幼児を対象とし、年間153人の申込を受けた。令和3年度、弘前大学及び青森県と協働で作成し、当センターが発行した「青森県子どもの発達ガイドブック」（令和4年3月29日刊行）は、PDF版として県HP及び当センターHPより無料でダウンロードが可能な設定としたほか、県内全自治体及び保育園等関係機関に無償配布し、幅広く活用してもらう取組を行った。また、県内母子保健、障害福祉課、保育園、児童相談所、相談支援事業所、児童発達支援事業所、特別支援学校、小学校等、支援者を対象とした本ガイドブックの活用方法についての研修会を企画することの必要性を県に提案し開催実施するなど、県内各地域において、本ガイドブックの活用を定着させることを目的とした具体的な取組を行った。

初診待機解消モデル事業等、地域の発達障害児早期発見早期介入に関する当センターの取組は全国からも注目され、国立障害者リハビリテーションセンター発達障害・情報支援センターより全国発達障害者支援センター等を対象とした研修会で本事業の情報発信の依頼を受け、実施した。各地域での発達障害支援体制整備推進を検討する機会となった旨好評を得た。

2 重点事項の実施状況

(1) 地域の発達障害児者及びその家族の権利擁護、意思決定及び個人情報保護を尊重した支援の充実

① 地域の他機関との連携強化

ア 地域連絡協議会：1回開催。

発達障害児の「早期発見・早期介入」をテーマとし、参加機関を東青地区及び下北地区の母子保健・児童相談所、県障害福祉課、青森地区ペアレントメンター等として実施した。各地域の取組や課題等、現状把握を行うとともに、当センターの事業内容、取組の詳細について報告を行った。13機関の参加があった。

イ 初診待機解消モデル事業検討会：2回開催。

参加機関は、本事業連携医療機関、青森県教育庁、各地域児童相談所、各地域教育委員会、障がい福祉課、母子保健課、県障害福祉課、県内発達障害者支援センター、児童発達支援事業所等、21機関の参加があった。

ウ 医療相談：7件実施。

児童～成人まで幅広い年齢層の相談、利用があった。

エ ペアレントメンターによる傾聴事業：9件実施。

児童～成人まで幅広い年齢層のお子さんに関する相談があった。

オ 職員の専門性の向上を目指し、計48回（各職員5回以上）の発達障害及び家族

- 支援に関する専門研修会を受講した。
- ② 個人情報保護の徹底
- ア 第三者と情報を共有することが必要な際、事前に個人情報同意書を必ず得ることを徹底した。
- イ 相談者記録等を保管する書庫の管理（施錠・鍵の管理）、書類及びデータの取扱い等、対応策をまとめ、職員間で徹底した。
- (2) 県内の他の発達障害者支援センターとの連携による地域支援体制整備の推進
- ① 年1回（4月）3センター及び県障害福祉課との情報交換会を実施した。
- ② 県内発達障害者支援センター職員を対象とした勉強会を実施した（8月、12月、3月）。
- (3) 地域の関係機関及び関係施設等の職員の人材育成を通じた地域の拠点作り
- ① 東青地区、下北地区で人材育成を目的とした支援者対象研修会（主催）を、計34回開催した。実施した主な事業は下記のとおりである。
- | | | |
|---|---------------------|------------------------------|
| ア | アセスメントに関する研修会 | （63人受講）※WEB開催 |
| イ | CAREプログラム研修会 | （24人受講） |
| ウ | 発達障害支援公開講座 | （182人受講）※WEB開催 |
| エ | かかりつけ医等発達障害対応力向上研修会 | （77人受講）※WEB開催
（うち医師25人受講） |
| オ | ペアレントメンター養成研修事業 | （8人受講） |
| カ | ペアレントメンターフォローアップ事業 | （15人受講） |
| キ | ペアレントメンター登録 | （31人登録） |
| ク | ペアレント・プログラム事業 | （18人受講※支援者） |
- ② 講師活動を47回（延参加人数1,340人）実施した。
司法・教育・福祉・労働・保育関係・地域民生委員等、多様な機関のニーズに対応した。
- ③ 機関訪問支援を63回実施した。
保育園・幼稚園・小学校、特別支援学校・放課後等デイサービス等、多様な機関のニーズに対応した。
- ④ 医療従事者を主な対象とした研修会を1回実施した。（77人受講※医師25人受講）
県内医師（小児科医・精神科）と協働し、県内医師等医療従事者を主な受講対象者とした発達障害に関する最新の知見、施策等を発信した。
- ⑤ 各地域で研修事業を開催する際、自治体及び地域の関係機関へ事業協力依頼を行い、共催、または後援を受ける等、協働で事業を実施した。
- (4) 地域住民への発達障害についての理解と普及啓発
- ① 世界自閉症啓発デー・発達障害啓発週間はコロナにより中止とした。（未達成）
- (5) 厚生労働省社会・援護局障害保健福祉部障害福祉課障害児・発達障害支援室、発達障害情報支援センター、全国の発達障害者支援センター（特に北東北3県発達障害者支援センター）等との情報交換及び連携
- ① 全国発達障害者支援センター連絡協議会（WEBにて開催）へ職員2人参加した。発達障害児者支援施策に関する国の動きや、最新の知見について学ぶとともに、全国の発達障害者支援センターと情報交換を実施した。
- ② 北東北3県発達障害者支援センター情報交換会（WEBにて開催）へ職員2人参加した。北東北3県の取組について情報共有し、連携を深めた。
- ③ 当センターで主催する研修会（WEB研修会）について、北海道・東北ブロック等

に都度周知を行い、他県発達障害者支援センター職員の受講があった。情報発信及び情報共有に務めた。

(6) その他

① 青森県発達障害専門医療機関初診待機解消モデル事業

ア 青森市 90 人、弘前市 63 人、計 153 人の事業申込があった。

連携医療機関、各自治体、県、教育委員会、保育園、相談支援事業所、療育機関等、関係機関と協働しながら事業に取り組んだ。

イ 本事業の取組の評価を受け、国立リハビリテーションセンター発達障害・情報支援センター主催全国発達障害者支援センター職員等研修会の講師（情報発信）依頼を受けたほか、八戸市障害福祉課より、地域の関係機関職員を対象とした講師依頼を受け、実施した。

3 職員の状況

職名	所長	副主任支援員	支援員	計(人)
職員数	1	1	2	4

4 事業の実施状況

事業内容		実績	
① 発達障害児(者)及びその家族等に対する相談支援・発達支援	実支援人員	1,251人	
	延支援件数	2,635件	
	心理学的判定	98件	
② 発達障害児(者)に対する就労支援	実支援人員	68人	
	延支援件数	113件	
③ 関係施設及び関係機関に対する普及啓発及び研修	ア センター主催又は共催で企画した研修	実施回数	34回
		延参加人数	769人
	イ 外部から講師依頼を受けた研修(講師派遣)	実施回数	47回
		延参加人数	1,340人
	ウ 教育関係者との合同研修会	実施回数	9回
		延参加人数	353人
④ 関係施設・関係機関等の連携	ア 連絡協議会開催回数	実施回数	1回
	イ 調整会議	実施回数	13回
	ウ 機関コンサルテーション	実施回数	63回
	エ 障害者総合福祉法第89条協議会等への参加状況	参加回数	4回
	オ 他の協議会への参加状況	参加回数	12回
⑤ 地域住民等に対する普及啓発	パンフレットの作成	実施回数	0回
⑥ 職員の研修派遣状況		参加回数	48回

第7 ライフサポートあおば

1 概況

「共感・協働・共生」の理念に基づき、知的障害や発達障害、またはそれらが心配される児童が地域で当たり前暮らし続けることを目指した。青森市内やその近郊の2歳から18歳までを主な対象児として、障害児通所支援（児童発達支援事業・放課後等デイサービス事業・保育所等訪問支援事業）と青森市からの委託事業（障害児等療育支援事業）等を通じて、青森市及びその近郊の児童支援・家族支援・地域支援を行った。

コロナ禍のため、外出行事の中止、集合式研修への派遣控え、保護者懇談会・学習会や外部研修のオンライン研修受講など、適宜対応することとなった。

経営面では、新型コロナウイルス感染拡大を懸念した利用自粛及び営業中止及び保育所等訪問支援利用者数の派遣控え、職員配置加算の減少もあり収入は当初見込みより減少した。

法人内・所属内での情報共有・サポート体制を構築し、体制強化を図った。

2 重点事項の実施状況

(1) 安定的な経営基盤の構築

四半期ごとに運営会議にて増収可能な方法（加算取得・利用率向上・契約者増等）の検討を行った。児童発達支援では新規契約児童と契約するまでに期間を要したこと、さらにはコロナ感染症発生による営業停止・利用控えもあり、所属単位で当初の収益見込みを下回った。

(2) 支援力の強化・標準化

個別の発達段階に応じた支援提供のため、3事業所の支援会議でライフステージに合わせた発達チェックのツールを確認し、見直した。支援の中で課題分析シートや自立度のチェック表を活用し、ニーズの整理と自立度の把握を行った。支援の成果について、保護者とは送迎・電話・面談時に、職員間で内容を引き継いだ。

(3) 地域の福祉ニーズ等にもとづく公益的な事業・活動の実施

関係機関へのリーフレットと併せて、子育てに役立つチラシの配布を10月に送付した。また、事業所が有する機能を地域へ還元するためのイベントとして、「ぷちあおば」を開催した。

地域の防災対策として、各事業所がある町会長を訪問した。町会の実情や防災に関する町内での動きについて確認し、有事の協力要請及び情報提供を行った。

(4) 関係機関との連携構築

9月に関係機関マップに記載された機関へ情報発信及び情報共有を行った。あおもり親子はぐくみプラザの「はぐくみ相談」へ相談専門員を派遣するなど、子育て機関との関係構築を行った。

この他、青森県強度行動障害支援者養成研修、青森県サービス管理責任者等研修へ講師派遣を行うとともに、青森県障害者自立支援協議会人材育成部会、青森県知的障害者福祉協会、青森県相談支援専門員等協会、青森県自閉症支援研究会、TEACCH研究会東北支部等への職員派遣を行った。

(5) 保護者向け学習機会の設定

保護者と協働した子育てを実現するため、6月7日に保護者懇談会を、11月8日に「上手にほめよう！～ペアレント・トレーニングを参考に～」というテーマで保護者学習会をオンラインで開催した。

(6) 交通ルールと安全運転意識の向上

アルコールチェック、安全運転研修への派遣、を行いつつ、10月に「安全運転管理要綱」を策定した。3事業所にて2件の交通事故（物損・人身）が発生した。

(7) ICTの活用と業務効率化

3事業所の連携体制の構築と魅力的な支援の創出及び職員間での情報共有のため、年3回、ICT導入検討委員会を開催した。既に活用されているICT機器の活用方法のマニュアル化の他、職員間の円滑なコミュニケーションを促進するため、LINE WORKSを導入した。

各種会議、研修、委員会等はZoomを活用し、日程調整や資料配布・確認のためにサイボウズ、DocuWorksトレイ（VPN）を使用した。所要時間の短縮に繋がった。

3 職員の状況

職名	所長	主任事務員	主任支援員	副主任支援員	支援員	計（人）
職員数	1	1	1	3	13	19

4 職員研修

(1) 内部研修

① 教育・指導体制

ライフサポートあおばのスーパービジョン体制について、指導体制を意識化し、会議、ミーティング、内部研修、面談を実施した。会議設置要綱を見直し、会議の意味合いを確認し、整理した。

② 内部研修

以下のとおり、職員向け内部研修を開催した。

研修名	日程	参加者数
年度当初研修 ～障害福祉概論と職員の役割～	4月11日	4人
個別支援計画作成研修	4月11日	3人
新任・転任職員研修	4月16日	8人
支援技術基礎研修① ～利用者アセスメントについて～	5月11日	5人
虐待防止研修	5月25日	4人
支援技術基礎研修② ～構造化と再構造化について～	6月6日	7人
支援技術基礎研修③ ～コミュニケーション支援とレススタイプ～	7月11日	5人
防災研修	9月12日	4人
支援技術実践研修	9月27日	6人
リスクマネジメント研修	10月12日	4人
看護技術基礎研修（チャレンジ）	11月24日	7人
看護技術基礎研修（デイすこやか）	11月25日	6人
看護技術基礎研修（デイあおば）	11月28日	6人
感染症対策研修	1月24日	5人
新任職員研修	2月6日	1人

身体拘束適正化に関する研修（デイすこやか）	2月14日	6人
身体拘束適正化に関する研修（チャレンジ）	2月15日	7人
身体拘束適正化に関する研修（デイあおば）	2月15日	7人

③ 研究発表

「幼児期支援の効果と支援のあり方について」、「気になる行動がある子どもの支援」の2テーマで取り組んだ。12月18日に行われた青森県保健医療福祉研究発表会、3月9日に行われた八甲学園あおば合同研究発表会にて発表した。

また、TEACCH プログラム研究会東北支部研修会及び青森県知的障害者福祉協会児童発達支援部会からの依頼を受け、実践報告を行った。

(2) 外部研修

コロナ禍により、外部への派遣を最小限とした。派遣された研修については、復命書作成ののち、毎月の支援会議にて伝達を行った。

研修名	日 程	参加者数
相談支援従事者研修（講義部分）	8月23日 ～8月26日	1人
安全運転管理者研修	8月19日	1人
演習講師研修	8月31日	1人
社会福祉施設中堅・指導的職員研修	9月1・2・5日	1人
青森県自閉症支援研究会 自閉症 Web セミナー	9月2日	2人
PECSレベル1ワークショップ	9月6・7・13・ 14日	3人
〃	9月18・19日	1人
〃	11月24・25日、 12月1・2日	1人
強度行動障害支援者養成研修（基礎）	10月27・28日	2人
サービス管理責任者研修（更新）	12月17日	1人
強度行動障害支援者養成研修（実践）	2月7・8日	1人
青森県知的障害者福祉協会 児童発達支援部会& 生産活動・就労支援部会 職員研修会	2月27日	3人
青森県障害者虐待防止・権利擁護研修会	3月1～21日	4人

※法人内主催実施研修を除いて記載

5 行 事

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、以下の2行事を中止とし、それ以外は感染防止対策を取った上で実施した。

●地域交流会（9月予定であったが、子育てに関するチラシの配布に代えた。）

●事業所間交流（11月28日 就労継続支援B型はっこう見学）

行事名	実施日	内 容
運営会議	毎 月	各種課題やリスク回避の検討（リモート開催）
HP・ブログ更新	随 時	活動内容報告。
苦情解決委員会	10月24日	苦情等解決第三者委員を交えた情報共有・意見交換（リモート開催）

虐待防止委員会 身体拘束適正化委員会	10月24日	虐待防止委員との情報共有・意見交換 (リモート開催)
広報誌発行	6月1日 10月1日 3月31日	「あおぼだより」第32号 「あおぼだより」第33号 「あおぼだより」第34号
ふちあおぼ	6月8日 7月6日 9月8日 11月9日 12月8日	参加児の行動観察及び簡易検査(アセスメント) 参加児の行動観察及びコミュニケーション支援、製作活動 参加児の行動観察及び簡易検査(アセスメント) 参加児の行動観察及び製作活動(アセスメント) 参加児の行動観察及び製作活動(アセスメント)
事業所間交流	8月16日	就労サポートセンターさつき見学・作業体験
合同研究発表会	3月9日	2事例発表
非常通報訓練	3月15日	ライフサポートあおぼ非常通報連絡体制

6 健康管理

感染症対策委員会を設置し、計3回委員会を開催した。

感染症の発生及びまん延の予防等に関する取組の徹底を求め、感染力が強く重篤化が危惧される疾病(新型コロナウイルス、インフルエンザ、ノロウイルス等)の情報収集を行った。

指針(感染症マニュアル、応急手当マニュアル)の整備、感染症対策研修の実施等に加え、訓練(シミュレーション)を実施した。

7 安全・防災管理

(1) 感染症・災害発生時の業務継続に向けた計画(BCP)の見直し(年2回以上)

5月、12月の運営会議にて見直しを行った。

(2) リスクマネジメントについての検討機会を設定(月1回以上)

毎月の支援会議・運営会議内において、前1か月で報告のあったインシデント及びアクシデントについて内容を確認し、事後対応の検証及び未然防止策・再発防止策等を検討した。

(3) 自主点検・法定点検

各事業所にて担当者が使用物品(建物・支援備品・消防設備・車両等)の危険箇所自主点検を月1回行い、発見箇所の修繕及び修繕困難箇所を報告した。

消防設備の法定点検は、設備業者に委託し、年2回実施した。

(4) 月1回の避難訓練実施

各事業所で毎月1回、テーマに沿った避難訓練を実施した。実施報告の反省点を、次回の避難訓練に反映させた。

月	訓練内容	月	訓練内容
4月	火災発生	10月	火災発生
5月	感染症	11月	感染症
6月	風水害被害	12月	地震発生
7月	地震発生	1月	不審者侵入
8月	火災発生	2月	地震発生
9月	風水害被害	3月	火災発生

8 ボランティア・実習等の受入れ

実習生を青森県立保健大学・青森大学・弘前学院大学・NHK学園より14人、ボランティアを延べ7人及びインターンシップを延べ4人受け入れた。

なお、受入れにあたっては、新型コロナウイルス侵入を防止するため、養成校に誓約書を求めるなど、細心の注意を払った。

9 地域との連携

青森県立保健大学の臨地教授として5月24日にゲストスピーカーとして講演した。

この他、浪岡地域医療・保育・福祉合同カンファレンス(JOCK)、東青地区特別支援連携協議会のグループワークに参加するなど、地域の取り組みについて参画した。

I デイサービスセンターあおば

1 概況

発達支援を必要とする児童（主に発達障害児）を対象に、アセスメントを行い、本人の特性と発達段階に沿った個別支援計画を作成した。日常生活において自ら気づき、行動できるための支援を行った。

保育園等を併用する児童を中心に、情報共有を強化、連携・協働体の構築を図った。

2 重点事項の実施状況

(1) 利用児童の延人数2,300人以上達成

受入枠がある場合、青森市内の指定障害児相談支援事業所へ2か月に1度、空き状況をFAXにて伝えた。利用児童の延人数は2,296人であった。

(2) 待機者リストの見直し

待機者となった児童のリストについて、適宜待機状況を把握できるよう、新規受付票と待機者リストを一体化させた様式に変更し、10月から活用した。

(3) 駐車場の確保

駐車場の所有者より土地売却の意向が示されたが、買い手がついていないため、現状のまま確保された。

3 利用児童の状況

内 容	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計
児童発達契約者数(人)	21	21	20	21	22	23	24	25	25	24	24	24	
営業日数(日)	19	19	22	20	22	20	20	20	20	19	19	22	242
延べ利用人数(人)	152	158	188	179	197	188	195	193	193	199	177	211	2,230
放課後等デイ契約者数(人)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
営業日数(日)	19	19	22	20	22	20	20	20	20	19	19	22	242
延べ利用人数(人)	7	7	8	6	9	7	4	3	4	3	4	4	66
保育所等訪問契約者数(人)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
延べ利用人数(人)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
延べ利用人数合計(人)	159	165	196	185	206	195	199	196	197	202	181	215	2,296

4 事業の実施状況

(1) 定員

10人（児童発達支援・放課後等デイサービス合わせて）

(2) 概要

① 児童発達支援事業

それぞれの児童の理解度や発達段階に合わせ、コミュニケーション・適切な行動についての支援を行った。

テーマを設け、毎月のイベントを実施した。近所の公園にて遠足を実施するなど、季節を体感する行事を実施した。

保護者見学会と卒園式は、コロナ感染症に留意し、時間や形式を変えて開催した。

② 放課後等デイサービス事業

個々の児童に応じ、コミュニケーション・身辺自立・IADL等の支援を提供した。

③ 保育所等訪問支援事業

職員配置の困難さにより、令和4年5月1日より休止とした。

5 行事

行事名	実施日等	内容
遠足	9月21日	なかよし緑地
保護者見学会	-	新型コロナウイルス感染防止のため中止。
卒園式	3月28日	2家族参加。
	3月30日	1家族参加。
	3月31日	2家族参加。
各種レクリエーション		
ゲーム	11回	季節のゲーム
音楽	12回	季節の音楽
製作	10回	季節の製作活動
外遊び	2回	外出（散歩）
おやつ作り	4回	わたあめ等

II デイサービスセンターすこやか

1 概況

青森市やその近郊に住む発達支援を必要とする主に小学生を対象に、本人のニーズ（発達段階・特性・生活環境など）に沿った支援計画を作成し、さまざまな活動や環境設定から、お子さんの発達や自立を促した。事業所での活動提供と並行して、家庭や他機関への支援（家庭支援・機関連携・移行支援）を行った。

2 重点事項の実施状況

(1) 満足度の向上

利用児童に合わせた支援を提供するため、家族の要望を確認しつつ、アセスメント情報を活かして本人のニーズに沿った個別支援計画を作成し支援を行った。結果、12

月に行った事業所の満足度調査では、前年度より満足度が 21.6%上昇した。

(2) 新規児童受入体制の構築

新規児童の受け入れに際して、11月にフローチャートを作成し、全職員に周知した。

(3) 地域住民とのかかわりの構築

事業所周辺にお住いの地域住民の方々へ広報誌の発行時期に合わせてご自宅等へ訪問し、事業内容をお知らせした。また、ゴミ・落ち葉拾い及び雪片づけの際には挨拶するなど積極的に交流を図った。

3 利用児童の状況

契約者の内訳は、総契約者 27人中、小学生が 22人 (81.5%)、また、青森第二養護学校在籍児が 23人 (85.2%)、特別支援学級等在籍児が 4人 (14.8%) であった。

内 容	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
契約者数(人)	27	27	27	26	26	26	26	26	26	26	26	26	
営業日数(日)	20	19	22	20	22	20	20	20	20	19	19	22	243
授業終了後利用(人)	185	208	259	170	52	232	207	185	194	135	201	180	2,208
学校休業日利用(人)	52	18	0	63	174	0	21	19	22	83	23	80	555
延べ利用人数(人)	237	226	259	233	226	232	228	204	216	218	224	260	2,763

4 事業の実施状況

(1) 定 員

10人

(2) 概 要

小・中学生向け放課後等デイサービスとして、個別の配慮事項に合わせた活動を提供した。指標該当児が多く在籍することから、環境設定と介入方法について支援技術を高め、児童の健全な発達と自立を促した。

5 行 事

行事名	実施日等	内 容
事業所内部研修	毎 月	支援会議前にミニ研修を開催。
地域ボランティア	毎 週	近隣のゴミ・落ち葉拾い・美化活動などを実施。
イベント週間	夏季 2週間	ゲーム・製作・堤川緑地公園散策など。
	冬季 1週間	調理・ゲーム・製作など。

Ⅲ チャレンジサポートすこやか

1 概 況

青森市やその近郊に住む発達支援を必要とする児童を対象に、本人のニーズ（発達段階・特性・生活環境など）に沿った支援計画を作成し、さまざまな活動や環境設定から、お子さんの自立を促した。事業所での活動提供と並行して、家庭や他機関への支援（家庭支援・機関連携・移行支援）、保育所等訪問支援を行った。

2 重点事項の実施状況

- (1) 職員の動きのマニュアル化（放課後等デイサービス・保育所等訪問支援）
 一日の業務の流れなど職員の動きについて4月・12月の支援会議で検討し、マニュアルを見直した。
- (2) 各種加算の取得（放課後等デイサービス）
- ① 家庭連携加算（1ケース）
 相談援助の要望を顕在化させることができず、取得できなかった。
 - ② 関係機関連携加算（2ケース）
 利用児童の保護者から要望があり6月21日、10月12日の2ケース、学校で担当者会議に出席し、情報共有等を行った。
 - ③ 事業所内相談支援加算（5ケース）
 相談援助の要望を顕在化させることができず、取得できなかった。
- (3) 就労支援ニーズのカリキュラム作成（放課後等デイサービス）
 資料集めやカリキュラム化の構成等に時間を費やし、年度中に完成出来なかった。
 同法人内の就労支援B型事業所、生活介護事業所の見学・体験を計画したが、新型コロナの影響での中止もあり、就労サポートセンターさつきの見学及び体験を8月17日、利用児童1人、家族1人、職員2人で実施した。障害者就業・生活支援センター等からの情報収集は、一般就労に関するカリキュラムを必要とするケースがおらず、障害者就業・生活支援センターと連携するについては情報収集するにとどめた。
- (4) 訪問件数月6件以上の達成（保育所等訪問支援）
 4月、各関係機関に障害児療育支援事業と保育所等訪問支援事業の案内を配布した。新規希望児童の利用相談・訪問先への確認・契約・実際の訪問に繋げる過程で、調整に手間取った。そのため、円滑に繋がれず、月6件の達成には至らなかった。

3 利用児童の状況

契約者の内訳は、総契約者27人中、小学生が2人（7%）、中学生が11人（41%）、高校生が14人（52%）。また、青森第二養護学校在籍児が23人（85%）、青森第一高等養護学校在籍児が3人（11%）、特別支援学級等在籍児が1人（4%）であった。

また、保育所等訪問支援では、未就学児2人が契約し、延べ57回の利用があった。

内 容	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
放課後等デイ契約者数(人)	27	27	27	27	27	27	27	27	27	26	26	26	
営業日数(日)	20	19	22	20	22	20	20	20	20	19	19	22	243
授業終了後利用(人)	182	212	230	185	72	214	197	198	196	139	204	152	2,181
学校休業日利用(人)	55	14	0	60	172	0	10	21	36	81	15	91	555
延べ利用人数(人)	237	226	230	245	244	214	207	219	232	220	219	243	2,736
保育所訪問契約者数(人)	4	4	5	5	5	5	5	6	6	6	6	5	
延べ利用人数(人)	4	3	5	6	3	8	7	6	0	5	5	5	57
延べ利用人数合計(人)	241	229	235	251	247	222	214	225	232	225	224	248	2,793

4 事業の実施状況

(1) 定 員

10人

(2) 概要

① 放課後等デイサービス

発達支援を必要とする児童を対象にして、個別の配慮事項に合わせた活動を提供した。細かな環境設定と介入方法について支援技術を高め、作業・生活スキルの定着を狙い、さらには将来の生活に必要な情報の整理と移行支援を行った。

② 保育所等訪問支援

保育所等へ訪問し、本人の行動観察をした上で、児童への直接支援（状況に応じた直接的な関わり）、担任等への間接支援（面談・助言）を行った。

5 行事

行事名	実施日等	内容
事業所内部研修	毎月	支援会議前にミニ研修を開催。
地域ボランティア	毎週	近隣のゴミ拾い・美化活動・雪かきなどを実施。
イベント週間	夏季2週間	買い物外出・調理・製作など。
	冬季1週間	調理・ゲーム・製作など。

IV 障害児等療育支援事業

1 概況

青森市より当事業団が「障害児等療育支援事業」の委託を受け、ライフサポートあおばにて担当した。保育園等からの依頼・紹介も多く、依頼件数が増えた。

2 利用状況

事業内容	件数
訪問による療育指導	32件
外来による専門的な療育相談・指導	14件
療育技術の指導	120件

<令和3年度の実績>

「訪問による療育指導 29件」

「外来による専門的な療育相談・指導 26件」

「療育技術の指導 84件」

第8 就労サポートセンターさつき

1 概況

当事業所の理念である「地域社会と協調し、創造力豊かなサービスをとおして、働く喜びを分かち合います」に基づき、就労支援に特化した事業所として、就労移行支援事業、就労継続支援A型事業、就労継続支援B型事業及び就労定着支援事業を実施し、利用者が地域において自立した生活を送るための支援や一般就労に必要なスキル習得への支援を行い利用者の確保に努力した。このうち就労継続支援A型事業については、令和4年4月から受託した「青森障害者就業・支援センターすこやか」の効果もあり、利用者が急増したところであるが、利用者に支給する賃金及び令和4年10月から法改正となった社会保険事業主負担額の増加に対して、人員不足のため事業継続の原資となる生産活動収入の増加が計画どおり進捗せず、令和4年度末をもって廃止した。

生産活動は、農産・請負班、清掃・請負班、リサイクル班及び就職専科の4班体制で実施した。農産・請負班の水稲事業では、播種から刈取作業まで順調に進捗し、収穫量は約44トン（約748俵）（目標36トン）となり、令和3年度の34トン（約578俵）を大きく上回り、過去2番目の収穫量となった。このうち、主力品種である「まっしぐら」は、10a当たり（1,000㎡・1反）10俵を収穫した。リサイクル班は、農産・請負班と連携して薪の生産に取り組んだ。清掃・請負班においても、事業所清掃終了後はほたて養殖用資材加工のほか薪生産に取り組んだ。就職専科は、青森障害者就業・支援センターすこやかの効果により令和4年8月から開始し、2人の利用者に対し一般就労に必要なハローワークでの求職活動の方法やリラクゼーション方法について支援した。

就労支援事業収入全体では、給食班を廃止したこと、及び令和3年産の米の収穫量が減少したことの影響を受け、約420万円の収入減となったが、経費削減により利用者の工賃を増額することができた。

地域貢献等については、コロナ感染防止策のため近隣住民との交流活動イベントは実施することができなかったが、平内町の地場産業に貢献する作業を生産活動に組み入れ、地域と一体となり事業を展開した。

定員に対する利用率は、コロナ感染防止のための営業停止の影響が大きく、全体で86%（目標90%以上）となった。

令和4年度新規利用者の獲得は、実習等の積極的な受入れにより6人（目標2人）となった。

薪販売総額は、1,919,160円となり前年度（2,325,990円）比5%増の目標を下回った。

事業所の収支差額は、新規利用者数及び生産活動収入は増加しているが、配置人員の person 費の関係により、総収入額の1割以上の目標を達成できなかった。

2 重点事項の実施状況

(1) 「青森就業・生活支援センターすこやか」事業の受託

青森県労政・能力開発課の指定を受け、青森労働局より雇用安定等事業、及び青森県障害福祉課より生活支援等事業を受託し、年間26人（目標10人以上）の一般就労を達成した。

(2) 水稲作付面積の拡大

人員不足により拡大計画に必要な人員を投入できず、拡大できなかった。

(3) 福祉サービス第三者評価の受審

令和4年11月22日に受審し、前回受審時（令和元年度）「B」評価が25項目だった。

たものが、これまで定期的実施してきた「質の向上推進会議」における改善点の具体的な検討により、10項目まで減少した。

(4) 自己評価結果に基づく改善

質の向上推進会議において、令和3年度自己評価結果の改善方針7項目を改善した。

3 職員の状況

職名	所長	副主任 支援員	支援員	事務員	調理員	技能員	運転員	合計 (人)
職員数	1	1	4	2	2	2	3	15

4 利用者の状況

区分	就労移行 支援事業	就労継続支援 B型事業	就労継続支援 A型事業	合計 (人)	就労定着 支援事業(人)
定員	6	17	10	33	
年度当初 利用者数	5 (男4・女1)	22 (男18・女4)	9 (男7・女2)	36 (男29・女7)	3 (男3・女0)
年度末 利用者数	9 (男8・女1)	21 (男17・女4)	11 (男9・女2)	41 (男34・女7)	3 (男3・女0)

※平均年齢(令和4年度末) = 全体: 36歳(男性: 34歳・女性: 46歳)

5 事業の実施状況

(1) 事業概要

① 就労移行支援事業

一般就労を希望する方に、職場実習や一定期間の就労に必要な知識及び能力の向上のために必要な訓練等を行った。

期間	人数	実習場所
7/4	2	㈱ヤマト運輸 青森東支店 平内センター
8/17~8/18	1	ひらないすこやか教室

② 就労継続支援A型事業

一般企業等での就労が困難な方に、雇用して就労する機会を提供するとともに、能力等の向上のために必要な訓練等を行った。

③ 就労継続支援B型事業

一般企業等での就労が困難な方に、就労する機会を提供するとともに、能力等の向上のために必要な訓練等を行った。

(2) 生産活動の売上状況

(円)

班名	令和4年度(A)	令和3年度(B)	前年比(A-B)
農産・請負班	11,743,033	13,251,938	△1,508,905
清掃・請負班	753,600	753,600	0
リサイクル班	10,535,125	11,007,666	△472,541
給食班	0	2,249,000	△2,249,000
計	23,031,758	27,262,204	△4,230,446

(3) 工賃及び賃金の支給状況

区 分	就労移行支援		就労継続支援B型		就労継続支援A型	
	延人数 (人)	支給金額 (円)	延人数 (人)	支給金額 (円)	延人数 (人)	支給金額 (円)
年間合計	50	1,126,021	269	4,950,658	133	10,697,614
1人当たり 月平均額	4.2	22,520.4	22.4	18,403.9	11.1	80,433.2

注：月途中の契約開始及び解除利用者は除外している。

(4) 就職に向けた取組

月日	人数	見学先
11/30	1	げんねんワークサポート(株)

(5) 余暇支援等（行事関係）

月	レクリエーション（土日開所）	地域交流活動等
4月	・保護者懇談会（16日）	・茂浦地区清掃（16日）
5月	・夜越山クロスカンントリー大会（3日） ・調理体験（たこやき作り）（14日） ・春のバーベキュー（21日） ・春の大掃除（28日）	・だいすき海岸清掃奉仕（1日）
6月		
7月	・地引網交流体験（2日） ・大運動会（30日）	・夏泊ほたて海道トンネルマラソン施設開放（17日）
8月	・障害者スポーツ大会事前練習及び映画鑑賞（コロナ感染対策により中止） ・障害者スポーツ大会（コロナ感染対策により中止）	・だいすき海岸清掃奉仕（7日）
9月	・浅虫マラソン大会（11日） ・調理体験（サンドイッチ作り）及び映画鑑賞（24日）	
10月	・アップルワークボウリング大会（コロナ感染対策により中止） ・調理体験（焼きそば作り）及びスポーツ体験（卓球）（コロナ感染対策により中止） ・秋のバーベキュー（29日）	
11月	・大収穫祭（12日） ・調理体験（クレープ作り）及びスポーツ体験（バスケット）（27日）	・だいすき海岸清掃奉仕（1日）
12月	・調理体験（お好み焼き作り）及びスポーツ体験（サッカー）（3日） ・利用者忘年会（10日） ・年末大掃除（24日）	
1月	・カラオケ体験（7日） ・スポーツ体験（フライングディスク）及び映画鑑賞（14日） ・調理体験（焼きそば作り）及びスポーツ体験（ドッチボール）（22日） ・スポーツ体験（ソフトバレー）及び映画鑑賞（28日）	・茂浦青年団権現舞訪問（17日）
2月	・冬のバーベキュー（18日）	
3月	・歓送迎会（25日）	

(6) 送迎体制

コース名	行き先
平内町（野辺地）	小湊、清水川、野辺地
青森市内（東方面）	小柳、戸山、諏訪沢
青森市内（山通り）	観光通り、筒井、戸山
青森市内（浜通り）	青森駅、浪打、八重田

(7) ボランティアの受入れ

土日開所日、大運動会及び大収穫祭において、学生及び地域住民をボランティアとして年間延べ29人受け入れた。

(8) 苦情解決事業等

毎月1回、第三者委員（4人）と面談する機会を設けたほか、随時相談を受ける体制を整備した。なお、実施については虐待防止対応規程と連動し対応した。

区 分	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	計（件）
受付件数	0	0	0	0	0
解決件数	0	0	0	0	0
繰越件数	0	0	0	0	0

(9) 健康管理

次亜塩素酸ナトリウム水溶液による施設内消毒を実施したほか、うがい薬によるうがいと手洗い及びアルコール消毒を利用者に励行し、また、感染症の流行期間においては、利用者に対して感染症の予防方法など説明するなどして注意を促し、感染の防止に努めた。

新型コロナウイルス蔓延防止対策として、厚生労働省の通知に基づき、毎朝自宅において検温し、発熱していないことを確認してから送迎車両に乗ることを徹底した。事業所では外部の訪問者は玄関までとし、事業所内はすべて職員が中継して対応した。

(10) 安全管理・防災対策

火災による避難訓練を年2回（8月18日、2月21日）実施し、利用者の安全確保に努めた。

(11) 所内会議等

会議名	回 数
質の向上推進会議	年4回
給食会議	毎月1回
事業所会議	毎月1回

(12) 職員研修関係

事業所内での勉強会や法人内他部署での実地研修をはじめ、県内で実施する各種研修等に職員を派遣した。

また、支援技術や生産技術の向上を図るための専門的な研修へも積極的に派遣した。

(13) 広報関係

- ① パンフレット・事業概要作成配布
- ② 広報紙「でんでん」年3回発行配布
- ③ ホームページ開設
- ④ 見学者（養護学校教諭・生徒）の積極的な受入れ

(14) 放課後子ども教室（平内町からの受託事業）の運営状況

- ① 営 業 日 毎週月～金曜日

- ② 営業時間 14:30～18:00 (ただし、小学校長期休業期間は 8:00～17:00)
- ③ 利用契約者 25 人
- ④ 協働活動支援員 5 人
- ⑤ 地域コーディネーター 1 人

【令和 4 年度の実績】

区 分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
稼働日数 (A)	20	19	22	19	16	19	14	20	19	17	16	21	222
	20	18	22	19	20	20	21	19	20	17	18	22	236
延利用者数 (B)	105	74	81	132	175	63	42	63	84	101	38	110	1,068
	120	84	101	142	213	104	99	84	114	144	45	112	1,362
1日当たりの 平均利用者数 (B÷A)	5.3	3.9	3.7	6.9	10.9	3.3	3.0	3.2	4.4	5.9	2.4	5.2	4.8
	6.0	4.7	4.6	7.5	10.7	5.2	4.7	4.4	5.7	8.5	2.5	5.1	5.8

※上段：当年度、下段：前年度

(15) 青森障害者就業・生活支援センターすこやか事業

就業及びそれに伴う日常生活上の支援を必要とする障害のある方に対し、センター窓口での相談や職場・家庭訪問等を 2,236 件実施した。

① 就業面での支援

就業に向けた準備支援（職業準備訓練及び職場実習のあっせん）を 49 件及び障害のある方それぞれの障害特性を踏まえた雇用管理についての事業所に対する助言を 136 件（542 回）件実施したほか、関係機関との連絡調整を随時行った。

② 生活面での支援

日常生活及び地域生活に関する助言を随時行ったほか、関係機関との連絡調整を随時行った。

第9 特別養護老人ホームすこやか苑

1 概況

すこやか苑の運営にあたっては、「基本理念」と「基本方針」の実現に向けて、利用者の意思及び人格を尊重し、常に利用者の立場に立ったサービスの提供に努め、利用者の能力に応じ自立した日常生活を営むことができるよう支援した。

利用者の権利擁護の推進にあたっては、年2回外部講師を招いて研修会を実施し、併せて虐待防止・身体拘束廃止委員会を中心に年2回、虐待の芽チェックリストで自己評価後、全体で振り返りと気になる言動についての検討を行い、虐待防止に努めた。

地域や家庭との結びつきについては、11月～12月にかけて新型コロナウイルス感染症のクラスターが発生したため、一時的に交流や面会を中断した時期もあったが、感染状況を見ながら再開した。面会については、タブレット面会からスクリーン越し、対面での面会等柔軟に対応した。ボランティアについても間接的な作業の受入れを行った。

経営面では、地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護で目標としていた、平均利用者数 28.6 人を 1.4 人下回る 27.2 人となった。短期入所生活介護では平均利用者数 8.83 人を目指したが、1.73 人下回る 7.1 人となり、いずれも目標数値に届かなかったが、居宅介護支援事業者及び保健医療機関等と連携を図り、地域密着型入所者生活介護では利用申込者数の増となった。短期入所生活介護では、令和3年度より6人増の13人の新規利用があり、新型コロナウイルス抗原検査を実施した積極的な受入れも行った。

2 重点事項の実施状況

(1) ユニットケアの理念に基づいた個別支援の充実

令和4年度は個別性の強化を図るため、ユニット単位での行事に力を入れ、個別の期待や要望に応える支援に努めた。

施設サービス計画についても、3か月ごとのカンファレンスを開催し、より現状に即したサービスの提供に努めた。

(2) 医療的ケアの充実

看取りケアを含む医療的ケアの研修会を実施するとともに、喀痰吸引等の研修についても新たに1人が資格取得し、他3人については追加研修を受講し、有資格者は7人となった。

有資格者の手技が衰えないよう、積極的に実務に取り組むよう努めた。

(3) 人材確保と定着

新聞折り込みチラシや近隣町会への宣伝活動に積極的に取り組み、事務局キャリア支援課と連携し、介護福祉士養成校へのPR活動を行い人材確保に努めたが、採用後間もない離職も多く、定着についての課題が残った。

(4) 安定的な経営基盤の確保

入居相談や利用申込件数は増加傾向にあるが、職員のマンパワー不足もあり、相談後の入居希望者との面談や入所判定会議の開催が滞ることで、空床期間の短縮化を図ることができず、稼働率に影響をきたした。

(5) 職場環境の改善

介護機器については、3種類試用したほか、移乗ボード等の各種福祉用具を試用し、各ユニットの現状に合わせ、必要とされる用具を揃えることができた。また、ノーリフティングケアへの意識、技術の向上から腰痛軽減にも繋がった。

ユニット間の応援体制については、マンパワー不足もあり応援体制を組むことが難

しい状況となり、多職種が連携を図ることで介護現場の現状を維持することはできたが、職場環境の改善には人材確保と定着が最重要課題となった。

3 職員の状況

職名	施設長	医師	生活支援課長 (生活相談員)	看護職員	介護職員	介護支援 専門員
職員数	1	1 (非常勤)	1	3	20 【22】※2	1
職名	栄養士	機能訓練 指導員	事務員	専任当直員	計 (人)	
職員数	1	1	1	3	33	

【備考】職員全般は、併設短期入所生活介護・介護予防短期入所生活介護の職員兼務。
※管理者・介護支援専門員は介護職員兼務のため【22】に含む。

4 職員研修

外部研修や法人内研修へ職員を派遣したほか、苑内で次の研修会を実施した。

名称	実施時期等	参加者数	備考
新任職員研修会	4/1、4/4、 4/27 12/14～15 12/19	計4人	高齢者施設の基本的知識として、施設理念・事業計画、ユニットケア・介護保険制度、高齢者虐待防止・身体拘束廃止・リスクマネジメント、移乗技術、高齢者の疾病と緊急対応、防災対応について
救命救急研修	4/27、12/14	計24人	急変・緊急時の対応方法、観察項目、報告手順など
感染症対策研修	5/25、10/26	計31人	食中毒や感染症予防策、嘔吐時処理手順、ガウンテクニックなど
高齢者虐待防止・身体拘束廃止に関する研修	6/22、1/25	計42人	中央短期大学講師や社会福祉士から高齢者虐待防止について
リスクマネジメント研修	7/27、12/28	計17人	アクシデント・ヒヤリハットの区別のつけ方や誤薬ゼロを目指して
口腔ケアに関する研修	8/24	計12人	歯科衛生士より、要介護高齢者に対する口腔ケアについて
看取りケア研修	9/28	計12人	がん看護専門看護師、緩和ケア認定看護師からこれからの看取り～平穏死～などについて
利用者支援研修	2/15	計9人	元明の星短期大学教授より利用者支援に求められる「個別性」について
記録の研修	3/8	計9人	中央短期大学講師より介護記録の書き方について

5 行事

(1) 年間行事・クラブ活動

名称	実施時期等	参加者数	備考
花見ドライブ	4/20	21人	桜川通りをドライブし、桜川八甲緑地や陸軍墓地で下車し、花見を実施した
ミニ運動会	6/15	33人	ユニット対抗で玉入れや物品渡しリレーを行った

ねぶた観覧	7/20	33人	すこやか苑内でねぶた運行を行った
夏祭り・居酒屋	8/20	31人	夏に因んだアトラクションや飲食を提供し、季節を感じてもらった
文化祭	11/2	32人	職員、入居者による芸能発表や書道や華道の作品展示、お茶会を開催した
新年会	1/11	33人	新年に因んだアトラクションを提供し、季節を感じてもらった
ミニどらやき作り	3/15	27人	入居者が植付けから収穫まで行った、すこやか苑産大納言でミニどらやきを調理し、美味しく摂取した
【ユニット内行事】 母の日会、父の日会、ドリカムケア（個別支援）、誕生日会、七夕会、丑の日会、新茶を飲もう、十五夜会、敬老会、ハロウィン、秋の果物大収穫祭、リンゴ風呂、クリスマス会、節分会、ひなまつり会			

(2) クラブ活動

名称	実施時期等	参加者数	備考
書道クラブ	月1回	延112人	4/13、5/18、6/22、7/27、8/17、9/21、10/12、11/16、1/25、2/15、3/22
創作クラブ	年3回	延90人	5/11、9/28、3/1
音楽体操クラブ	年5回	延136人	4/27、6/29、8/24、10/26、2/22

(3) 会議・各種委員会等

名称	実施時期等	参加者数	備考
全体会議	年12回	各回約15人	施設長からの指示事項ほか、協議伝達等
ユニットリーダー会議	年12回	各回5人	ユニットリーダーを中心にユニット運営について協議
ユニット会議	毎月1回	各回約5人	各ユニット内の運営やケアについて協議
給食会議	年12回	各回7人	嗜好に合わせた献立、味付け、調理方法（食形態）の検討
サービス担当者会議	入所139回 短期入所17回	各回約7人	施設サービス計画や短期入所生活介護計画書作成など介護方針の協議決定
運営推進会議	年6回	各回6人	施設運営の現状報告、課題等への助言等（利用者はリモート形式で参加した）
苦情解決協議会	年4回	6人	各種苦情解決へ向けての協議（苦情：0件）
苦情解決第三者委員相談日	年9回	延17人	第三者委員が輪番制で訪問し、苦情要望の聞き取りをリモート形式で実施
入所判定会議	年5回	各回9人	入居者の決定に当たり、決定過程の公平性・透明性を確保
リスクマネジメント・感染症対策委員会	年12回	各回約10人	月ごとの事故分析・対策検討 食中毒・インフルエンザ・新型コロナウイルスなど感染症対策について協議

虐待防止・身体拘束廃止委員会	年4回	各回約6人	虐待が疑われる案件や身体拘束が疑われる案件等について協議
褥瘡・排泄ケア委員会	年6回	各回約6人	褥瘡予防改善に向けた検討 排泄ケアについての問題点を検討
ノーリフティングケア推進委員会	年6回	各回約8人	介護機器やノーリフティングケアの導入に向け検討及び腰痛調査、職場環境調査の実施
看取り介護実施委員会	年6回	各回約10人	看取り介護の振り返りと指針やマニュアルの見直し
研修委員会	年7回	各回約6人	内部研修・研究発表に関する企画・実施
広報委員会	年3回	各回約6人	広報発行に係る編集など
防災委員会	年3回	各回5人	防災マニュアルの整備や防災訓練の企画運営など

6 健康管理

内 容	実施時期等	対象者	備 考																																
バイタルチェック	入浴日 ほか随時	全利用者	体温・血圧・SPO2・一般状態の観察等																																
体重測定	毎月	全利用者																																	
配置医診察	毎週木曜日	全利用者	利用者の診察・薬の処方・検査や通院等の指示等																																
通院・往診	随 時	通院が必要な利用者	<table border="1"> <tr> <td colspan="4">(通院)</td> </tr> <tr> <td>泌尿器科</td> <td>13人</td> <td>内科</td> <td>4人</td> </tr> <tr> <td>整形外科</td> <td>5人</td> <td>精神科</td> <td>9人</td> </tr> <tr> <td>皮膚科</td> <td>7人</td> <td>神経内科</td> <td>0人</td> </tr> <tr> <td>外科</td> <td>0人</td> <td>認知症外来</td> <td>2人</td> </tr> <tr> <td>耳鼻科</td> <td>0人</td> <td>循環器内科</td> <td>4人</td> </tr> <tr> <td>歯科</td> <td>0人</td> <td>救命救急</td> <td>3人</td> </tr> <tr> <td>脳神経外科</td> <td>1人</td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>※歯科往診2人 ※延人数、短期入所利用者除く</p>	(通院)				泌尿器科	13人	内科	4人	整形外科	5人	精神科	9人	皮膚科	7人	神経内科	0人	外科	0人	認知症外来	2人	耳鼻科	0人	循環器内科	4人	歯科	0人	救命救急	3人	脳神経外科	1人		
(通院)																																			
泌尿器科	13人	内科	4人																																
整形外科	5人	精神科	9人																																
皮膚科	7人	神経内科	0人																																
外科	0人	認知症外来	2人																																
耳鼻科	0人	循環器内科	4人																																
歯科	0人	救命救急	3人																																
脳神経外科	1人																																		
口腔ケアに係る技術的助言及び指導	月1回	看護 介護職員	歯科医・歯科衛生士による助言指導																																
機能訓練	週2回程度	全利用者	機能訓練計画書による個別機能訓練 短期入所利用者は集団体操																																
訪問理美容	第三水曜日 ほか	151人 ※延人数	訪問美容：毎月第三水曜日 訪問理容：毎月第三木曜日																																

7 安全・防火管理

防災訓練（避難訓練）のほか、消防機器の法定点検・自主点検を実施した。

内 容	実施時期等	参加者数	備 考
防災訓練（地震・夜間火災想定・消化・通報・AED使用訓練）	5/25	52人	職員27人、利用者25人
防災訓練（水害想定・BCP勉強会）	7/20	35人	職員21人、利用者14人

防災訓練（火災想定）	10/19	45人	職員21人、利用者24人
------------	-------	-----	--------------

8 地域（住民・ボランティア）との連携と地域貢献

内 容	実施時期等	参加者数	備 考
虹ヶ丘町会 春の清掃	5/8	5人 (職員)	地域貢献
虹ヶ丘町会 ひまわり通り花壇の花植え	5/29	6人 (職員)	地域貢献
車椅子清掃・室内の拭き掃除	5/9	2人	ボランティア
清拭布の裁断・公用車の清掃	5/30	2人	ボランティア
車椅子清掃・室内の拭き掃除	6/6	2人	ボランティア
環境整備	6/13	2人	ボランティア
浜館地区社会福祉協議会 こころの縁側事業 レクリエーション講師	10/17	2人 (職員)	地域貢献
車椅子清掃・室内の拭き掃除	10/19	1人	ボランティア
浜館地区社会福祉協議会 こころの縁側事業 レクリエーション講師	10/21	2人 (職員)	地域貢献
公用車の清掃・清拭布の裁断	11/16	1人	ボランティア

9 実習の受入れ

内 容	実施時期等	参加者数	備 考
2022年度青森明の星短期大 学介護実習	9/6～9/25	2人	青森明の星短期大学2年生ⅡC介 護実習
令和4年度青森県立保健大 学社会福祉基礎実習	7/6	4人	青森県立保健大学1年生社会福祉 基礎実習
令和4年度青森県立保健大 学ソーシャルワーク実習	8/8～8/24 9/1～9/15	1人	青森県立保健大学3年生ソーシャ ルワーク実習

10 事業概要

I 地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護（ユニット型）

(1) 概 況

ユニットケアの理念に基づいた個別支援に重点を置き、入居前と入居後の生活が連続したものになるよう、利用者一人ひとりの個性や生活リズムを尊重しながら各ユニットにおいて相互に社会的関係を築き自律的な日常生活を営むことができるよう支援した。

令和4年度の入退居状況については、入居が7人、退居が8人という状況であった。平均介護度は4.1、平均年齢は90.5歳だった（令和4年度末時点）。

稼働率は、平均93.0%で前年度比△3.7%となり目標を下回る結果となった。第3四半期にはクラスターの発生に伴い、基礎疾患を抱えている入居者2人が入院に至った。

その後も、介護スタッフの欠員補充が整わない状況が続き、稼働率の低下に繋がった。

【入退居内訳と稼働率】

※月末時点

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
入居(人)	0	0	0	0	1	1	2	1	0	0	0	2	7
退居(人)	1	0	0	1	0	2	0	1	0	2	0	1	8
稼働率(%)	92.9	93.1	93.1	91.2	88.4	95.4	94.9	92.8	90.2	92.2	89.6	90.1	93.0

(2) 定員

29人 (10人×2ユニット、9人×1ユニット)

II 短期入所生活介護・介護予防短期入所生活介護

(1) 概況

居宅の要介護者等に、利用者の自律生活を保障する個室と、少人数の家庭的な雰囲気の中で生活できるユニットケアを提供するとともに、その家族の身体的、精神的負担を軽減できるようサービスを提供した。

短期入所生活介護においては、前年度同様、新型コロナウイルス感染症対策の一環として、受入れや利用方法に制限を設けた。

令和4年度の新規利用者は13人、平均介護度は2.9、平均年齢は89.2歳だった(令和4年度末時点)。

稼働率は、平均71.5%で目標を下回る結果となった。新型コロナウイルス感染症対策を継続する中で、居宅介護支援事業者及び保健医療関係機関等と連携しながら、新規利用者の獲得と継続性のある利用に努め、令和3年度より6人増の13人の新規利用者を獲得したが、長期的利用には結びつかなかった。

【入退所内訳と稼働率】

※月末時点

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
入居(人)	0	0	1	1	2	3	3	5	0	6	4	10	35
退居(人)	1	1	0	0	3	2	6	4	1	2	2	8	30
稼働率(%)	76.0	65.8	67.6	72.3	77.7	70.6	68.3	63.3	65.8	70.0	77.4	83.6	71.5

(2) 定員

10人 (10人×1ユニット)

※上記ほか、併設・空床利用型であるため、地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護における空きベッド利用可。

III 入退所状況

地域密着型入所者生活介護		短期入所・介護予防短期入所生活介護	
定員	29人	定員	10人
令和4年度内延入所者数	7人	令和4年度内延利用者数	98人
令和4年度内退所者数	8人	令和4年度内延利用件数	1681件
令和4年度末現在の入所者数	28人		

第10 就労サポートセンターはくちょう

1 概況

令和4年度の運営にあたっては、事業所の理念である「地域の中で、自分らしく、生き生きとした生活を続けられるサポートをします」に基づき、就労継続支援B型事業と共同生活援助事業を一体的に運営した。特に、権利擁護の遵守、意思決定支援を最大限に尊重し、利用者の思いや価値観を大切にする等、その人らしく生きがいを持って生活を送ることができるよう障害特性に合わせたサービス提供に努めた。

就労継続支援B型事業では、経営基盤の強化に向け新規利用者獲得、実習生の受入れ、利用率の向上に加え、家族との個別面談、医療機関への付き添い等を行うことで、利用者一人ひとりに寄り添った支援体制の充実に努めた。

共同生活援助事業においては、多様なニーズに対し適切なサービスが提供されるよう研修計画に則った各種研修へ積極的に参加し職員の資質向上に努めた。さらに、高齢化対策として利用者、家族等の意向を踏まえ、ライフステージに合った高齢者施設への移行を随時行った。

新型コロナウイルス感染症により、グループホーム2棟で5人の利用者が罹患したことにより事業所の一時休業を余儀なくされたが、罹患者の早期回復、感染防止対策の強化を図り感染拡大には至らなかった。また、計画していた行事（旅行、外出等）については感染症の動向を見ながら規模縮小、内容の変更を随時行い、感染対策を行ったうえで食事会等に変更した。

事業所（グループホームを含む）の理解促進、地域住民との交流を目的に、地域の清掃奉仕活動、花壇整備等へ積極的に参加するとともに、広報誌等を通じて情報発信を行った。

2 重点事項の実施状況

(1) 利用者の特性に応じた支援体制の構築

障害の多様化に伴い、一人ひとりの障害特性に合わせた支援体制の構築、権利擁護の推進に向け、研修計画に則った事業所内外の研修へ積極的に参加した。

精神疾患等により休みがちな利用者に対しては、家族を交えた面談、医療機関への同行、利用者の特性に応じた作業時間の設定等、一人ひとりの働き方に合わせた体制作りに努めた。

(2) 安定的経営基盤の構築

就労継続支援B型事業における、年間平均利用率では104.2%（前年比+5.7%増）、1日あたりの平均利用者数は20.8人と令和3年度を大きく上回る結果となった。

生産活動では、清掃、請負の二体制で実施した。請負班では、市内企業からの受注を一部拡充したところではあるが、新型コロナウイルス感染症の影響により、請負作業全般において受注減少が顕著に見られ、平均工賃額は令和3年度を下回った。

共同生活援助事業においては1人の方と契約を締結したが、高齢に伴う身体機能の低下等により3人の方が高齢者施設（内2人は法人内事業所）へ、1人の方が青森市内のGH（法人内事業所）へ移行した。

(3) 共同生活援助事業における安定的運営体制の整備

老朽化に伴い修繕等が必要なグループホームについては、所有者へ情報提供を行うとともに、平内町内で新たな物件候補として見込みのある所有者へ事業所の意向を伝えた。

(4) 感染症予防や災害発生時における管理体制の整備

感染症委員会を中心に、各種マニュアル（BCPを含む）の見直しと外部講師による利用者向けの学習会を実施し意識付けを行った（12/23 感染症に対する学習会）
さらに、自然災害（地震、風水害等）及び不審者の侵入を想定した訓練を計画的に実施し、危機管理に対する情報を共有した。

(5) 社会参加の促進

新型コロナウイルス感染症の動向を見ながら利用者の意向に沿った開所日を年間26回開催するほか、コロナ禍で自粛していた青森市内での各種イベントへ参加した。

また、白鳥を守る会主催の浅所海岸清掃奉仕活動（4月、10月）、地域のイベント（小湊駅前の花壇整備、フラワーロード等）、近隣保育施設との交流行事へ積極的に参加し、地域住民との交流を深めた。

SDGs（持続可能な開発目標）への取組では、青森ねぶたの廃材を活用したうちわ（約90枚作成）を地元大学と連携して作成した。

3 職員の状況

職名	センター長	副主任 支援員	支援員	事務員	調理員	世話人	合計 (人)
職員数	1	2	6	1	2	6	18

4 利用者の状況

区分	就労継続支援B型事業	共同生活援助事業	備考
定員(人)	20	19	
年度当初利用者数 (人)	25 (男18、女7)	19 (男13、女6)	
年度末利用者数 (人)	25 (男19、女6)	16 (男11、女5)	就労B 契約4 解除4 GH 契約1 解除4
平均年齢 (令和4年度末)	37歳 (男:38歳、女28歳)	46歳 (男45歳、女47歳)	

5 事業の実施状況

(1) 実施事業

① 就労継続支援B型事業

一般企業等での就労が困難な方に、就労する機会を提供するとともに、能力等の向上のために必要な訓練等を行った。

② 共同生活援助事業

地域で生活を営む利用者に、共同生活を営むための相談、日常生活上の援助、他の共同生活援助への移行に向けた支援を行った。

(2) 生産活動の売上状況

内容	金額	主な作業内容
清掃	2,999,587円	近隣福祉施設、公衆トイレ及び当事業所の一般清掃
請負	2,182,880円	漁業資材加工、連携商品製造、企業からの受注作業、除雪等
計	5,182,467円	

(3) 工賃の支給状況

区 分	支給計画	支給実績	備 考
1人当たり 平均月額	13,810円	13,322円	平均月額は、時間給をベースに算出（総支給額÷ 支払い対象者）※工賃には一時金（年2回）を含 む

(4) 利用者の特性に応じた支援等

多様化する個別のニーズに対し、適切なサービスが提供できるよう施設外の研修へ積極的に参加するとともに、DVDやオンライン研修、内部研修を充実させ、障害特性の理解とサービスの質の向上に努めた。

(5) 余暇支援等

① 土日開所日（26回）

月	内 容（就労継続支援B型）	内容（共同生活援助）
4月	・浅所海岸清掃奉仕活動（17日） ※平内町白鳥を守る会主催 ・所内行事 こいのぼり作り（23日） ※保護者懇談会を兼ねる	
5月	・所内行事 スポーツ体験（7日） ・所内行事 スイーツ作り（14日） ・所内行事 スナックピザ作り（21日） ・フラワーロードボランティア（28日）	花見会（3日）
6月		小湊駅前の花壇整備（4日）
7月	・所内行事 盆踊り大会（2日） ・所内行事 アメリカンドッグ作り（9日） ・大運動会（30日）	
8月	・所内行事 かき氷コンテスト（27日）	お楽しみ会（12日、26日）
9月	・所内行事 はくちょうボッチャ大会（3日） ・ウォークラリーin青森市（25日）	
10月	・浅所海岸清掃奉仕活動（8日） ※平内町白鳥を守る会主催 ・コレオグラフィーアート作成&サッカー観戦 in青森市（9日） ・所内行事 スイーツ作り（29日）	
11月	・所内行事 お寿司の日（5日） ・所内行事 スポーツ大会（19日）	
12月	・所内行事 クリスマスツリー作り（10日） ・所内行事 忘年会（17日） ・所内行事 クリスマス会（24日）	クリスマス会（23日）
1月	・所内行事 新年会（7日） ・所内行事 福笑い（14日） ・所内行事 カップケーキ作り（21日） ・所内行事 キラキラインテリア作り（28日）	利用者新年会（27日）
2月	・所内行事 チョコスイーツ作り（11日）	
3月	・所内行事 歓送迎会（18日）	

② 事業所内での余暇支援

利用者からの要望に応え卓球用具、野球用具を充実させたほか、ボランティアを活用した将棋対局など、余暇活動の充実と利用者の健康増進に努めた。

③ その他

共同生活援助スワンハイムが主催する利用者1泊旅行については、新型コロナウ

イルスの感染拡大を鑑み中止とし、各グループホーム内での食事会を開催した。

(6) 食事（昼食）提供

希望者に対して、当事業所職員が調理する食事を提供した。なお、摂取カロリー制限食を希望する方には希望するカロリーで食事を提供した。

また、毎月開催する給食会議において、利用者からの嗜好・要望を伺った内容を翌月の献立に反映するとともに、なつどまり管理栄養士の監修を受け食事を提供した。

(7) 送迎体制

送迎車両 4 台体制で利用者の送迎を行った。

コース名	行き先
Aコース	小湊、東滝、東和
Bコース	内童子、小湊
Cコース	小豆沢、小湊、盛田
Dコース	浜子、清水川、東北町

(8) 実習生等の受入

区分	受入期間	人数	学校等
実習	6月13日～6月24日（10日間） ※新型コロナウイルス感染状況に配慮しながら短期間での実施となった	1人	青森県立第二養護学校

(9) 苦情解決事業及び虐待防止対応

毎月1回、第三者委員と面談する機会を設けたほか、随時相談を受けることができる体制であることを説明して利用を促した。なお、実施にあたっては、虐待防止対応と連動し対応した。

区分	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	計
受付件数	0	0	0	0	0
解決件数	0	0	0	0	0
繰越件数	0	0	0	0	0

(10) 健康管理

利用者の健康状態の把握に努め、疾病の早期発見に努めた。

新型コロナウイルス感染症対策として、家族と情報共有する目的で「行動履歴帳」の協力を依頼し、罹患者の早期発見、事業所内へ感染を持ち込まないよう努めた。

さらに、感染症に対する意識付けを図るため、外部講師による学習会を開催した。

(11) 安全管理・防災対策

防災計画に則り、総合避難訓練を年2回実施したほか、風水害や津波を想定した避難訓練、地域の指定避難場所の確認を実施し非常時の対応に備えた。さらに、暴風警報及び大雪警報時には繰上送迎を実施し、安全に帰宅できる対策を実施した。

事業所内外の事故を未然に防ぐため、リスクマネジメント委員会を計画的に行い再発防止に努めた。

【避難訓練実施状況】

	就労サポートセンター はくちょう	グループホームスワンハイム		
		第1	第2	第3
第1回	7月26日	6月29日		
第2回	1月11日	1月30日		
風水害（地震、津波）を想定し、建物内での垂直避難訓練を実施		12月27日		
不審者対応訓練		9月28日		

(12) 地域貢献・地域交流

- ① 平内町白鳥を守る会主催の浅所海岸清掃奉仕活動（4月、10月）へ延べ31人の利用者、職員が参加し、地域貢献と地域住民との交流を目的に参加した。冬期間においては、浅所海岸の除雪作業も行った。
- ② ハクチョウのまち再生事業（平内町教育委員会）実行委員会にオブザーバーとして参加した。
- ③ 近隣保育園との交流については年4回予定していたが、新型コロナウイルス感染症の動向に配慮し年3回交流行事に参加した。また、感染リスク回避のため状況に応じて、グラウンドの開放を通じて関係性の維持に努めた。
- ④ 地域貢献の一環として、「利用者負担金等軽減制度」を設け、地域生活を希望する障害者の社会参加を促した（令和4年度利用者3人）。

(13) ボランティアの受入れ

受入人数	延べ日数	備考
1人	2日	余暇活動の支援（将棋相手）

(14) 所内会議

会議名	回数	備考
臨時全体会議	年1回	
事業調整会議	年3回	事業計画等について協議
就労・生産支援会議	毎月1回	利用者支援及び生産活動について協議
GH（世話人）会議	毎月1回	共同生活を営むための相談、日常生活上の援助について協議
給食会議（利用者）	毎月1回	嗜好に合わせた献立、食生活における注意点の協議伝達
事業所会議	毎月1回	管理者からの指示事項ほか、協議伝達等
モニタリング調整会議	年2回	利用者の生活支援、作業支援について、個別支援計画を策定

(15) 職員研修関係

人材育成実施要綱及び研修計画に基づいた施設内外の各種研修へ積極的に参加するとともに、感染症対策としてオンライン研修の充実を図り、専門的知識の習得と質の高いサービス提供に向け職員の資質向上に努めた。

(16) 広報関係

事業所リーフレット及び広報紙（年3回発行）を作成し、関係機関及び団体等に配布した。また、ホームページ等により事業所のPRに努めた。